

41294

教科書文庫

4
920
42-1919
20000 2/580

Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

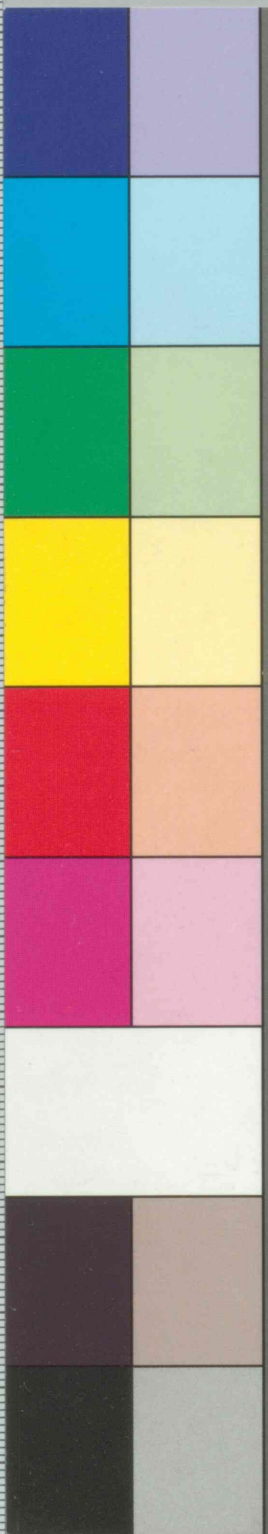
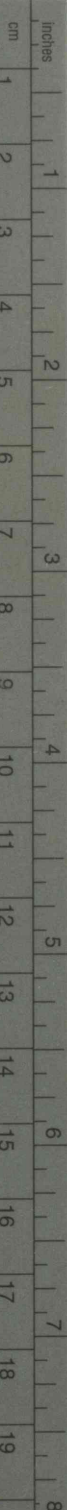


© Kodak, 2007 TM: Kodak

Kodak Color Control Patches

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

© Kodak, 2007 TM: Kodak



375.1
Kyol8
資料室

裁縫新教科書
上巻



375.9
Ky018

大正八年五月二十日
文部省檢定
女子師範學校高等女學校用教科書

共三女子
職業學校
梅友舎裁縫研究部編



裁縫教科書上巻

大正八年五月二十日
文部省檢定
女子師範學校高等女學校用教科書

東京大日本圖書株式會社

凡例

- 一 本書は實科高等女學校用を主とし、高等女學校女子師範學校用の裁縫教科書として編纂したるものにして、分ちて上下二卷となせり。
- 一 教材は文部省所定の教授要目に據りたれども、更に本部が多年研究したる實地の成績と教授の理論とに照らして其の序次を定めたり。
- 一 小細工物の如き嚴密に序次を定めがたきものは、便宜一括して之れを卷末に置きたり。教授者宜しく適當に選擇按排して之れを教授すべし。
- 一 學校の種類により教授時數を異にし、隨ひて教授事項にも自

凡例

一

凡例

ら繁簡の別あり。故に教授者は本書記載のものにつき、或る事項は反復實習せしめ、或る事項は單に參考に止むる等適當に斟酌する所あるべし。

大正七年三月

共立女子職業學校櫻友會裁縫研究部

代表者 中川とろ 識

裁縫新教科書 五卷

目次

第一章	總論	一
第二章	裁縫の基礎的技術	五
第一	運針	五
第二	絲の結び方	七
第三	絲の留め方	八
第四	絲の縫ぎ方	九
第五	縫ひ合せ方	一〇
第六	襷の掛け方	一五
第七	紵け方	一六
第八	衣類仕立の心得	一八

目次

一

第三章 単衣襦袢

第一節 本裁襦袢

第一 本裁襦袢各部の名稱

第二 本裁襦袢普通仕立上げ寸法

第三 本裁襦袢裁ち方積り方

第四 本裁女襦袢標附け方

第五 本裁女襦袢縫ひ方順序

第二節 四つ身襦袢

第一 四つ身襦袢普通仕立上げ寸法

第二 四つ身襦袢裁ち方積り方

第三節 三つ身襦袢

第一 三つ身襦袢普通仕立上げ寸法

第二 三つ身襦袢裁ち方積り方

第四節 一つ身襦袢

第一 一つ身襦袢普通仕立上げ寸法

第二 一つ身襦袢裁ち方積り方

第四章 本裁女單衣

第一 女單衣各部の名稱

第二 本裁女單衣普通仕立上げ寸法

第三 本裁女單衣裁ち方積り方

第四 部分縫袖

第五 本裁女單衣標附け方

第六 本裁女單衣縫ひ方順序

第五章 本裁男單衣

第一 本裁男單衣普通仕立上げ寸法

第二 本裁男單衣裁ち方積り方

第三	部分縫	揚	五〇
第四	本裁男單衣標附け方	五一
第五	本裁男單衣縫ひ方順序	五三
第六	本裁單衣各種裁ち方積り方	五三
第六章 中裁小裁單衣 五五				
第一節 四つ身單衣 五五				
第一	四つ身單衣普通仕立上げ寸法	五五
第二	四つ身單衣裁ち方積り方	五七
第三	四つ身單衣標附け方	五九
第四	四つ身單衣縫ひ方順序	六一
第二節 三つ身單衣 六三				
第一	三つ身單衣普通仕立上げ寸法	六三
第二	三つ身單衣裁ち方積り方	六三
第三	部分縫	筒袖元祿袖	六六

第四	三つ身單衣標附け方縫ひ方順序	六六
第三節 一つ身單衣 六九				
第一	一つ身單衣普通仕立上げ寸法	六九
第二	一つ身單衣裁ち方積り方	七〇
第三	部分縫	潤袖	七二
第四	一つ身單衣標附け方	七三
第五	一つ身單衣縫ひ方順序	七四
第四節	中裁小裁單衣各種裁ち方積り方	七六
第七章 綿布の繕ひ方 八三				
第一	接ぎ方	八三
第二	繼ぎ方	八五
第八章 本裁女袴 八六				
第一	本裁女袴各部の名稱	八七

第二章	本裁女衿裁ち方積り方	八八
第三章	部分縫袖襦	九〇
第四章	本裁女衿標附け方	九六
第五章	本裁女衿縫ひ方順序	九七
第九章 本裁男衿		
第一	本裁男衿裁ち方積り方	九九
第二	本裁男衿標附け方	一〇一
第三	本裁男衿縫ひ方順序	一〇二
第十章 四つ身衿		
第一	四つ身衿裁ち方積り方	一〇四
第二	四つ身衿標附け方縫ひ方	一〇五
第十一章 本裁女綿入		
第一	本裁女綿入裁ち方積り方	一〇八

第二章	部分縫袖襦	一〇九
第三章	本裁女綿入標附け方縫ひ方順序	一一三
第十二章 本裁男綿入		
第一	本裁男綿入裁ち方積り方	一一九
第二	本裁男綿入標附け方縫ひ方順序	一二九
第十三章 一つ身綿入		
第一	一つ身綿入裁ち方積り方	一二三
第二	部分縫 潤袖	一二三
第三	一つ身綿入標附け方縫ひ方順序	一二四
第十四章 本裁中裁小裁の各種裁ち方積り方		
第十五章 長襦袢		
第一	裕長襦袢各部の名稱	一三三

第二 裕長襦袢普通仕立上げ寸法……………一三三

第三 裕長襦袢裁ち方積り方……………一三三

第四 裕長襦袢標附け方……………一三六

第五 裕長襦袢縫ひ方順序……………一三九

第十六章

女袴

第一 女袴各部の名稱……………一四二

第二 本裁女袴(後三つ壁)普通仕立上げ寸法及び各部寸法
割出し方……………一四四

第三 本裁女袴(後三つ壁)裁ち方積り方……………一四五

第四 本裁女袴(後三つ壁)標附け方……………一四七

第五 本裁女袴(後三つ壁)縫ひ方順序……………一四九

第六 本裁女袴(後一つ壁)……………一五〇

第七 本裁女袴(後重ね壁)……………一五七

第八 中裁小裁女袴普通仕立上げ寸法……………一五八

第九 中裁小裁女袴裁ち方積り方……………一五九

第十七章

本裁女綿入羽織

第一 本裁女綿入羽織各部の名稱……………一六三

第二 本裁女綿入羽織普通仕立上げ寸法……………一六三

第三 本裁女綿入羽織裁ち方積り方……………一六三

第四 部分縫身頃襦袢……………一六六

第五 本裁女綿入羽織標附け方……………一七一

第六 本裁女綿入羽織縫ひ方順序……………一七〇

第十八章

本裁男綿入羽織

第一 本裁男綿入羽織普通仕立上げ寸法……………一七六

第二 本裁男綿入羽織裁ち方積り方……………一七七

第三 本裁男綿入羽織標附け方縫ひ方順序……………一七八

第十九章

本裁裕羽織

第一 本裁男裕羽織……………一七九

第二 本裁女衿羽織 一八三

第三 本裁羽織各種裁ち方積り方 一八四

第二十章 中裁小裁綿入羽織

第一節 四つ身綿入羽織 一八八

第一 四つ身綿入羽織普通仕立上げ寸法 一八八

第二 四つ身綿入羽織裁ち方積り方 一八八

第三 四つ身綿入羽織標付け方縫ひ方順序 一九〇

第二節 三つ身綿入羽織 一九〇

第一 三つ身綿入羽織普通仕立上げ寸法 一九〇

第二 三つ身綿入羽織裁ち方積り方 一九一

第三節 一つ身袖無綿入羽織 一九二

第一 一つ身袖無綿入羽織普通仕立上げ寸法 一九二

第二 一つ身袖無綿入羽織裁ち方積り方 一九三

第三 一つ身袖無綿入羽織標付け方 一九四

第四 一つ身袖無綿入羽織縫ひ方順序 一九五

第四節 中裁小裁羽織各種裁ち方積り方 一九六

第二十一章 子供腹掛寝冷え知らず

第一節 子供腹掛 二〇〇

第一 子供腹掛裁ち方 二〇〇

第二 子供腹掛縫ひ方順序 二〇〇

第二節 寝冷え知らず(二二三歳用) 二〇一

第一 寝冷え知らず(二三歳用)裁ち方 二〇一

第二 寝冷え知らず(二三歳用)縫ひ方順序 二〇二

第三節 寝冷え知らず(五六歳用) 二〇三

第一 寝冷え知らず(五六歳用)裁ち方 二〇三

第二 寝冷え知らず(五六歳用)縫ひ方順序 二〇四

第二十二章 婦人股引 二〇五

第一 婦人股引 二〇五

第二 襠附婦人股引 二〇七

第二十三章 手提 二〇九

第一 輕便手提 二一〇

第二 輕便底附手提 二一一

第三 籠千代田 二一四

—(目次終)—



裁縫新教科書五卷

第一章 總論

衣類の裁縫とは、總べて、布帛の積り方、裁ち方、縫ひ方及び繕ひ方等をいひ、何れの家庭にありても、必要ならざるはなし。又これらは女子に適當せる仕事にして、我が國に於ては、古來之れを以て女子の修むべき技藝中、最も重要なものとなせり。

衣類の裁縫は、衣類の種類によりて、其の方法を異にするのみならず、材料の品質により取扱ひを違へざる可らず。されば、裁縫を修むる者は、諸種の衣類に亘りて、其の方法を攻究すべきは

勿論、各種の材料につきて、それらの取扱ひ方を學ぶべきなり。運針は縫ひ方の基本にして、其の習熟の如何は裁縫の巧拙速に關すること最も大なり。されば、運針は獨り初學に於て大に之れを努むべきのみならず、上級に至りても、尙ほ常に其の練習を怠るべからざるなり。

衣類は部分によりて、其の扱ひ方を異にせるが故に、各種の衣類につき、所謂部分縫の練習に力を用ふることは、技藝の上達に頗る必要なり。

衣類の裁ち方、積り方は、衣類を調製するに當り、第一に心得置かざるべからざることなり。而して、其の裁ち方、積り方は、布幅の廣狹、或は兩面、片面等の相違により、多少の工夫を要すべし。されば、先づよく其の普通なる方法を會得して之れを譜記し、然

る後ち、之れを種々の布帛に應用せんことを努むべし。

要するに、技藝の熟達を圖るには特に反覆練習を肝要とす。故に、之れを學ぶ者は、成るべく寸暇を利用して練習を積み、以て神速巧妙の域に達せんことを心掛くべし。

一 裁縫用具

裁縫用具の主なるものを擧ぐれば、左の如し。

針はり 針箱はりば 裁板たいた 尺度さかじ 鋏はさみ 指貫ゆびぬき 篋かぶ 火熨斗ひのし アイロン
 烙鏝こて 烙鏝板こてい 霧吹きりふき 火熨斗蒲團ひのしぶたん

其の外、衣紋掛いもんか、綿延臺わたのべだ、帶締器おびしり、續飯板つづきい、續飯篋つづきい、自打錐うちづい、鑿孔穿臺あなほら、槌つちの如きも、時に必要あるが故に、豫め備へ置くを宜しとす。

針には、普通針、印針、メリケン針等の種類あり。之れを用途に

よりて區別すれば、縫針（長さ凡そ一寸）、待針（長さ凡そ一寸九分）、紵針（長さ凡そ一寸六七分）、綴針（長さ凡そ二寸）等となる。縫針は摘みて指貫に當て、指頭より凡そ二分程長きを適度とす。

二 絲

裁縫に用ふる絲の主なる種類を擧ぐれば左の如し。

- 一、縫絲（ひいと） 木綿絲 唐絲 小町絲 絹絲 麻絲
- 二、賤絲（しついと） 唐絲 絹絲（ソベ） 麻絲 唐麻絲
- 三、飾絲（かざりと） 練繰（ひいと） 太白（たいはく） 蛇腹絲（ぢばいと）
- 四、ミシン絲 カタン絲 羽二重絲 孔絲

三 衣類

普通衣類に屬するものの名稱を擧ぐれば、大畧左の如し。

- 襦袢 單衣 袷 綿入 帶 綿入羽織 袷羽織 單羽織
- 袴 被布 合羽 コート 涎掛 前掛 シャツ スボン下
- 足袋 腹掛 股引 脚半 夜着 蒲團 蚊帳

第二章 裁縫の基礎的技術

第一 運針

運針を習ふには、教師の指導に基きて姿勢を正し、素縫より始めて本縫に入り、最初は専ら正しき姿勢を保ちて、正しき手指の運用を學ばんことを勉め、稍其の要領を得るに至らば、針目の大小、縫ひ目の曲直等に注意し、次第に練磨の功を積み、精巧と迅速

と両ながら備へんことを努むべし。若し、手指の運用或は身體の姿勢に悪しき癖を生ずることあらば、それは、啻に技術の上達に不利なるのみならず、終には、身體の健康を損する虞れあるべし。

運針の練習をなすにあたりて、特に注意すべき事項を擧ぐれば、左の如し。

- 一、上體を眞直にし、下腹に力を入るべし。頭を垂れ胸部を壓迫すべからず。
- 二、眼と用布との距離は凡そ八・九寸、兩手の開きは凡そ五・六寸を適度とす。
- 三、軽く兩腕を張り、左右の拇指を相向はしめて、同時に兩手を働かすべし。

〔附言〕 運針練習のため、並幅二尺の天笠木綿又は絹布(上級)を用意すべし。又部分縫の練習には、綿及び無地木綿にて、並幅二尺五寸、半幅二尺三寸、四つ割幅一尺八寸の布各一枚を準備すべし。

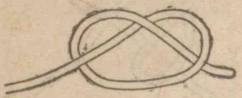
第二 絲の結び方

こま結



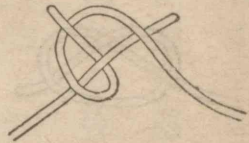
一、こま結 絲の兩端を取りて、圖に示す如く結び合す仕方なり。袷綿入などに於て袖口・袖附八つ口袷先等の留めをなす場合に、多く此の結び方を用ふ。

留結



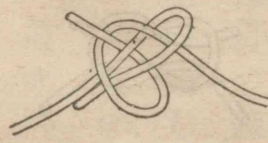
二、留結 絲の端を食指の先に巻き、拇指の腹にて其の絲を撚りながら結ぶ仕方なり。多く縫ひ始めに用ふ。

機結



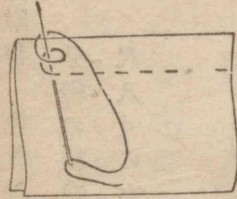
三、機結 絲の兩端を取り、右を下に左を上重ねて左の食指の上に置き、右の絲を廻して、左の絲の下より、兩端の絲の間を通し、右端の絲を輪の中に入れ、其の先を左の拇指にて押へ、右にて引き締むる結び方なり。

機結



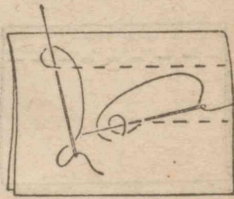
第三 絲の留め方

打留



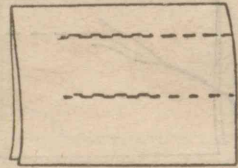
一、打留 針に縫絲をからめて左の拇指にて押へ、引き締むる仕方なり。主に、袖下・胴接ぎ・伏せ縫などの留め方に用ふ。
二、抄ひ留 縫ひ終りの所にて、布を僅に抄ひ、其の絲を、左より右の方へ、針にからめて引き締むる

抄ひ留



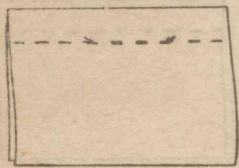
仕方なり。主に、袖口・袖附・身頃の八つ口衿附などの留め方に用ふ。
三、返し留 縫ひ終りを一寸餘り縫ひ戻し置く仕方なり。主に、脊脇衽・袖口・袖附などの始め終りの留め方に用ふ。

返し留



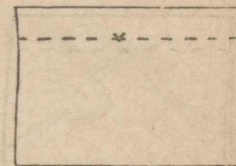
第四 絲の継ぎ方

重ね継



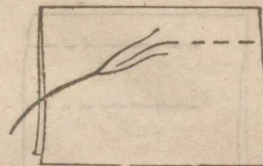
一、重ね継 運針の途中にて絲の盡きたるとき、其の絲を縫ひ込みの方へ一針縫ひて留め、更に絲の端を留め結となし、一寸程手前より、前の縫絲の針目に掛けて縫ひ重ねる仕方なり。多く縫ひ合せの場合に用ふ。

結び縫



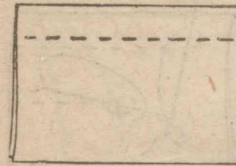
二、結び縫 機結にて継ぐ仕方なり。主に耳紬又は麩の場合に、途中にて糸を継ぎ足すときに用ふ。

撚り縫



三、撚り縫 継ぐべき糸の端を二つに割り、其の割りたる糸の細き方に、元の糸を一寸程撚り合せ、更に之れを他の方に撚り合す仕方なり。主に、縫ひ合せ又は紬の場合に用ふ。

合せ縫

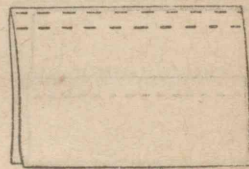


一、合せ縫 布を重ねて、普通に縫ひ合はす仕方をいふ。

第五 縫ひ合せ方

衣服の縫ひ代は凡そ二分五厘、針目は、綿布に

二重縫



ては一分五厘以内、絹布にては一分以内、被せは五厘を普通とす。

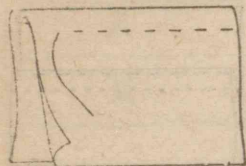
二、二重縫 合せ縫の後、縫ひ目の開かざるやう、更に本縫に沿ひて、端の方を縫ひ合す仕方なり。

本裁單衣の脊などに用ふ。

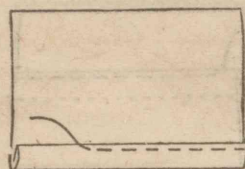
三、三つ折り縫 布の端を二度折り、裏折り代の端を並縫になす仕方にして、風呂敷敷布類の端縫に用ふ。

四、袋縫 最初に布の裏を合せて、一分許りの縫ひ代に縫ひ、折りを附けて引き返し、更に圖の如く縫ひ合す仕方なり。單衣の袖下・四つ身及び三つ身の脊衽などを縫ふ場合に用ふ。

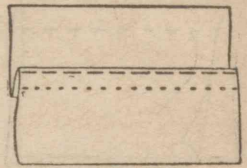
袋縫



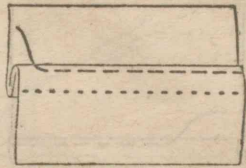
三つ折り縫



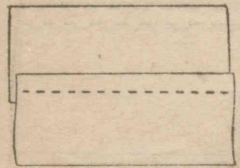
伏せ縫



折り伏せ縫



重ね縫

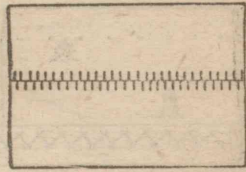


五、伏せ縫 布を重ね、一枚を二・三厘引きて縫ひ合

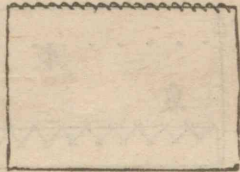
せ、縫ひ込みの狭き方へ折り、針目を三・四分とし、表には小さく一針つつ出して、縫ひ込みの端を伏せ附くる仕方なり。布の縫ひ込み二枚共に裁ち目のまゝなるときは、一方の布を一分五厘程引きて縫ひ、他方の布にて、其の裁ち目を包み、然る後、前の如く伏せ附くべし。之れを折り伏せ縫といふ。これらの仕方は、風呂敷などを縫ひ合す場合に、縫ひ込みをおさふるに用ふ。

六、重ね縫 裁ち目のまゝ三・四分重ねて二行又は一行に縫ひ合す仕方なり。紐の心地などを足す場合に用ふることあり。

突き合せ縫



まとい縫



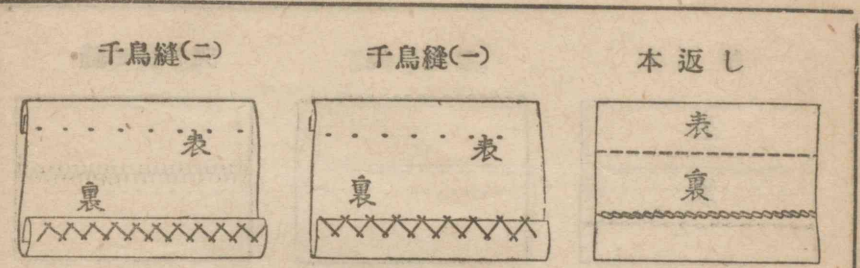
半返し



七、突き合せ縫 裁ち目のまゝ布を突き合せ、針目を一分許りとなし、一針抜きにて、交互に、双方の布端に一分程づつ掛けて、縫ひ合す仕方なり。總べて心地の足らざるとき、之れを足す場合に用ふ。

八、まとい縫 布の裁ち目の解れを防ぐために、裁ち端を巻きながら縫ひ行く仕方なり。鈎衿、衿、肩明、其の他解れ易き所に用ふ。

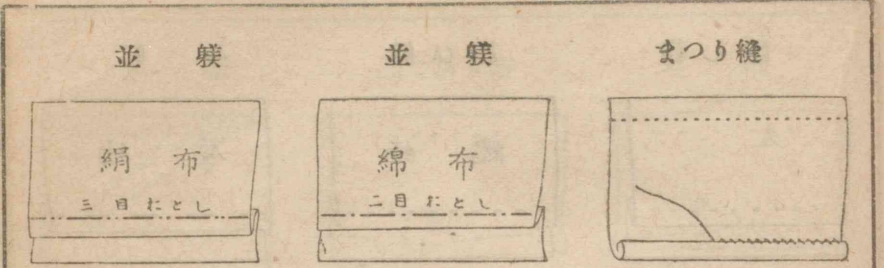
九、返し縫 本返し、半返しの二様あり。半返し(三分返しともいふ)とは、布を合せて一針抄ひ、其の三分の一後に返りては又さきを抄ふ。此の如く繰り返して縫ひ行く仕方なり。主に、縫ひ



合せを密接ならしめんがために用ふ。布を一針抄ひては其の二分の一後に返り、之れを繰り返して縫ひ行く仕方を本返し(二分の一縫)といふなり。主に、ミシン縫の代りに用ふ。

二、千鳥縫 布の端を折りて、其の左方より糸を掛け始め、先づ表の地糸を一・二本抄ひ、次に一分餘り斜に、裏折り代の端より一分程の所を抄ひ、再び前の如く、表地を抄ひ、交互に之れを繰り返して掛け行く仕方なり。毛織又は厚地の單衣仕立などに於て、伏せ縫或は縮をなすべき場合に此の縫ひ方を用ふ。

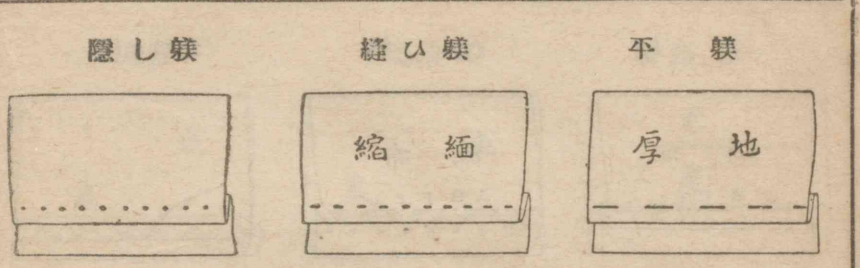
圖の一はネルの類に、二はセルの類に施す仕方を示せるなり。



二、まつり縫 布を折り、右の端より糸を掛け始め、先づ表の地糸を一・二本抄ひ、其の針尖を裏折り代の端に通し、二・三厘左の方へ斜に進み、前の如く表を抄ひ、又裏折り代の端に通し、此の如くして繰り返して進み行く仕方なり。主に、毛織又はミシン仕立に於て、縮の場合に此の仕方を用ふ。

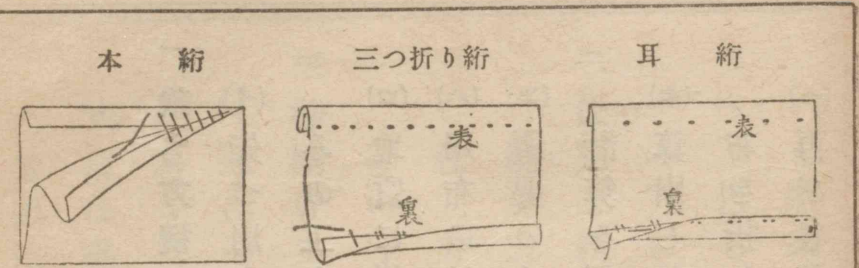
第六 襷の掛け方

一、並襷 被せ山より一分五厘程内に、小針を凡そ一分五厘、大針を凡そ七・八分の針目に襷を掛くる仕方なり。小針の數によりて二目おとし、三目おとしの稱あり。主に、袖裾衿下などに用ふ。



- 二、平襞 羽織の衿などの厚地には、表を一寸二三分、裏を四・五分許りの針目に襞を掛く。之れを平襞といふ。
- 三、縫ひ襞 縮緬・メリンスなどの地質に、並縫の針目にて襞を掛くるをいふ。
- 四、隠し襞 折り被せの亂れを防がん爲に施す襞にして、針目を六・七分許りとし、表には小さく一目づつ出して襞け置き、着用の際にも取り除かざるものなり。多く、袂先綿入羽織の前下り胴接ぎなどの所に用ふ。

第七 縮け方



- 一、耳縮 布の耳を一度折りて、針目を表に小さく一つ、裏に二つづつ出し、間を五・六分に、耳より五厘許り内を、中を通して縮ける仕方なり。多く、単衣仕立の場合に用ふ。
- 二、三つ折り縮 布の端を二度折りて、表に小さく一目づつ針を出し、間を四・五分に、折り山の内側を通して縮け行く仕方なり。単衣の袖口・衿下裾縮等に用ふ。
- 三、本縮 双方の布の端を折り合せ、針目を三・四分とし、折り山より五厘許り内を、縫ふ如くに、針を運び行く仕方なり。綿入の袖口・八つ口衿下・本裁女物の裏衿及び紐等を縮ける場合に用ふ。

第八 衣類仕立の心得

一、裁ち方・積り方

- (イ) 先づ用布を開きて、織疵・染斑・汚點等の有無、並に其の伸び縮みの工合を改む。
- (ロ) 地質に従ひて、適宜に裏の方より地伸しを行ふ。
- (ハ) 用布の總尺を測る。
- (ニ) 所要の寸法(例へば、袖丈又は身丈の如し)に基きて、積り方の計算を行ふ。
- (ホ) 算出したる各部の裁ち切り寸法(袖丈・身丈・衿・衽)によりて用布を折る。
- (ヘ) 再び各部の寸法に誤りなきかを檢し、先づ袖・身頃、次に、衿・衽

と順次に裁ち切る。

但し、用布に織疵などのあるときは、成るべく之れを隠る方に廻して裁ち合すをよしとす

二、仕立上げ寸法につきての注意

縫ひ方は精巧なるも、仕立上げ寸法の身體に適合せざるは、仕立方の不注意なり。されば、身體の肥瘠・長短を考へて、標準の寸法に斟酌を加ふること肝要なり。

三、標附け方の際、用布の据ゑ方

- (イ) 布帛の表を中にして重ね合せ、袖・身頃・衿・衽等、總へて上體に當る方を左手の方に置く。
- (ロ) 袖は袖口の方を向ふに、袖附の方を手前になし置く。
- (ハ) 身頃は衿・肩明の方を手前に、後身頃の方を上層に置く。

- (二) 衿は衿下の方を手前の右手に置く。
- (ホ) 衿は山の方を左方に、附の方を向ふに置く。

四、縫ひ方

標通り折りを附け、待針を打ち、針道を正しく縫ひ、充分に糸を扱とくべし。然らざれば、縫ひ目に伸び縮みを生じて、仕立ばへ宜からず。且つ綻はらびやすき憂あり。

五、仕上げ

縫ひ上がらば、仕立上げ寸法を検し、針などの粗忽なきかを調べ、絲屑塵埃等を拂ひ、然る後ち、地質により霧若くは火熨斗・アイロンを用ひて丁寧ていねいに仕上げをなすべし。火熨斗を用ふるときは、其の加減を試み、白綿モス等の布片を當て、裏より始めて表に火熨斗を掛け、終りて本疊になすべし。

以上述ぶる所は、衣類仕立に關する心得の大要なり。これらは裁縫の全般に亘りて必要なる事項なれば、豫めよく熟知し置かざるべからず。以下煩雜を避け、特に必要ある場合の外は、每章之れを再説せず。

〔注意〕 總べて、裁ち方積り方の場合には、適宜に縫ひ込みの寸法を見込みて、仕立上げ寸法に加へ置くものなり。之れを裁ち切り寸法といふ。

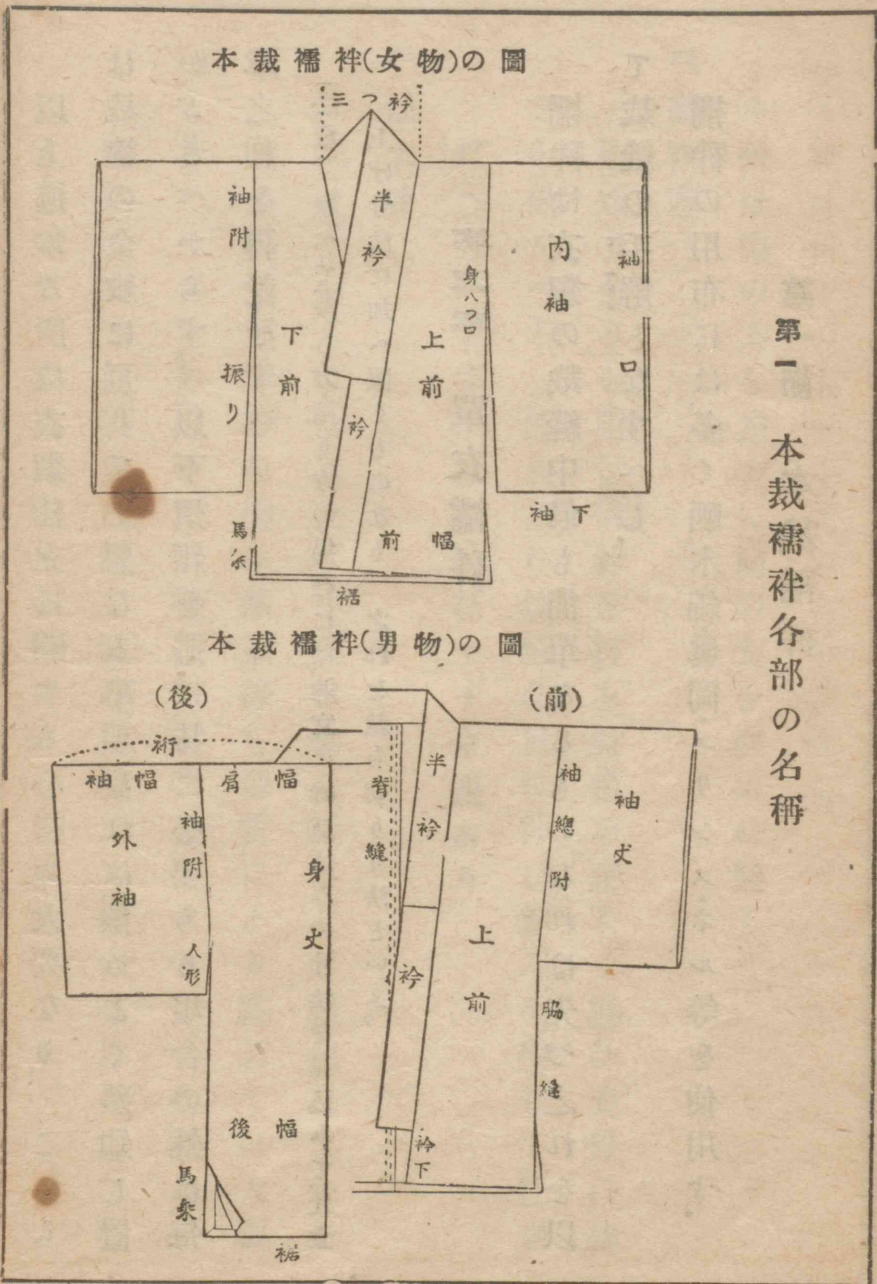
第三章 單衣襦袢

襦袢は衣類の裁縫中最も簡單なるものなれば、先づ之れを以て、裁縫の手解てとなすべし。

襦袢の用布には、多く晒木綿・眞岡・メリンス・ネル等を使用す。

第一節 本裁襦袢

第一 本裁襦袢各部の名稱



第二 本裁襦袢普通仕立上げ寸法

女物		男物	
袖丈	一尺五六寸	袖丈	凡そ一尺二寸
袖附	凡そ六寸	袖附	一尺五分
袖幅	八寸四分	袖幅	八寸五六分
身丈	一尺七八寸	身丈	二尺二三寸
衿肩明	二寸二分	衿肩明	二寸一分
後幅	七寸五分	後幅	八寸
前幅	凡そ六寸五分	前幅	七寸五分
身八つ口	三寸五分	衿幅	一寸五分
馬乘	三寸五分	馬乘	四寸

二尺幅六尺六寸にて
本裁男襦袢の裁ち方並に裁ち切り寸法

積り方
(袖丈+身丈)×2=用布の總尺
(12 + 21)×2= 66

一尺幅七尺二寸にて
本裁女襦袢身頃の裁ち方並に裁ち切り寸法

積り方
身丈×4=用布の總尺
18 × 4 = 72

〔注意〕 總べて、積り方の計算には、公式算式の別あり。以下皆同様なり。

肩廻し及び縫ひ代を加へ、之れを用布の總尺より減じ、其の殘尺を四除するときは、袖丈を得るなり。

並幅一丈五尺七寸にて

本裁女襦袢の裁ち方並に裁ち切り寸法

用布の折り方

積り方

公式 { 用布の總尺 - (袖丈×4 + 衿肩廻し及び縫代) } ÷ 5 = 身丈
算式 { 157 - (16 × 4 + 3) } ÷ 5 = 18

公式 { 用布の總尺 - (身丈×5 + 衿肩廻し及び縫代) } ÷ 4 = 袖丈
算式 { 157 - (18 × 5 + 3) } ÷ 4 = 16

公式 袖丈×4 + 身丈×5 + 衿肩廻し及び縫代 = 用布の總尺
算式 16 × 4 + 18 × 5 + 3 = 157

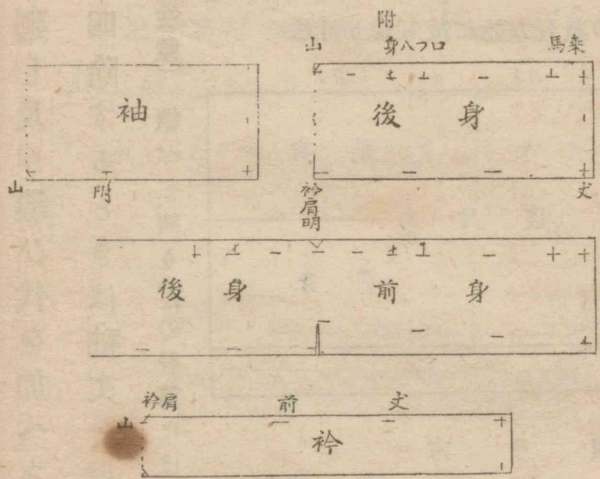
上式の如く、所要の袖丈を四倍して之れに衿肩廻し及び縫ひ代の三寸を加へ、之れを用布の總尺より減じ、其の殘尺を五除せば、身丈を得、又其の身丈を五倍して衿

第三 本裁襦袢裁ち方積り方

〔設問〕

- (1) 並幅にて袖丈一尺二寸、身丈二尺二寸の、男物半襦袢の總尺を求めよ。
- (2) 大幅二尺物と並幅物と積り方の相違を述べよ。
- (3) 襦袢の積り方にて、袖の別切れなるとき、身頃の總尺を算出する法如何。

本裁襦袢標附け方



- 一、袖 筥臺に正しく据ゑ、山・丈・附幅の順に標を附く。
- 二、身頃 筥臺に正しく据ゑ、山・丈・附八つ口・馬乗・後幅の順に標を附け、後身頃を左に開き、前幅の標を附く。
- 三、衿 筥臺に正しく据ゑ、山・丈・幅の順に標を附く。

第四 本裁女襦袢標附け方

布の重ね方及び据ゑる方などは、第二章に述べたるが如し。又
 筥標の消え易き品には、肝要の所に、縫ひ標をなし置くを宜とす。

〔附言〕 標附け方につきて、男物の女物に異なる所は、八つ口を省きて、袖を總附或は人形附になすにあり。其の他、中裁小裁に於ては、仕立寸法の差異あるのみにして、其の扱ひ方は何れも皆同じ。

第五 本裁女襦袢縫ひ方順序

- 一、袖 袖下を袋縫始めは幅折り代の二倍程端を縫ひ残す)になし、内袖の方へ折りを附け置く。
- 二、身頃 衿肩明をかゞり、脊を二重縫になし、之れを左身頃の方へ折る。
脇を縫ひ、前身頃に折りを附けて割り躰をなし、次に、縫ひ込

みを、馬乗より八つ口まで、身頃に綴ち附け、裾は馬乗下の角を三角に折りて、衿に縫ひ込む部分を除き、三つ折り縮となす。

三、衿 衿山を脊に合せ、左右前先まで標を合せ置き、下前より上に縫ひ廻し、衿の方へ折りを附く。身頃の縫ひ代は脊の所にて二分五厘、衿肩廻しの所にて一分とす。

三つ衿切れを入れ、縫ひ込みに綴ち附け、幅を折り、衿先の留より一分先きを縫ひ、裏の方へ折り、縫ひ込みを綴ち、引き返して下前より縮け始め、上前にて縮け終る。

四、袖附 袖山と肩山とを合せ、其の他の標も正しく合せ置き、袖を見て縫ひ附け、折りを袖に返し、直に入つ口を縮ける。身頃の縫ひ代は肩山にて一分五厘程とし、袖附留まで斜に折る。

五、半衿 衿に心切れを當て、裏衿と縫ひ合せ、裏を一分引き、半衿幅を定め、總體に襷を掛け、次に、表裏に縮け附け、其れより衿絲を附けて、縫ひ上りとす。

〔附言〕 男物は袖の長短により、總附或は人形附などの違ひ、中裁小裁に於ては、寸法の差あるのみなり。半衿は衿幅通りに掛くべし。其の他は、總べて女物に準ず。

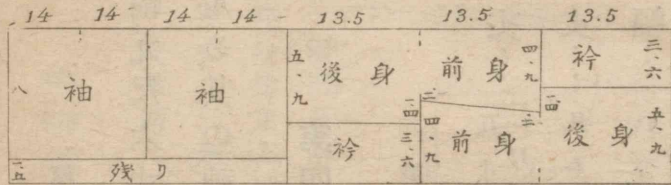
地質の厚き物は、半返しにして之れを割り、縫ひ込みは折らず、袖裾などは二つ折りにして、總べて、千鳥縫又はまつり縫を施すなり。

第二節 四つ身襦袢

第一 四つ身襦袢普通仕立上げ寸法

袖丈	一尺四五寸	袖附	四寸五分	袖幅	七寸九分
身丈	一尺四五寸	肩幅	いっばい	衿肩明	一寸五六分
後幅	いっばい	前幅	凡そ六寸	身八ッ口	三寸

三つ身襦袢の
裁ち方並に裁ち切り寸法



積り方

(用布の總尺 - 袖丈 × 4) ÷ 3 = 身丈
 (96.5 - 14 × 4) ÷ 3 = 13.5

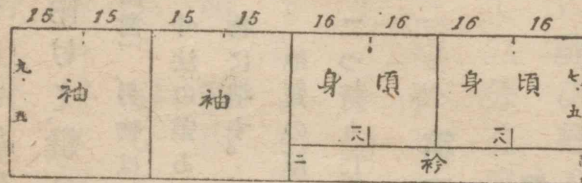
(用布の總尺 - 身丈 × 3) ÷ 4 = 袖丈
 (96.5 - 13.5 × 3) ÷ 4 = 14

身丈 × 3 + 袖丈 × 4 = 用布の總尺
 13.5 × 3 + 14 × 4 = 96.5

- 袖丈……………一尺二三寸
- 袖幅……………六・七寸
- 袖附……………四寸
- 身丈……………一尺二三寸
- 肩幅……………いっばい
- 衿肩明……………一寸一二分
- 後幅……………いっばい
- 前幅……………いっばい
- 身八つ口……………二寸五分
- 衿幅……………一寸一二分
- 馬乗……………二寸五分

第三節 三つ身襦袢
第一 三つ身襦袢普通仕立上げ寸法

四つ身襦袢の
裁ち方並に裁ち切り寸法



積り方

(用布の總尺 - 袖丈 × 4) ÷ 4 = 身丈
 (124 - 15 × 4) ÷ 4 = 16

(用布の總尺 - 身丈 × 4) ÷ 4 = 袖丈
 (124 - 16 × 4) ÷ 4 = 15

(袖丈 + 身丈) × 4 = 用布の總尺
 (15 + 16) × 4 = 124

並幅一丈二尺四寸にて、
 四つ身襦袢の袖丈を一尺
 五寸と定め、其の身丈及び
 用布の總尺を求むる方法
 は、上記の計算によりて、之
 れを知るべし。
 [設問]
 四つ身襦袢を裁ち切る順序
 を述べよ。

第二 四つ身襦袢裁ち方積り方
 衿幅……………一寸二三分
 馬乗……………三寸

第二 三つ身襦袢裁ち方・積り方

並幅九尺六寸五分の用布にて、三つ身襦袢の身丈一尺三寸五分と定め、其の袖丈を求むるには、前記の計算による。

第四節 一つ身襦袢

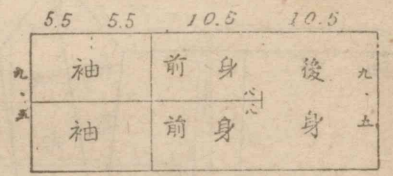
第一 一つ身襦袢普通仕立上げ寸法

- 袖丈……一尺二寸五分以上
- 袖附……三寸
- 袖幅……いっぱい
- 身丈……凡そ一尺
- 肩幅……いっぱい
- 衿肩明……凡そ八分
- 後幅……いっぱい
- 前幅……いっぱい
- 身八つ口……二寸五分
- 衿幅……凡そ八分
- 馬乘……二寸

第二 一つ身襦袢裁ち方・積り方

並幅三尺二寸にて

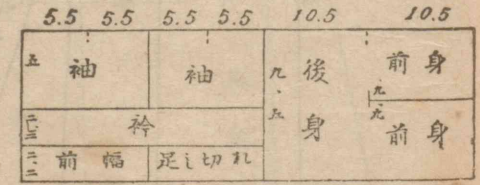
一つ身襦袢の裁ち方並に裁ち切り寸法
衿には別に半幅一尺二寸の切れを用ふ



積り方

(用布の總尺 - 身丈 × 2) ÷ 2 = 袖丈
 (32 - 10.5 × 2) ÷ 2 = 5.5

並幅にて一つ身襦袢の
裁ち方並に裁ち切り寸法



積り方

袖丈 × 4 + 身丈 × 2 = 用布の總尺
 5.5 × 4 + 10.5 × 2 = 43

〔注意〕 襦袢を用ふるには、前幅に足し切れを入れ置くを便とす。

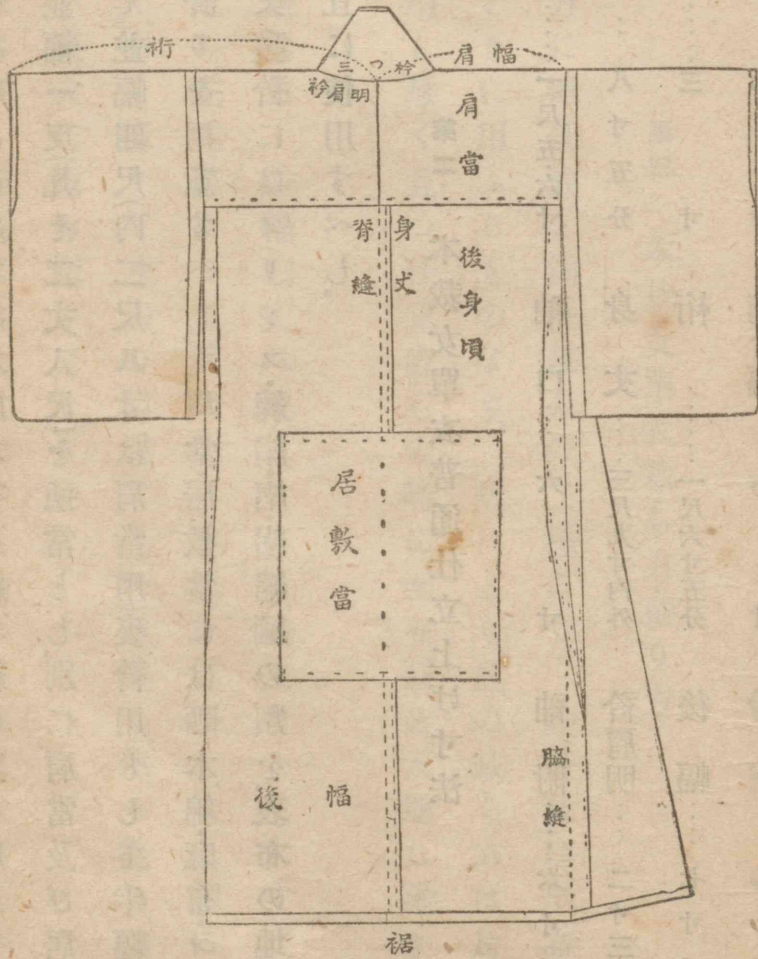
襦袢の仕立上げ寸法は、著物の寸法を標準とし、左の如く詰むるを適當とす。

袖丈二三分 袖附二分 袖幅一分 衿肩明一分

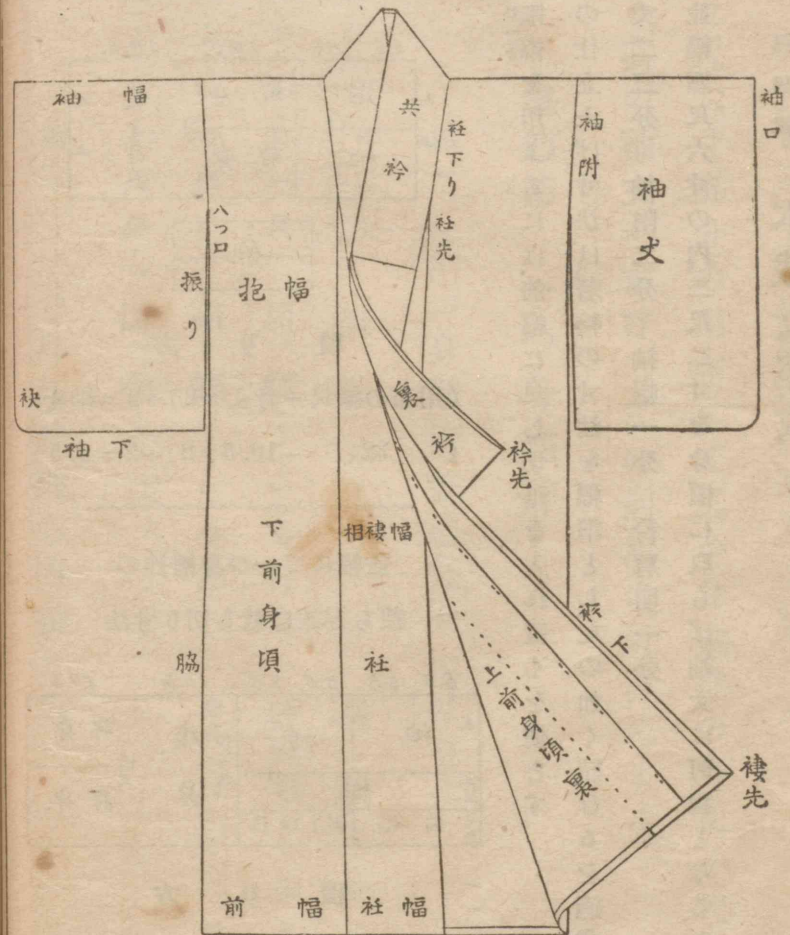
〔設問〕 並幅四尺六寸の内、二尺二寸を身頃に取り、袖丈は何程となるか。

第四章 本裁女單衣

女單衣(後)裏の圖



女單衣(前)表の圖



第一 女單衣各部の名稱

單衣の材料には、綿布絹布麻布交ぜ織毛織の類を用ふ。其の
 總尺は並幅一反(凡そ二丈八尺)を通常とし、別に肩當及び居敷當
 用として、並幅四尺(内二尺八寸は肩當用)裏衿用として半幅四尺
 八・九寸許りを用意すべし。肩當居敷當には、晒木綿麻布・メリ
 スの類、又裏衿には、メリンス・練絹・紹・縮緬の類を、表布の地質に
 應じ適宜に使用すべし。

第二 本裁女單衣普通仕立上げ寸法

袖丈……一尺五六寸 袖口……六寸 袖附……六寸五分
 袖幅……八寸五分 身丈……三尺九寸内外 衿肩明……二寸三四分
 八つ口……三寸 衿……一尺六寸五分 後幅……七寸五分
 衿下り……六寸 前幅……六寸 衿下……凡そ二尺

衿幅……四寸 相袂幅……三寸五分 衿幅……三寸

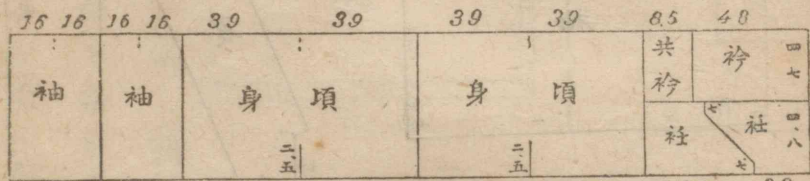
第三 本裁女單衣裁ち方・積り方

裁ち方に棒衿裁と鉤衿裁との二種あり。鉤衿裁は、用布の不
 足なるときに用ふるものなり。然れども、此の裁ち方は片面物
 には適用し難く、且つ仕立直しの時に至り、衿を天地し難き不利
 あり。

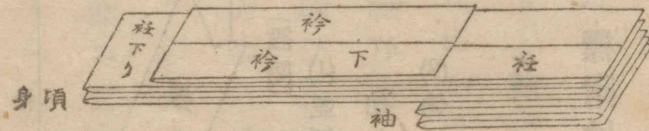
一、棒衿裁ち方 並幅二丈八尺八寸にて、袖丈を一尺六寸裁ち切
 りと定め、左式によりて、其の他の寸法を算出し、次に圖に示せ
 る如く、布を折りて寸法の相違なきかを檢し、然る後ち、袖身頃
 衿・衿と順次に裁ち切るなり。

二、鉤衿裁ち方 並幅二丈七尺六寸五分にて、袖丈を棒衿のとき

本裁女單衣鉤衿
裁ち方並に裁ち切り寸法



用布の折り方



積り方

$$\{ \text{用布の總尺} - (\text{袖丈} \times 4 + \text{鉤下}) + \text{衿下り} \} \div 5 = \text{身丈}$$

$$\{ 276.5 - (16 \times 4 + 22) + 4.5 \} \div 5 = 39$$

$$\{ (\text{用布の總尺} + \text{衿下り}) - (\text{身丈} \times 5 + \text{鉤下}) \} \div 4 = \text{袖丈}$$

$$\{ (276.5 + 4.5) - (39 \times 5 + 22) \} \div 4 = 16$$

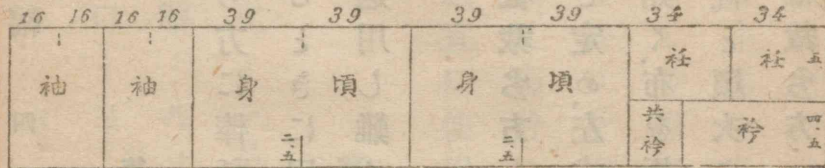
$$\text{身丈} \times 5 + \text{袖丈} \times 4 + \text{鉤下} - \text{衿下り} = \text{用布の總尺}$$

$$39 \times 5 + 16 \times 4 + 22 - 4.5 = 276.5$$

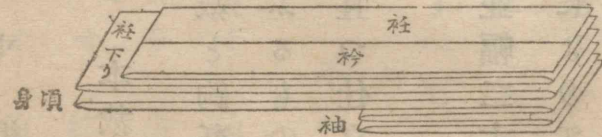
頃衿衿と順次に
裁ち切るなり。

(注意) 鉤下の寸法を見込むには、用布の總尺より袖丈の四倍を減じ、之れを五半に割り、其の半數に、衿下りの寸法を加ふべし。

本裁女單衣棒衿
裁ち方並に裁ち切り寸法



用布の折り方



積り方

$$(\text{用布の總尺} - \text{袖丈} \times 4 + \text{衿下り} \times 2) \div 6 = \text{身丈}$$

$$(288 - 16 \times 4 + 5 \times 2) \div 6 = 36$$

$$\{ \text{用布の總尺} - (\text{身丈} \times 6 - \text{衿下り} \times 2) \} \div 4 = \text{袖丈}$$

$$\{ 288 - (39 \times 6 - 5 \times 2) \} \div 4 = 16$$

$$\text{袖丈} \times 4 + \text{身丈} \times 6 - \text{衿下り} \times 2 = \text{用布の總尺}$$

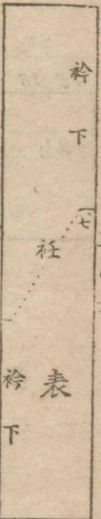
$$16 \times 4 + 39 \times 6 - 5 \times 2 = 288$$

$$\text{身丈} - \text{衿下り} (\text{仕立上げ}) + \text{衿先の縫ひ代} = \text{衿丈}$$

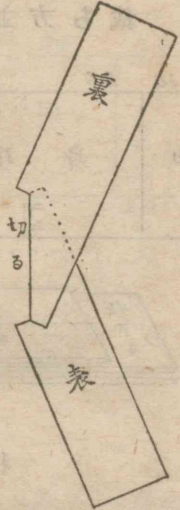
$$\text{身丈} - \text{衿下} + (\text{衿肩廻し及び縫ひ代}) \times 2 = \text{衿丈}$$

と同じく
し、其の他
の寸法は
上記の式
によりて
算出し、次
に、圖に示
せる如く、
布を折り
て寸法を
検し、然る
後、袖身

第一圖



第二圖



鉤衿の裁ち方は、第一圖の如く、衿下寸法の所に、七分の切り込みを向ふと手前とに入れ、第二圖の形に折りて、其の折り山を切り放すなり。

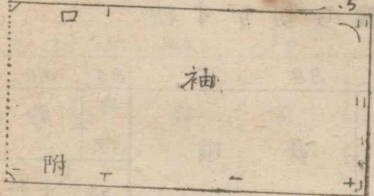
〔設問〕

- (1) 並幅二丈七尺八寸にて、袖丈一尺五寸、衿下り四寸裁ち切りとし、棒衿裁の身丈を求めよ。
- (2) 鉤衿裁の積り方を説明せよ。

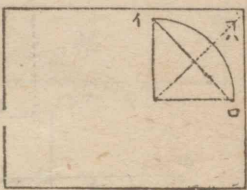
第四 部分縫 袖

一、標附け方 二尺五寸の練習用布を取りて袖と見做し、第一圖の如く山丈口附幅袂の丸みの標を附く(袂の丸みは五分とす)。

第一圖

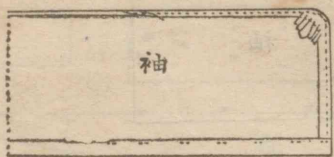


第二圖



袂の丸みの標附け方は、袂形を用ふるか、然らざれば第二圖の如く、袂の角より丸みの寸法を計りてイ・ロを標し、イよりロに尺を渡し、其の中央と袂の角との中間にハ點を定め、其れよりイ・ロにかけ、凡そ圓の四分の一の形を描くなり。

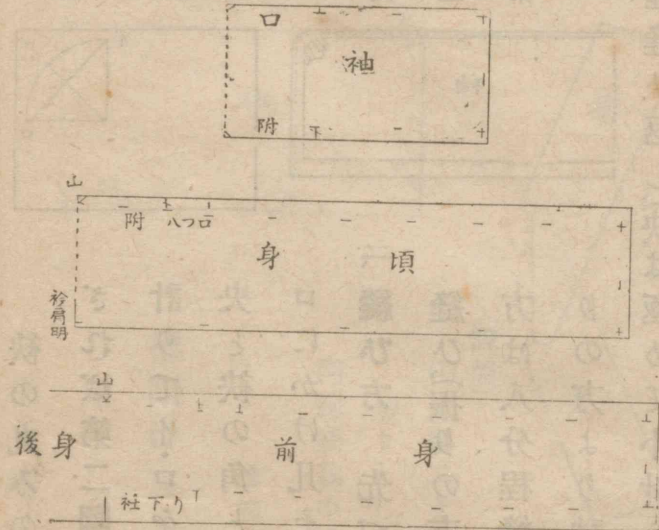
第三圖



二、縫ひ方 先づ表を出し、袖下を一分の縫ひ代に縫ひ(振りの方は幅の折り込みの二倍ほど、袂の方は八分程縫ひ残す) 引き返して裏を出し、振りの方より袖口標まで縫ひ、抄ひ留をなし、一寸程縫ひ返し、(袂は極めて小針に縫ふべし) 内袖の方へ折り、袖口を三つ折り紵になすべし。袂は本縫に添ひて一分程外を縫ひ締め、丸みを整へ、襷を綴ら、振りを耳紵になすべし。(第三圖)

第五 本裁女單衣標附け方

本裁女單衣標附け方



一、袖 附の方を手前に山の方を左に置きて、山・丈・口・附幅の標を附く。
 二、身頃 身頃の衿肩明の方を手前に、後身の方を左にし、中を表にして二枚を重ね、身頃を二つに折りて、後身を前身に重ね、山・丈・附身八つ口・脊肩幅・後幅の標をなし、後身を開きて、前身に衿下り前幅を標し(裾より三寸程稍、真直に標を附く)衿下りより

裾までを計りて、衿丈を知り置くべし。

三、衿 裾の方を右に、衿下の方(裁ち目の方)を衿

下とす)を手前に置き、棒衿のときには、先づ丈

衿下幅相裒幅を標し、衿幅より相裒幅に尺を

渡して、其の間の衿附を標し、又之れに準じて

衿先まで、尺を渡し、其の間の衿附の標をなし、

次に、衿先より一分を計りて、衿先の衿附を標

し、之れと衿下の標とに尺を渡して、其の間に

衿附の標をなし、又衿下の標より裒先までの

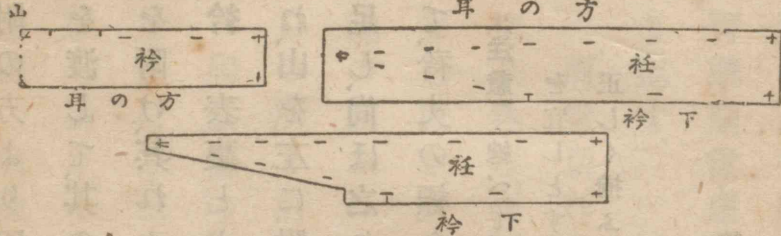
標をなすなり。

鉤衿のときには、先づ丈・衿下を標し置き、衿

附の下端の縫ひ込みを三分とし、衿先にて、衿

本裁女單衣標附け方

耳の方



附の方より四分を計りて、衽附の標をなし、此の二つの標に絲を渡して、其の間の標を付け、次に、衽幅・相袂幅及び其の間の標を付け、其れより、棒衽のときの如く、衽附の標をなすなり。

四、衽 表裏ともに、中表に二つに折り、裏衽を下に、表衽を上重ね、山を左に、附を向ふに置き、衽肩明の縫ひ上げ寸法に一分を足し、尙ほ之れに衽下りと、其れより衽下標までの寸法を加へて、衽丈の標をなすなり。

〔注意〕 總べて、標は、縫ひ込みの内に隠るゝ様成るべく小さく、且つ軽く附くるを宜しとす。又成るべく、標と標との間の距離を一定し、相對せる標は特に正しく揃ふ様注意すべし。

第六 本裁女單衣縫ひ方順序

一、袖 部分縫のときに同じく袖を縫ひ、袖口を拵け置く。

二、脊縫・肩當・居敷當 身頃の脊筋を二重縫になし、上前の方へ折り返す。

肩當切れを二つに切り、二枚を重ね、身頃に倣ひて、衽肩明を切り込み、脊筋を縫ひ合せ、裁ち目の方は二つ折りに伏せ縫をなし置き、其れより、衽肩明の方を右とし、肩當切れを身頃の脊縫の向ふに當てて綴ち合せ、後ち、肩當を左右に開きて衽肩廻しの所と肩幅の標より二寸程奥とに假綴をなす。

居敷當の裁ち目の方を二つに折りて伏せ縫をなし、衽下の寸法に二・三寸を加へたる所より附け下げ、幅の中央を脊縫に綴ち附け、下方を除き、他の三方を拵け附く。

三、脇縫 前後の身頃の幅標を合せ、後身頃を見て縫ひ合せ、前身

の方へ折り、割り、襷を掛け、身八つ口より裾まで、縫ひ込みを綴ち附く。

四、衽 衽下を三つ折り、縮になし、衽と前身との標を合せ、要所に待針を打ち、兩前共に裾より縫ひ上げ、縫ひ込みを衽の方へ折り、衽下標より三四寸上まで綴ち附け、其れより上には假襷をなし置く。

五、裾縮 裾を三つ折りになし、襷先を斜に折り、上前より縮け始め、縮け目の間を三四分とし、表へは小針に出し、脊脇衽の縫ひ目の所は特に一針返し、下前の襷先にて縮け終る。

六、衽 表裏の衽山を脊縫に當て、脊の縫ひ込み三四分衽にて身頃を挟み、要所に待針を打ち、下前より始めて一針抜きに縫ひ、衽先と脊縫の所は小針に一針返し、縫ひ、上前に移り、縫ひ終

りて、表衽の方へ折る。

丈六寸幅三寸許りの三つ衽切れを、衽肩明表衽の方に綴ち附け、其れより、衽幅を折り、(裏衽を表衽より一分五厘程狭くす)衽先を留め、衽丈の一分先にて表裏の衽先を縫ひ、縫ひ込みを裏の方へ綴ち附け、引き返して表裏の衽幅を整へ、裏衽の衽先を襷形に折り、總體に襷を掛け置き、上前より始めて縮け上く。

七、袖附 肩幅の一分五厘先より袖附の標まで、斜に身頃を裏の方へ折り、袖山と肩山との標を合せ、袖を見て縫ひ、袖の方へ折り、身頃の縫ひ込みを綴ち、肩當を縮け附け、後ち、袖山にて三針綴ち附け、次に、振りを耳縮又は三つ折り縮になす。

八、共衽、衽絲 共衽の丈の中央を脊縫に當て、本衽と縞目を合せ、一分被せに共衽の先を縫ひ附け、丈を縮け附く。

衿絲には撚り合せたる二本絲を用ひ、衿幅を二つに折り置き、兩肩若しくは脊、兩肩の三所に於て、二枚の衿を抄ひ絲の長さ幅の凡そ二倍に切り、其の兩端を結び置くなり。

〔設問〕

- (1) 本裁女單衣の標附け方順序を述べよ。
- (2) 本裁女單衣の縫ひ方順序を説明せよ。

〔附言〕

着物の疊み方 衿を左に裾を右に置き、下前を脇縫の所より正しく向ふへ折り、衿附の所を衿と共に手前へ折り返し、上前も同様に折り、三つ衿の折りを整へ、次に、脊縫より二つに折りて兩前を重ね、一方の袖を袖附より後身へ折り返し、身丈を二つに折りて裾を肩に合せ、引き返して、他方の袖を折るなり。
衣類の解き方 衣類を解くには、總べて、縫ひ方順序の反對になすを宜しとす。假令へば、單衣を解くに先づ袖を解き、衿に移りて、衿縫より衿先衿附に及び、其れより、裾衿下、衿附脇縫脊縫と順次に解き行くが如し。絲留めの所にては、

布を損ぜぬ様特に注意すべく、布を解き放したる後ち、縫絲を取り去るとを忘るべからず。又抜き絲は、其の長短によりて類別し、各、相當の用に充つべし。

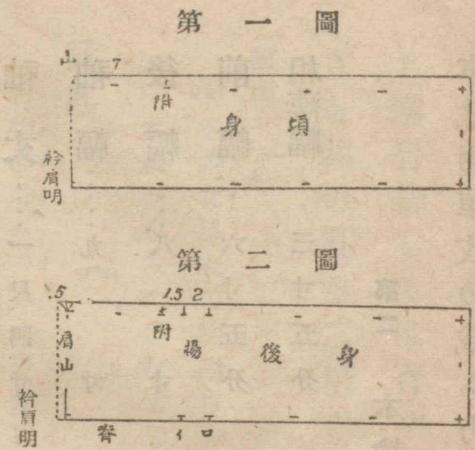
第五章 本裁男單衣

第一 本裁男單衣普通仕立上げ寸法

袖丈	一尺四寸	袖口	凡そ七寸五分	袖附	一尺一寸五分
袖幅	九寸	身丈	三尺六寸内外	衿肩明	二寸一分
後幅	八寸	衿	一尺七寸五分	衿下り	五寸
前幅	六寸五分	衿下	一尺七寸五分	衿幅	四寸
相裨幅	三寸五分	衿幅	一寸五分		

第二 本裁男單衣裁ち方積り方

本裁男單衣の裁ち方積り方は略、本裁女單衣に同じ。



第三 部分縫 揚

一、標附け方 練習用布二枚を取りて、前後の身頃と見做し、衿肩明二寸四分を残して、肩山を並に縫ひ合せ、先づ、第一圖の如く布を据ゑ、山・丈・袖附・脊・後幅の標をなし、次に、第二圖の如く、肩山を後へ五分繰り越し置き、袖附より一寸五分下りて、揚の寸法(二寸)を標す。

二、縫ひ方 先づ後身の揚イ・ロの標を合せ、脊より後幅標の一針先きまで

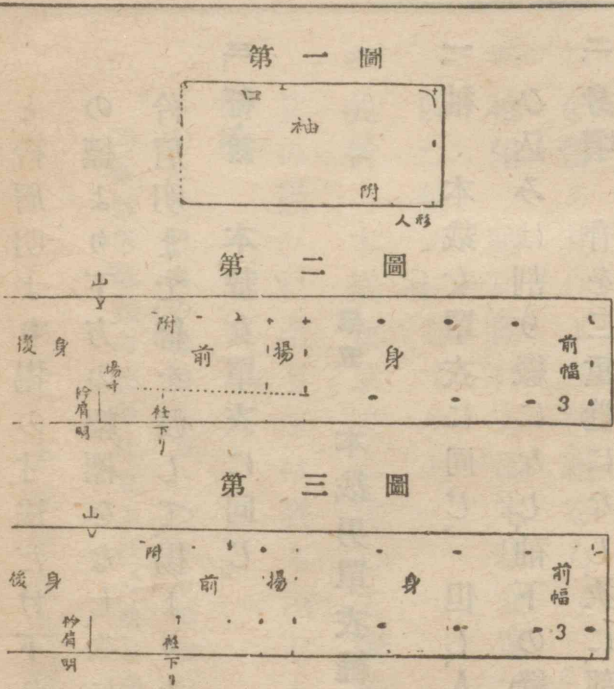
縫ひ、裾の方へ折り、前身の揚も、同様に縫ひて、裾の方へ折り、次に、脇を縫ひて、前身の方へ折り、第三圖の如く揚の縫ひ込みを折りて綴ち、其れより、脇の縫ひ込みを綴ち附く。

第四 本裁男單衣標附け方

一、袖 本裁女單衣に同じ。

二、身頃 山・丈・附・脊・肩幅・後幅揚を標し、次いで、前身に衿下り・前幅の標をなす。

圖の如く、先づ、裾口に幅標をなし、其の三寸程上の所



と、衿肩明より揚の寸法だけ下りたる所とへ、絲を渡して、揚下の標より下方の幅標をなし、次に第三圖の如く、揚上の標より衿肩明まで、絲を渡して、揚より上方の幅標をなすなり。

三、衿附 本裁女單衣に同じ。

第五 本裁男單衣縫ひ方順序

一、袖 本裁女單衣に同じ。但し、人形の所より縫ひ始め、其の縫ひ込みは割り綴になし、袖下の縫ひ込みに綴ち附くべし。

二、身頃 脊を二重縫になし、次に、部分縫のときに倣ひて、前後の揚を縫ひ、其れより、肩當居敷當を附け、脇縫をなす。

三、衿裾 本裁女單衣に同じ。

四、衿附 本裁女單衣に同じく衿を附け、衿先を縫ひ、衿幅二倍の

所を表裏共に折り、衿先の所にて、折り込みを三角に折りて、之れを綴ち附け、次に、衿幅を二つに折り、衿先より三分、衿附より五厘内に入り、極めて小針に衿の表裏を通して、十字形に衿先を留め、其れより、衿紵をなす。

五、袖附 袖の附け方は本裁女單衣に同じ。但し、袖附の留めは

四つ留めになすべし。

六、共衿 本裁女單衣に比して、廣衿と紵け衿との相違あれども、其の扱ひに至りては、異なる所なし。

〔設問〕

(1) 本裁單衣の標附け方につきて、男女の差異を説明せよ。

(2) 本裁男單衣の普通仕立上げ寸法を擧げよ。

第六 本裁單衣各種裁ち方積り方

片面物並幅二丈七尺四寸にて
本裁鉤衿(共衿附)の裁ち方並に裁ち切り寸法

16.5	16.5	16.5	16.5	3.9	3.9	3.9	3.9	3.4	1.9
袖	袖	身頃		身頃		衿	衿	衿	衿
		二五		二五		二六	二六	二六	二六
		二五		二五		二六	二六	二六	二六

積り方

{用布の總尺-(袖丈×4+衿丈の一分)+衿下り}÷5=身丈
 { 274 -(16.5×4+ 18)+ 4.5 }÷5= 39

並幅二丈七尺にて
本裁棒衿(衿三ツ割)の裁ち方並に裁ち切り寸法

16	16	16	16	3.9	3.9	3.9	3.9	3.4	1.6
袖	袖	身頃		身頃		衿	衿	衿	衿
		二五		二五		二六	二六	二六	二六
		二五		二五		二六	二六	二六	二六

積り方

{用布の總尺-(袖丈×4+衿丈の三分一)+衿下り}÷5=身丈
 { 270 -(16×4+ 16)+ 5 }÷5= 39

〔注意〕 上圖の裁ち方は、鉤衿になし、尙ほ共衿を取らんとする場合の裁ち合せを示せるなり。下圖の裁ち方は、衿を棒裁になさむとするときに、衿を接ぎ合せ、袖及び身丈を本裁相當の寸法になさむとする場合に用ふるものなり。

並幅二丈六尺八寸にて
本裁鉤衿の裁ち方並に裁ち切り寸法

16	16	16	16	38.5	38.5	38.5	38.5	5.0
袖	袖	身頃		身頃		衿	衿	衿
		二五		二五		二六	二六	二六
		二五		二五		二六	二六	二六

積り方

{用布の總尺-(袖丈×4+衿丈)}÷4=身丈
 { 268 -(16×4+ 50)}÷4=38.5

並幅二丈八尺一寸にて
本裁棒衿(下前接ぎ)の裁ち方並に裁ち切り寸法

16.5	16.5	16.5	16.5	3.9	3.9	3.9	3.9	4.8	1.1
袖	袖	身頃		身頃		衿	衿	衿	衿
		二五		二五		二六	二六	二六	二六
		二五		二五		二六	二六	二六	二六

積り方

{用布の總尺-(袖丈×4+衿丈の半+衿の接ぎ代)+衿下り}÷5=身丈
 { 281 -(16.5×4+ 24 + 1)+ 5 }÷5= 39

〔注意〕 上圖の裁ち方は、尺不足の用布にて、各部の裁ち切りを本裁相當の寸法になさむとするときに、用ふるなり。下圖の裁ち方は、普通鉤衿に取るべきを、強ひて棒衿になさむとする場合に用ふるものなり。

第六章 中裁小裁單衣

第一節 四つ身單衣

第一 四つ身單衣普通仕立上げ寸法

袖丈……一尺四五寸 袖口……四寸五分 袖附……四寸五分
 袖幅……八寸 身丈……凡そ三尺 衿肩明……一寸七分
 八つ口……二寸五分 後幅……いっばい 衿下り……凡そ四寸
 前幅……いっばい 衿下……凡そ一尺二寸 衿幅……いっばい
 衿幅……一寸二分

但し、筒袖の場合には、袖丈凡そ六寸五分、袖口凡そ三寸五分、袖附凡そ五寸とし、其の他は、總べて右に掲げたる寸法に従ふものなり。

第二 四つ身單衣裁ち方・積り方

四つ身は五・六歳より十二・三歳まで用ふるものなり。用布の總尺は、並幅一丈八尺より二丈位までとし、一疋(二反續き)の布を三枚に裁つを通常とす。

肩當・居數當には、別に、並幅凡そ二尺(内一尺二寸は肩當用)を用意すべし。

衿裏には、半幅二尺五寸の別切れを用ひ、其の幅を二つに裁ち切り、衿山を接ぎ合すべし。

一、並幅一丈八尺にて、袖丈を一尺五寸として、身丈其の他の裁ち切り寸法を求むる方法は、左の裁ち方圖及び算式によりて知るべし。

第一圖

四つ身單衣の裁ち方並に裁ち切り寸法



用布の折り方



積り方

$$(用布の總尺 - 袖丈 \times 4) + 4 = 身丈$$

$$(180 - 15 \times 4) \div 4 = 30$$

$$(用布の總尺 - 身丈 \times 4) \div 4 = 袖丈$$

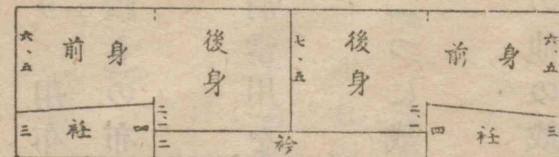
$$(180 - 30 \times 4) \div 4 = 15$$

$$(袖丈 + 身丈) \times 4 = 用布の總尺$$

$$(15 + 30) \times 4 = 180$$

第二圖

四つ身單衣の逆衿裁ち方並に裁ち切り寸法



二、前と同じ寸法にて、之を逆衿裁になさんには、第二圖に依るべし。但し、袖は第一圖に同じ。

〔附言〕 新衣を裁つに逆衿裁を用ふることなきにあらざれとも、初めには第一圖の如く裁ち置き、後日、尙ほ大振りになすべき場合に臨みて、逆衿裁に改むるを便利とす。

〔設問〕

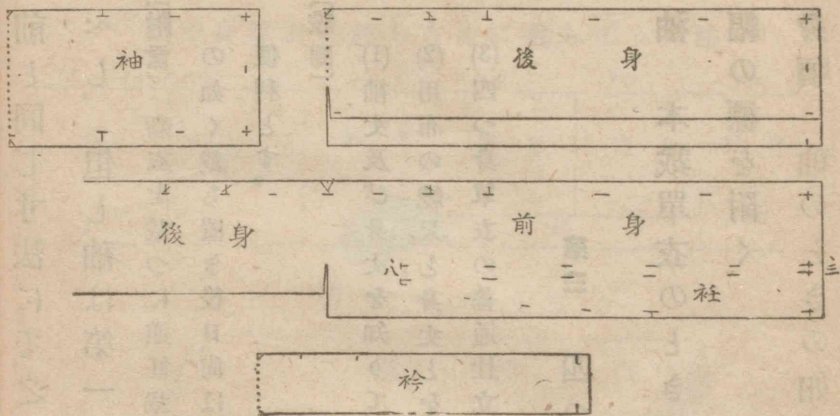
- (1) 袖丈及び身丈を知りて、用布の總尺を求むる方法を問ふ。
- (2) 用布の總尺と身丈とを知りて、袖丈を求むる方法を問ふ。
- (3) 四つ身單衣の普通仕立上げ寸法を擧げよ。

第三 四つ身單衣標附け方

一、袖 本裁單衣のときの如く、正しく布を重ね、順次に、山丈・口・附幅の標を附く。

二、身頃 袖のときの如く布を重ね、山丈・附身・八つ口・脊後幅の順

四つ身單衣標附け方



序に標を附く。
 後身頃を左に開き、前身頃に衿下り衿下を標し、衿肩明より裾まで、真直に前幅の標をなし、衿下りの所は其れより八分、裾の所は三分衿の方へ離して標をなし、之れに絲を渡し、其の間に衿附の標を附け、衿幅を定め、其れより、衿先の所を衿附の方へ一分寄せ、此の標と衿下標とに絲を渡し、中間にて二分程張り出し、恰好よく衿附の標をなし、衿丈を計り置く。
 三、衿 本裁女單衣に同じ。

第四 四つ身單衣縫ひ方順序

縫ひ方は本裁單衣の場合と大差なきを以て、茲には、唯其れと異なる所を掲げて、其の他を省畧せり。

一、袖 袂の角は袖下を先に、袖口下を後に折りて、縫ひ込みを綴ち附く。

二、身頃衿 脊は袋縫になし、肩當を附く。
 前幅と衿附との標を合せ、前身を手前にして縫ひ、衿の方へ折り、脇縫をなし、衿下及び裾を拵ける。

三、衿 表衿に裏衿を縫ひ附け、裏衿の方へ折りて、隠し蝶を掛け、其れより、本裁に倣ひて衿を附け、衿幅を定めて衿先を縫ひ、引き返して表を出し、衿先の縫ひ込みを裏衿にて包み、裏衿を拵

け附く。

四、袖附 本裁女單衣に同じ。

五、肩揚 肩幅の中央を揚の折り山とし、寸法通り衿を定め、餘りの寸法を、袖附の五・六分上より、二筋絲にて大針小針に綴ちて、揚をなす。

六、腰揚 脊丈を二つに折り、其れより凡そ一・二寸上を揚の山と定め、脇縫より衿にかけて、揚山を五・六分衿下の方へ斜に下げ、寸法通り身丈を定め、餘りを肩揚の如く綴ちて、揚をなす。
七、居敷當 腰揚の縫ひ目より下に當て、綴ち附く。

〔設問〕

(1) 四つ身單衣の標附け方を圖解して、其の寸法を記入せよ。

(2) 逆衿裁の得失を述べよ。

第二節 三つ身單衣

第一 三つ身單衣普通仕立上げ方法

袖丈	…一尺三四寸	袖口	…四寸	袖附	…四寸
袖幅	…六寸五分	身丈	…二尺六七寸	衿肩明	…一寸二三分
八つ口	…二寸五分	後幅	…いっばい	衿下り	…三寸
前幅	…いっばい	衿下	…六・七寸	衿幅	…いっばい
衿幅	…一寸一分				

但し、筒袖のときは、袖丈凡そ六寸五分、袖口凡そ三寸三分、袖附凡そ四寸五分とし、其の他は、總べて右の寸法に従ふ。

第二 三つ身單衣裁ち方積り方

三つ身は三・四歳の頃に用ふるものなり。

用布の總尺は並幅一丈三尺乃至一丈五尺位とし、一反二枚裁

ちを普通とす。

肩當居敷當には、

別に並幅凡そ二尺

(丙一尺二寸は肩當

用)を用意すべし。

一、並幅一丈三尺三

寸にて、袖丈を一

尺三寸と定め、身

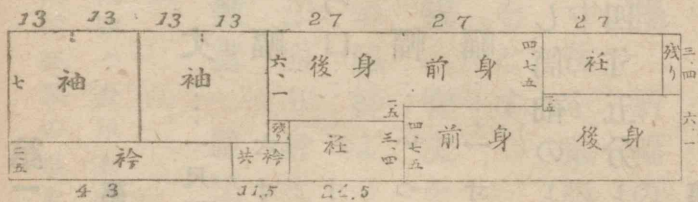
丈其の他の裁ち

切り寸法を求む

る方法は第一圖

第一圖

三つ身單衣の裁ち方並に裁ち切り寸法



用布の折り方



積り方

$$(用布の總尺 - 袖丈 \times 4) \div 3 = 身丈$$

$$(133 - 13 \times 4) \div 3 = 27$$

$$(用布の總尺 - 身丈 \times 3) \div 4 = 袖丈$$

$$(133 - 27 \times 3) \div 4 = 13$$

$$身丈 \times 3 + 袖丈 \times 4 = 用布の總尺$$

$$27 \times 3 + 13 \times 4 = 133$$

第二圖

筒袖三つ身單衣の裁ち方並に裁ち切り寸法



に依るべし。

二、並幅一丈九寸にて、筒袖の丈を七寸とし、其の他の裁ち切り寸法を求むる方法は第二圖に依るべし。

裁ち方の順序は、先づ袖布を裁ち切り、次に、身頃を三枚に折り、右の折り目を向ふより、左の折り目を手前より、各半ばまで切り、中布を半幅に切り放ち、其れより身頃を二枚重ねて、衿肩明の寸法を定め、衿衿を裁ち切るなり。

設問

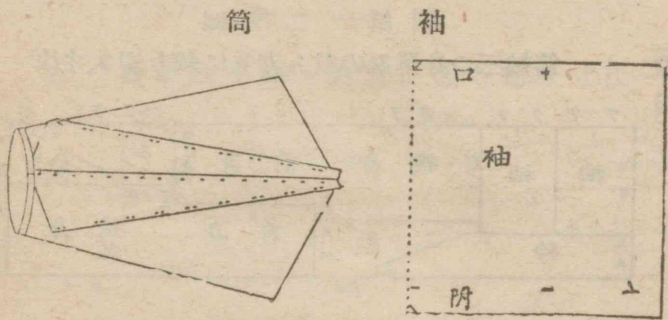
- (1) 三つ身單衣の普通仕立上げ寸法を述べよ。
- (2) 三つ身單衣の裁ち方順序を説明せよ。

(3) 並幅一丈六寸にて、筒袖の丈を七寸裁ち切りとし、三つ身單衣の裁ち方積り方を示せ。

第三 部分縫

(イ) 筒袖

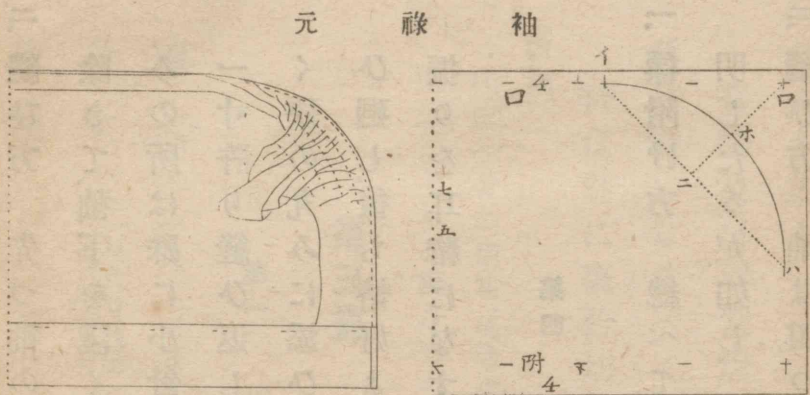
- 一、標附け方 二尺五寸の練習用布を取り、丈を二つに折りて、山・丈・口・幅の標を附く。
 - 二、縫ひ方 袖下を縫ひ、内袖の方へ折りて附け、外袖の縫ひ込みを口下の方は三分に、附の方は浅く折りて割り綴をなし、後ち、裁ち目を折りて、耳縮になす。
- 袖口を三つ折りになし、口下の縫ひ目を合せ、こゝに一針通して紵け附く。



筒袖

(ロ) 元祿袖

- 一、標附け方 練習用布並幅一枚を袖と見做して、圖の如く布を据ゑ、山・丈・口・附・幅等を標し、其れより、上圖に示せる如く、袖口標の七分ほど下にイ點を附し、ロ・ハの間をイ・ロの間より五分程廣くしてハ點を附し、イ・ハの中央をニとし、ニ・ロの約を三分の一をニより取りてホ點を標し、イ・ホ・ハの三點を結びて、程よく丸みを附くべし。尚ほ、振りの方にて丈を二三分詰め、適宜に恰好を附くることあり。



元祿袖

二、縫ひ方 先づ袖の表を出し、袂の丸みと袖幅の折り込みとを除きて、袖下を浅く縫ひ、裏に返し、袖附の方より袖下を縫ひ、丸みの所は殊に小針に、袖口の標まで縫ひ上げ、こゝに一針留め、一寸許り縫ひ返し、袖口を三つ折りに縮け、次に圖に示せる如く袂の丸みに添ひ、其の外周りを、二分程づつ隔てて、二、三度縫ひ廻し、後ち、恪好よく絲を引き締め、襷の如く疊みて、綴ち合せ、振りを耳縮になすなり。

第四 三つ身單衣標附け方縫ひ方

一、標附け方 總べて本裁女單衣に倣ふ。筒袖は部分縫にて説明したるが如し。

二、縫ひ方 袖は四つ身單衣に同じ。筒袖は部分縫にて説明し

たるが如し。

脊縫及び肩當居敷當の附け方は四つ身單衣に同じ。衽附は袋縫になすべく、其の他は本裁女單衣に同じ。衽は別に裏衽切れを用ひざる外、四つ身單衣のときに同じ。

〔設問〕

(1) 三つ身の用布は、通常何程を要するか。

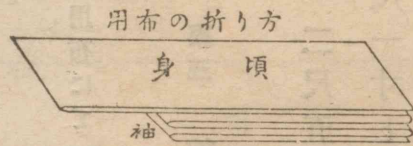
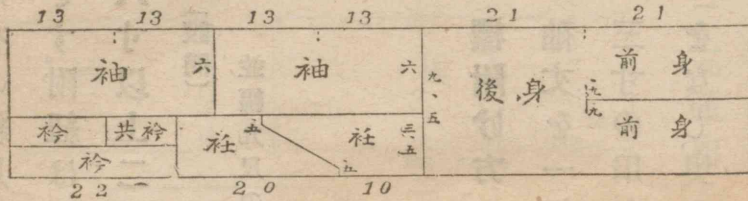
(2) 三つ身單衣縫ひ方の四つ身單衣と異なる所を述べよ。

第三節 一つ身單衣

第一 一つ身單衣普通仕立上げ寸法

袖丈	一尺二三寸	袖附	三寸五分	袖幅	五寸五分
身丈	一尺八寸乃至二尺二三寸	衽肩明	一寸	八つ口	二寸五分
後幅	いっばい	衽下り	二寸五分	衽下	凡そ五寸

一つ身單衣の裁ち方並に裁ち切り寸法



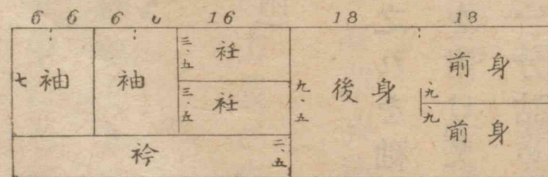
積り方

(用布の總尺 - 袖丈 × 4) ÷ 2 = 身丈
 (94 - 13 × 4) ÷ 2 = 21

(用布の總尺 - 身丈 × 2) ÷ 4 = 袖丈
 (94 - 21 × 2) ÷ 4 = 13

袖丈 × 4 + 身丈 × 2 = 用布の總尺
 13 × 4 + 21 × 2 = 94

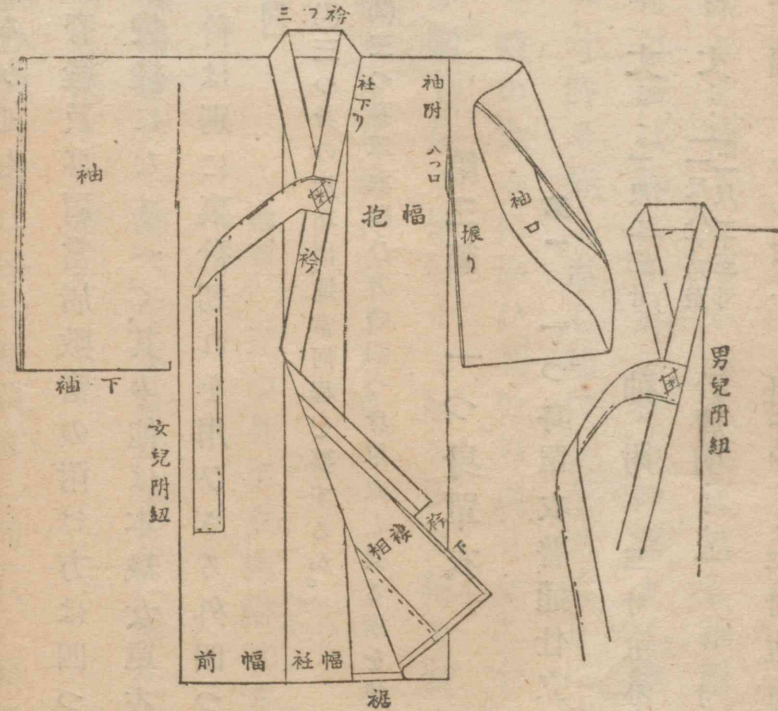
並幅七尺六寸にて筒袖一つ身の裁ち方並に裁ち切り寸法



積り方

(用布の總尺 - 袖丈 × 4 + 衿下り) ÷ 3 = 身丈
 (76 - 6 × 4 + 2) ÷ 3 = 18

一つ身單衣の圖



衿幅……九分
 但し、筒袖のときは、袖丈・袖幅は共に凡そ五寸、袖口は凡そ三寸、袖附は凡そ四寸とす。

第二 一つ身單衣 裁ち方積り方

一つ身は一・二歳の子供に用ふるものなり。

用布の總尺は並幅にて七尺以上一丈許りとし、凡そ一反三枚裁とす。附紐は別切れとし、並幅四つ割又は二つ割を用ひ、丈は一尺八寸以上二尺五寸許りとす。

〔設問〕

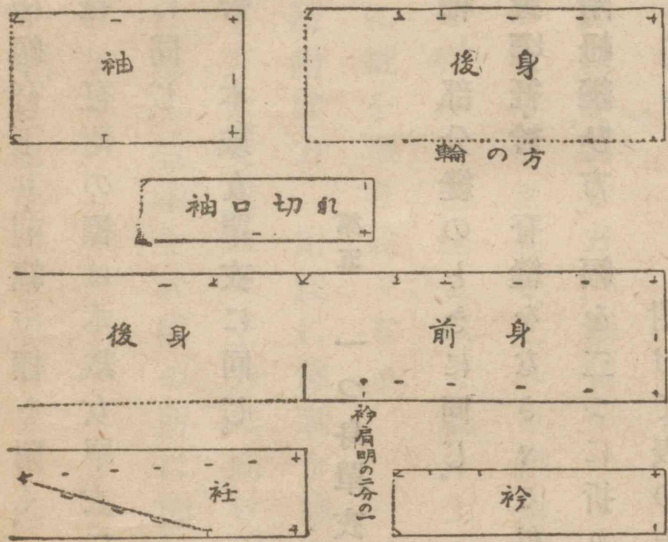
並幅九尺の用布にて一つ身單衣の裁ち方を圖解せよ。

第三 部分縫 潤袖ひろきそ(袖口切れ附)

一、標附け方 二尺五寸の練習用布を取りて、之れを袖と見做し、袖丈を一尺一寸とし、山丈附幅と順次に標を附け、又半幅二尺三寸の用布を袖口切れと見做し、表袖より一分詰めて、丈の標をなし、奥の方に幅標を附く。

二、縫ひ方 袖口切れを標通り袖に縫ひ合せ、袖の方へ折り、常の

一つ身單衣標附け方



如く袖下を袋縫になし、口切れの所を除く(内袖へ折り、袖襖を二・三厘出して袖口に襷を掛け、引き返して袖口切れの奥に襷

を掛け、五・六分の針目に、表へは小針に出して締め附く。

第四 一つ身單衣標附け方

用布の重ね方及び据ゑ方は、常の如し。

一、袖 部分縫のときに同じ。

二、身頃 表を中にして幅を二つに折り、次に、丈を二つに折りて、圖の如く山丈附八つ口

後幅、衽下り、前幅の標を附く。

三、衽 衽附の標は本裁女單衣に同じく、衽附の標は四つ身單衣に同じ。

四、衿 本裁女單衣に同じ。

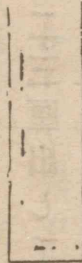
第五 一つ身單衣縫ひ方順序

一、袖 部分縫のときに同じ。

二、身頃、衽、衿 脊縫をなさざる外、總べて、三つ身單衣に同じ。

三、附紐縫ひ方 幅を二つに折り、丈と一方の幅とを縫ひ、折りを

附けて表の方へ返し、角を正し、二本糸にて、折
り山より一分五厘許り内に、上圖の如く、表裏
交互に大針小針の躰を掛け、總べて、表裏の區



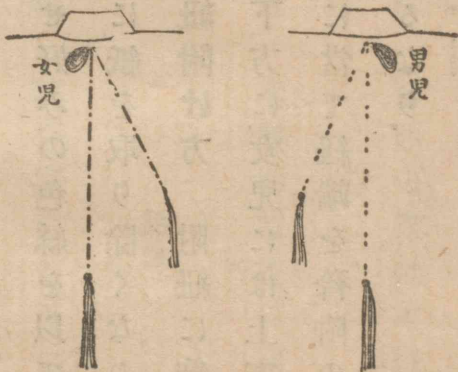
別なき品に躰を掛くるには、此の仕方を用ふるなり。其れよ
り、縫ひ残したる紐の端に、衽幅ほどの心切れを添へ、飾刺いざざしをな
すなり。

四、飾刺の刺し方 飾刺をなすには、先づ適宜の形を撰みて半紙
の類に描き置き、之れを紐附の端に當て、其の周圍を綴ち合
せ、好みの色糸を以て、紙の上より形の通りに刺し、其の後、綺麗
に紙を取り除くなり。

五、紐附け方 附紐に飾刺を施したる後、紐の縫ひ目を、男兒には
下方に、女兒には上方に向け、紐幅の中央を脇縫の留めの通り
に當て、紐端を衽附の所に縫ひ附け、折り返して、衽に紵いざざしけ附く
るなり。

六、脊守せまひの縫ひ方 脊守は、衽附より五分程下りて、八寸程の間に

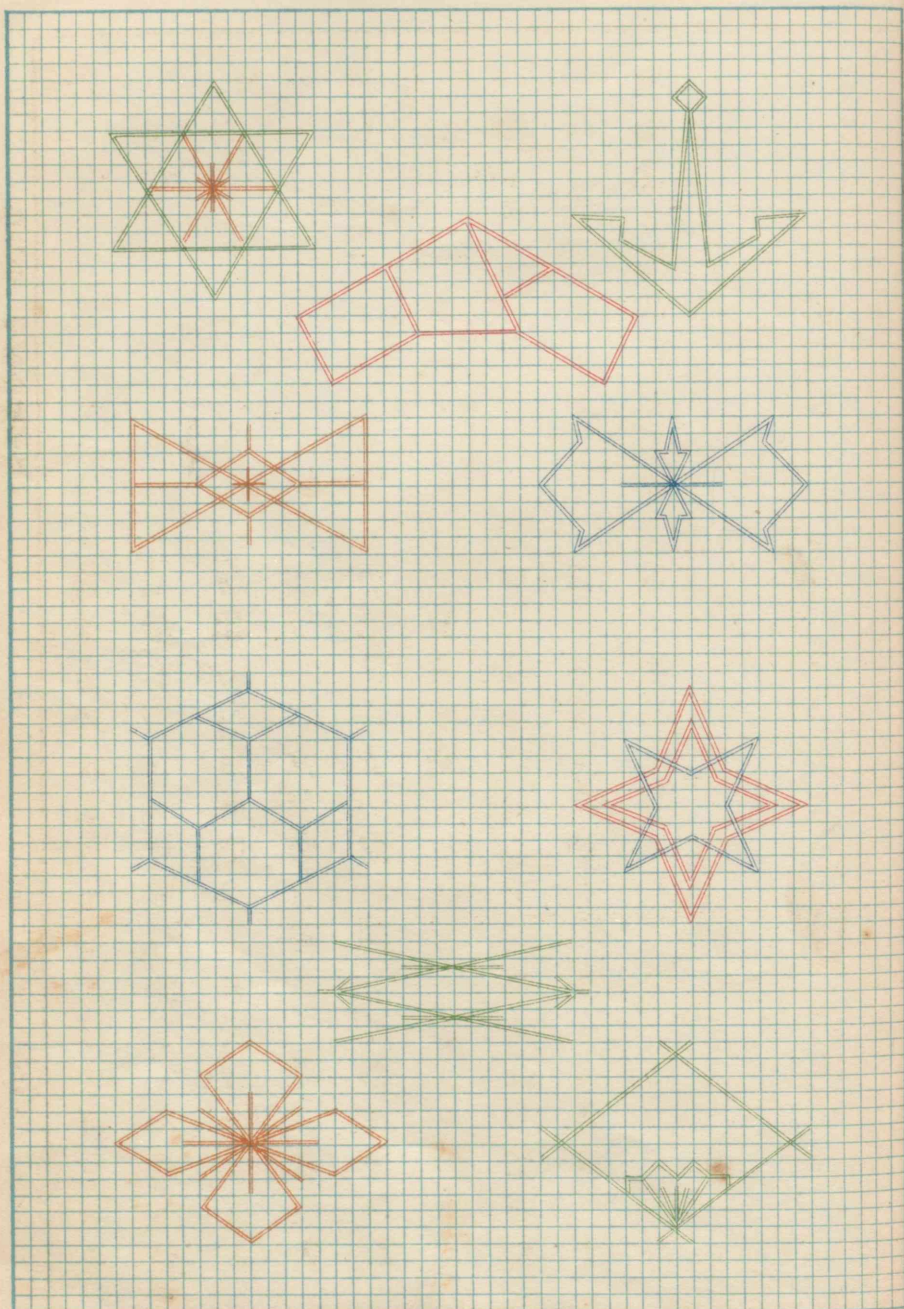
脊守の圖

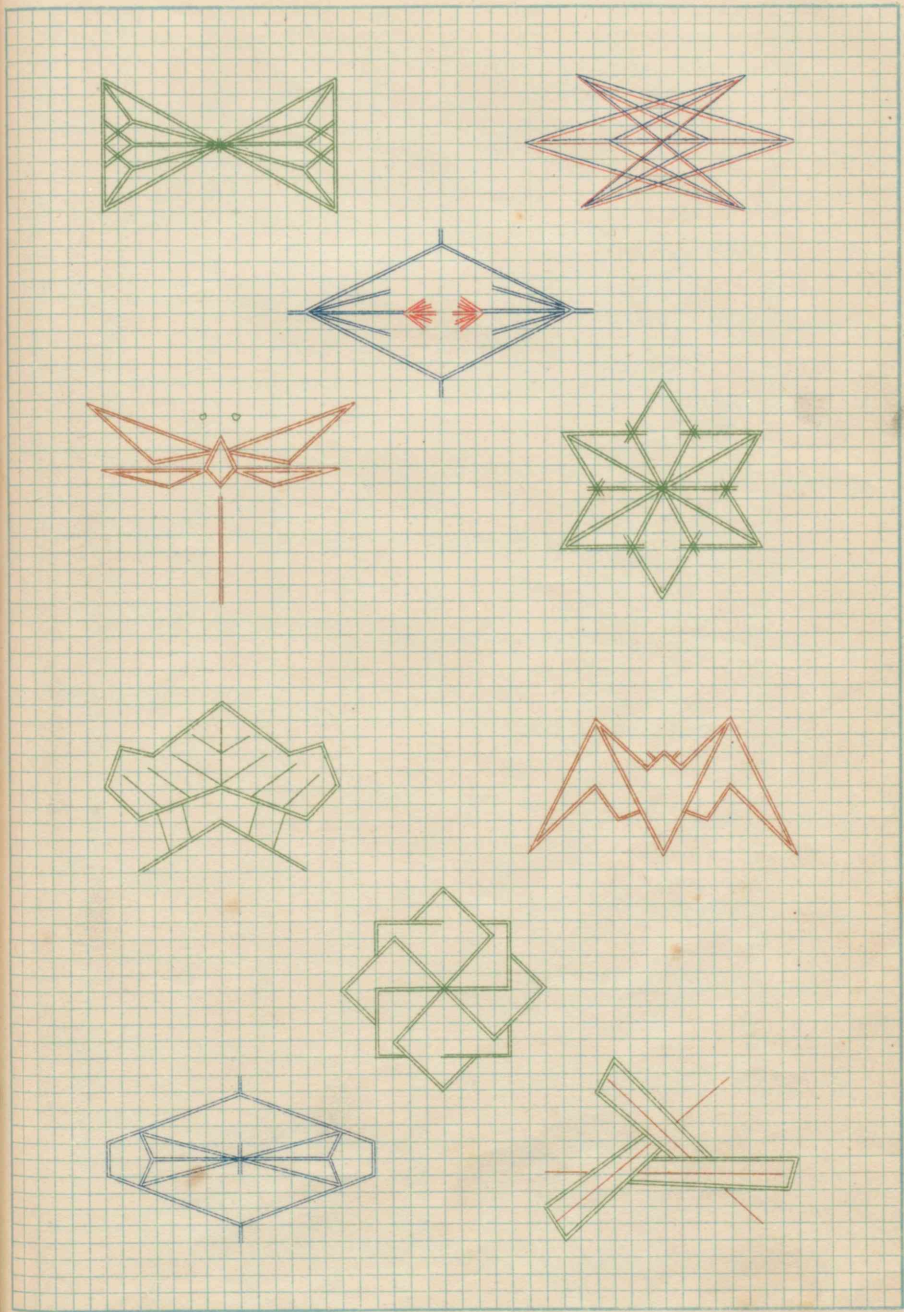
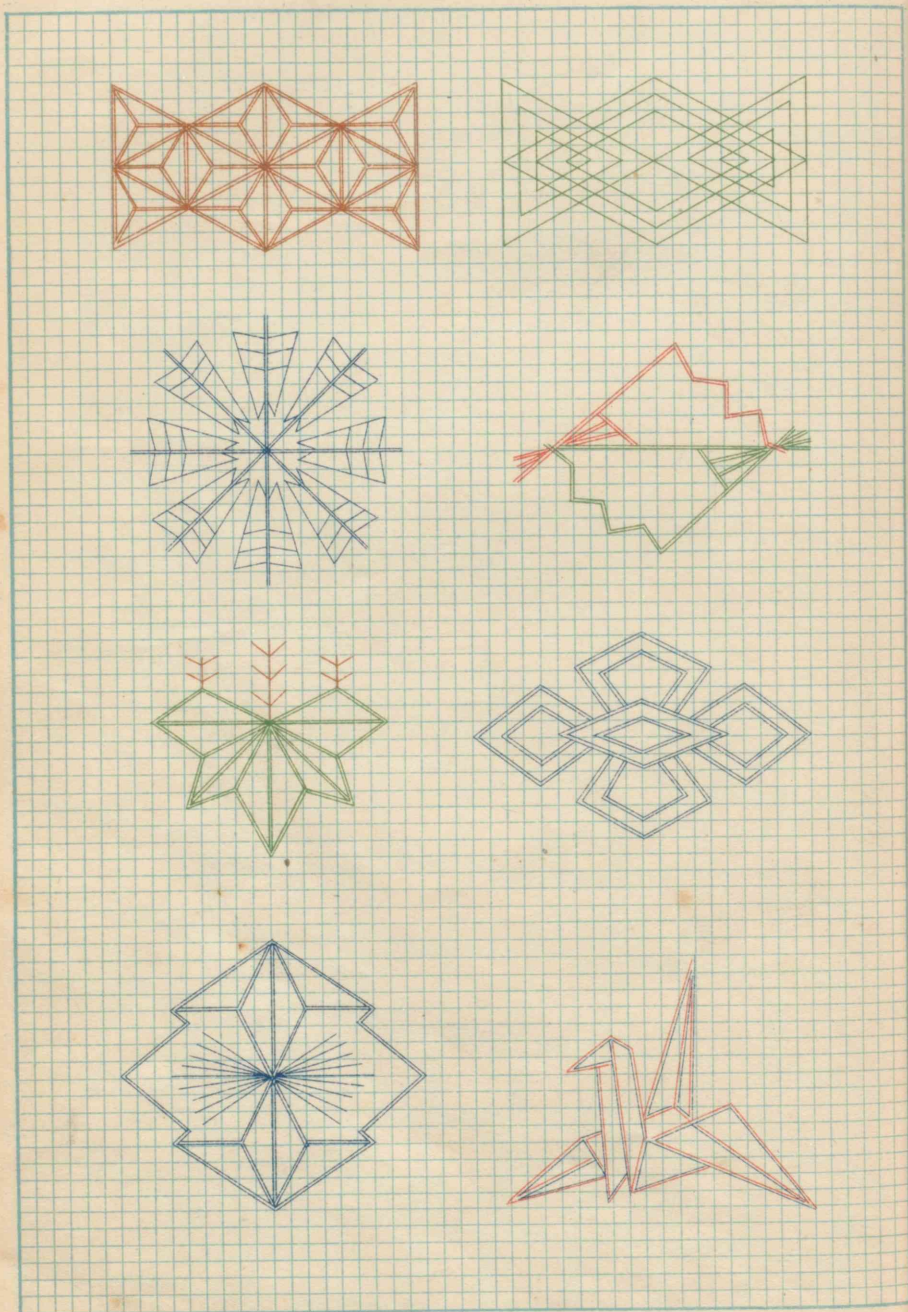


其の上より縫ひ、後ち、紙を取り去るなり。

施すものにして、女兒には大針を脊に七針、右方へ一寸五分開きて、斜に五針を出し、(針目の間を一分五厘許りとす)男兒には、女兒の反對に小針のみを表はし、又左方へ斜に開きて縫ふ慣例なり。脊守を縫ふには、豫め針目を計りて紙に描き、之れを脊に綴ち附け置き、紅白の絲又は青・黄・赤・白・黒の五色絲にて、

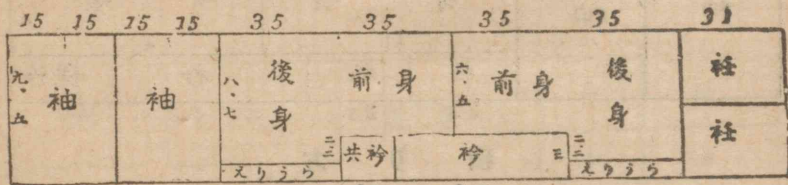
第四節 中裁小裁單衣各種裁ち方・積り方





並幅二丈三尺一寸にて

前衿裁の裁ち方並に裁ち切り寸法



用布の折り方



積り方

$$(用布の總尺 - 袖丈 \times 4 + 衿下り) \div 5 = 身丈$$

$$(231 - 15 \times 4 + 4) \div 5 = 35$$

$$\{用布の總尺 - (身丈 \times 5 - 衿下り)\} \div 4 = 袖丈$$

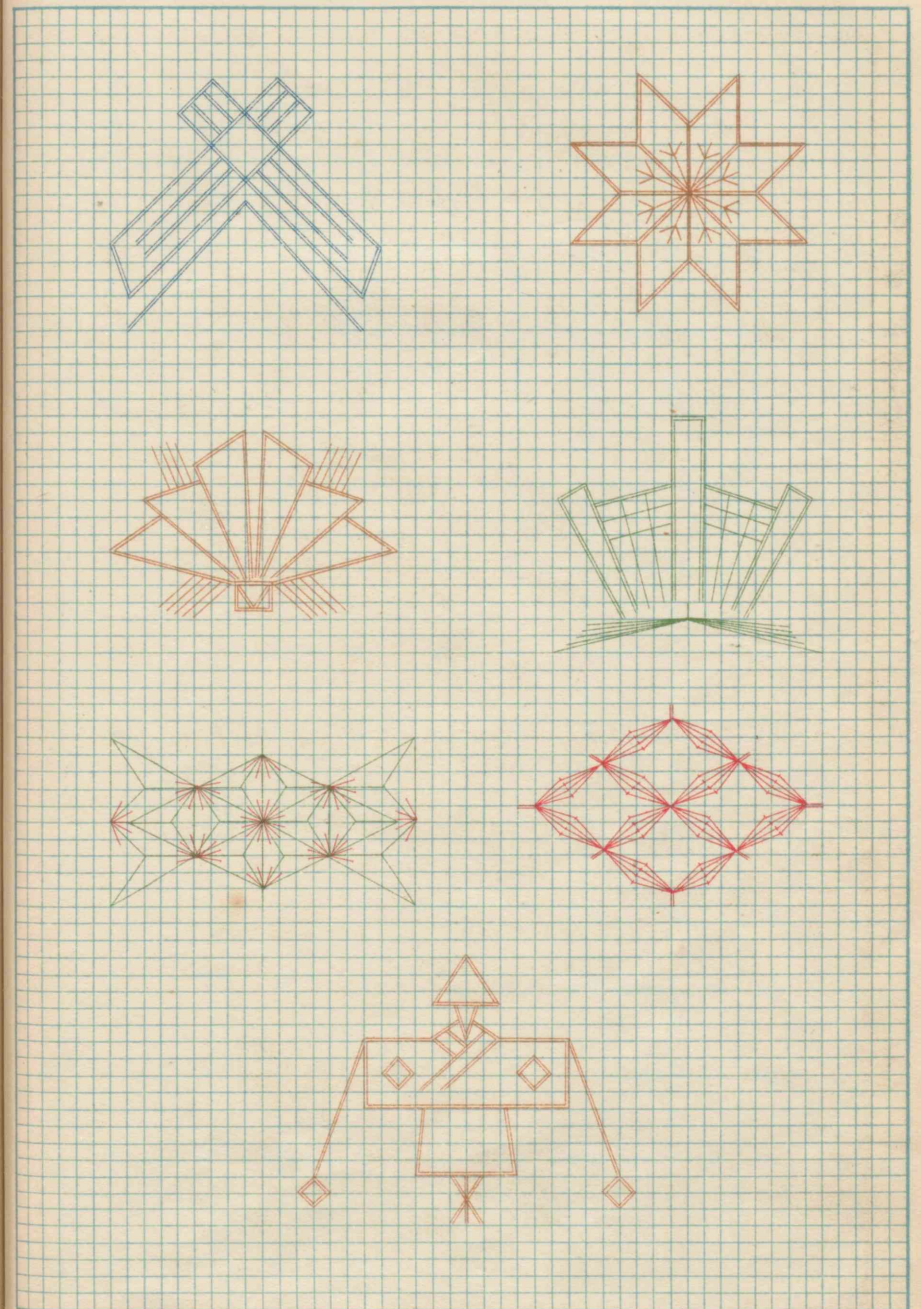
$$\{231 - (35 \times 5 - 4)\} \div 4 = 15$$

$$袖丈 \times 4 + 身丈 \times 5 - 衿下り = 用布の總尺$$

$$15 \times 4 + 35 \times 5 - 4 = 231$$

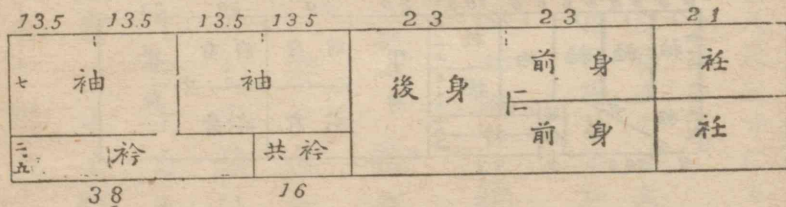
〔注意〕

は四つ身よ
り大振り
て、用布の
尺は並幅二
丈三尺許
なり。



並幅一丈二尺一寸にて

一つ身別衿の裁ち方並に裁ち切り寸法



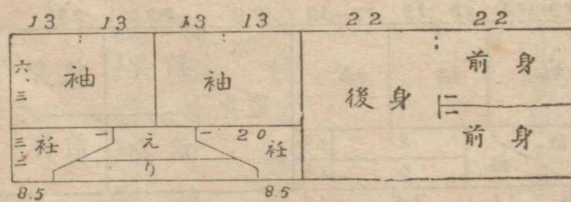
積り方

{用布の總尺-(身丈×3-衿下り)}÷4=袖丈

{ 121 -(23 × 3 - 2) } ÷ 4 = 13.5

並幅九尺六寸にて

一つ身鉤衿裁ち方並に裁ち切り寸法



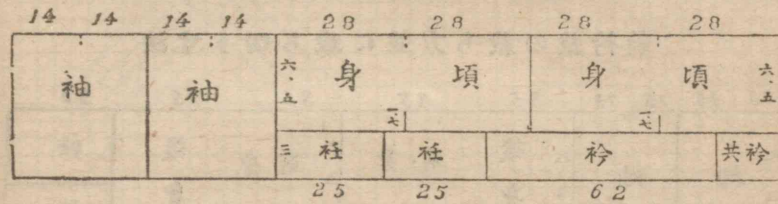
積り方

(用布の總尺-袖丈×4)÷2=身丈

(96 - 13 × 4) ÷ 2 = 22

並幅一丈六尺八寸にて

車裁の裁ち方並に裁ち切り寸法



積り方

(用布の總尺-袖丈×4)÷4=身丈

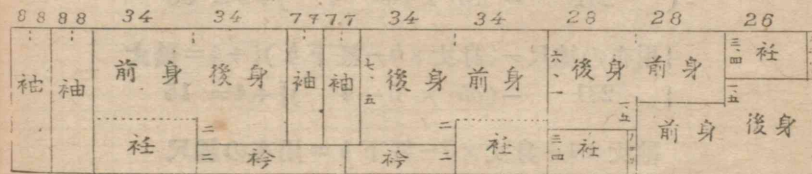
(168 - 14 × 4) ÷ 4 = 28

(袖丈+身丈)×4=用布の總尺

(14 + 28) × 4 = 168

並幅二丈八尺にて

筒袖の四つ身と三つ身との裁ち合せ方並に裁ち切り寸法



積り方

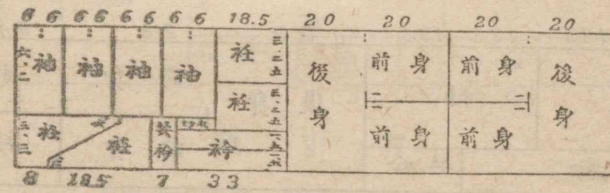
{用布の總尺-(四つ身袖丈+三つ身袖丈+四つ身丈)×4}÷3=三つ身身丈

{ 280 -(8 + 7 + 34) × 4 } ÷ 3 = 28

〔注意〕
 便あり。後身直方此をに歳
 し頃しはのとの用はの
 得をの仕裁あふ車小
 る前時立ちりる裁供
 五六

並幅一丈四尺六寸五分にて

一つ身筒袖二枚の裁ち合せ方並に裁ち切り寸法

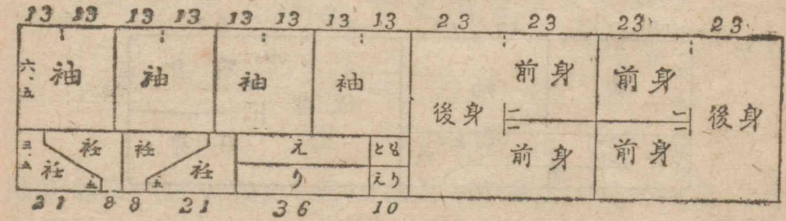


積り方

(用布の總尺+衿下り-袖丈×8)÷5=身丈
 (146.5 + 1.5 - 6 × 8) ÷ 5 = 20

一尺幅一丈九尺六寸にて

一つ身二枚裁ち合せ方並に裁ち切り寸法



積り方

(用布の總尺-袖丈×8)÷4=身丈
 (196 - 13 × 8) ÷ 4 = 23

〔設問〕

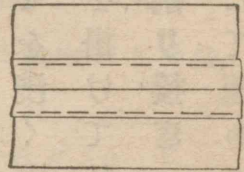
- (1) 並幅八尺三寸にて、一つ身單衣の身丈を二尺一寸とし、別衿の裁ち方により袖丈を求めよ。
- (2) 一つ身單衣の袖丈を一尺二寸五分、身丈を二尺二寸裁ち切りとせば、用布の總尺は何程なるか。又其の裁ち方を圖解せよ。

第七章 綿布の繕ひ方

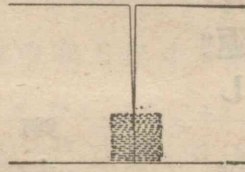
第一 接ぎ方(片返し・割り接ぎ・突合せ接ぎ・掛け接ぎ)

- 一、片返し 接ぐべき切れの布目を合はせ、極めて小針に縫ひ、被せを浅くして縫ひ込みを一方へ折り返し、隠し襷をなし、烙鏝を掛けて仕上ぐるなり。
- 二、割り接ぎ よく縞目を合はせて襷を掛け置き、共色の細き糸にて、極めて細かく返し針又は一針抜きに縫ひ、然る後ち、平烙

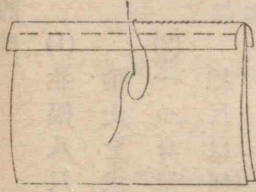
割り接ぎ



突合せ接ぎ



掛け接ぎ

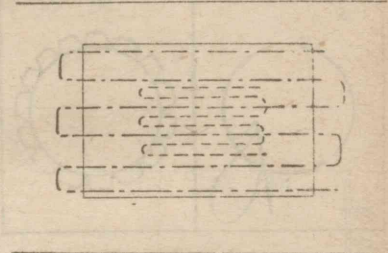


鍔を掛け、更に縫ひ目を開き、少しく濕りを施し、再び烙鍔を掛け、隠し襷をなして仕上ぐるなり。

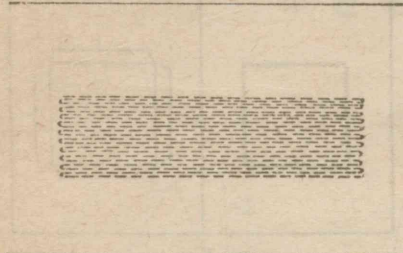
三、**突合せ接ぎ** 布の裁ち目を其のまゝに突合せ、共色の細き絲にて、合せ目より各五分程内へかけ交互になるべく絲目の見えざるやう、二・三厘の隔たりに縫ひ合はすなり。薄地の品には、裏より其の部分に薄き切れを當て置き、右の仕方を施すべし。

四、**掛け接ぎ** 布目を正して折りを附け、縞目を合せて襷を掛け置き、共色の細き絲にて緯糸一本經糸二本おきに抄ひ行き、終りて襷絲を抜き、裏より霧を吹きて烙鍔を掛くるなり。

色紙織ぎ



刺し織ぎ

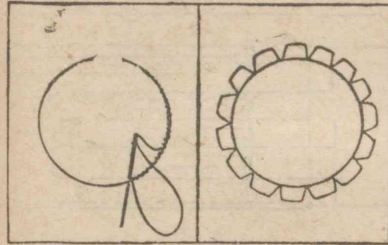


第二 織ぎ方(色紙織ぎ・刺し織ぎ・孔織ぎ)

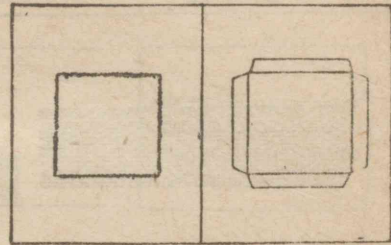
一、**色紙織ぎ** 地質の弱りたる所へ、其の部分より稍大なる共切れ又は他の切れを當てて、其の廻りを綴ち、損じ方の多少を見計ひて、共色の織ぎ絲にて、當て切れの端より一針先きを抄ひ、大針小針にて、圖の如く織ぐ仕方なり。

二、**刺し織ぎ** 地質の少し許り弱りたる所に用ふる仕方にして、色紙切れを當てずして、其の解絲又は共色の細き絲にて、織地に倣ひ刺し置くなり。

孔 織 ぎ



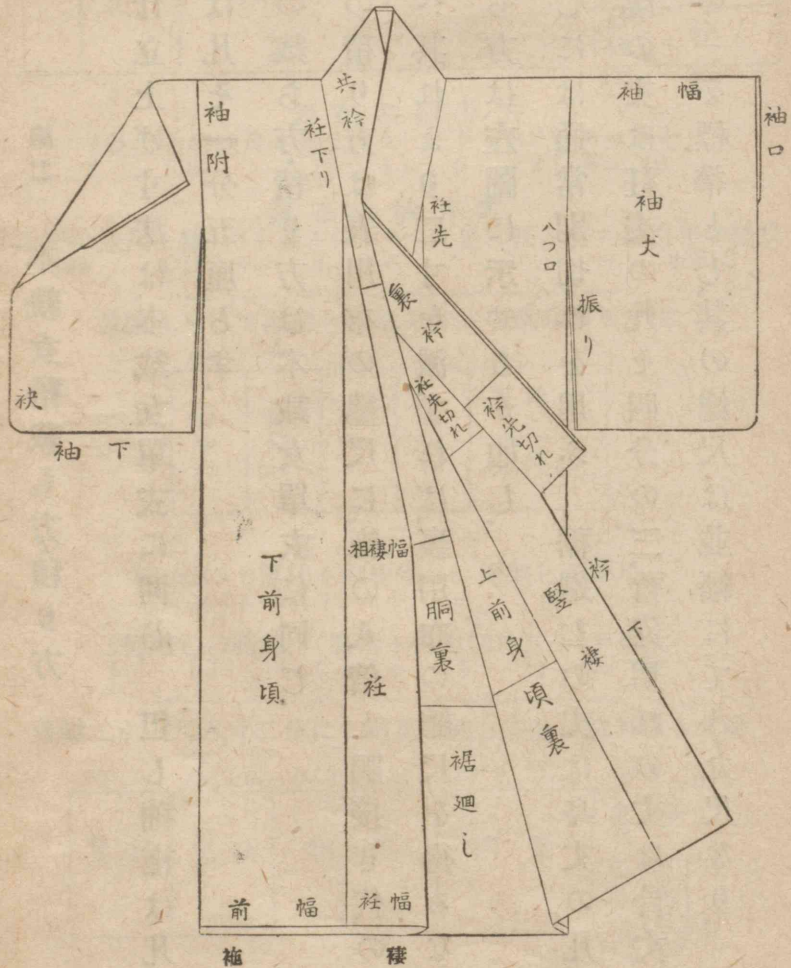
孔 織 ぎ



三、孔織ぎ(割織ともいふ) 過つて衣類に孔などの明きたるときに繕ふ仕方にして、圖に示せる如く、損所を圓形或は角形に切り去り、角には四隅に、圓には周圍に切り込みを入れ、恰好よく裏へ折り返し、次に共切れの縞目布目を合せ、廻りに假綴をなし置き、表を見て、掛け接ぎの如く、極めて小針に折り目の角に糸を掛け、表に針目の見えざるやうまつり、然る後ち其の廻りに隠し躰をなし、少しく霧を吹き、烙鏝を當て仕上ぐるなり。

第八章 本裁女袴

本裁女袴の圖



第二 本裁女袴裁ち方積り方

普通仕立上げ寸法は、本裁女單衣に同じ。但し、袖袴は凡そ五厘、裾袴は凡そ一分五厘とす。

表布の裁ち方積り方は、本裁女單衣に同じ。裏布の積り方は、表用布の總尺に、袴の八倍と胴接ぎ代の六倍とを加へ、其れより二寸を減ずれば、裏用布の總尺を得るなり。其の裁ち方は、左圖に示せるが如し。

裾廻しには通常別切れを用ふ。裾廻しの丈は身丈の凡そ三分一、堅褌の丈は衽丈の凡そ四分の三、衽先切れの丈は衽丈の凡そ五分の一を標準とし、其の總尺は並幅にて八・九尺なり。

並幅二丈九尺四寸にて本裁女袴表布の裁ち方並に裁ち切り寸法

16	16	16	16	40	40	40	40	35	35
袖	袖	身	頃	身	頃	衽	衽		
		二五		二五		共衽	衽		
						22	48		

表布の積り方
 (表用布の總尺 - 袖丈 × 4 + 衽下り × 2) ÷ 6 = 身丈
 (294 - 16 × 4 + 5 × 2) ÷ 6 = 40

裏布の積り方
 表用布の總尺 + 袴 × 8 + 接ぎ代 × 6 - 表裏衽の差 = 裏用布の總尺
 294 + 15 × 8 + 2 × 6 - 2 = 305.2

並幅九尺にて裾廻しの裁ち方並に裁ち切り寸法

15	15	15	15	25	5
裾	裾	裾	裾	堅褌	衽先
切	切	切	切	切	切
れ	れ	れ	れ	れ	れ

積り方
 裾丈 × 4 + 堅褌 + 衽先切れ = 裾廻しの總尺
 15 × 4 + 25 + 5 = 90

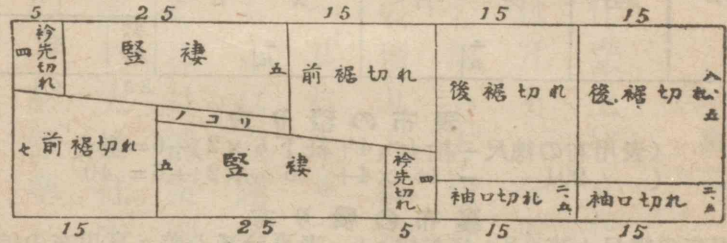
{ 裾廻しの總尺 - (堅褌 + 衽先切れ) } ÷ 4 = 裾丈
 { 90 - (25 + 5) } ÷ 4 = 15

並幅二丈一尺五寸二分にて胴裏の裁ち方並に裁ち切り寸法

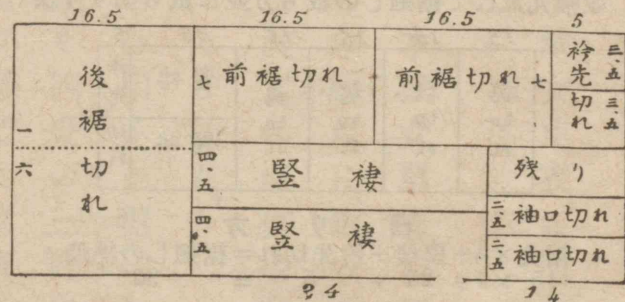
16	16	16	16	27.3	27.3	27.3	27.3	4.2
裏袖	裏袖	胴裏	裏	胴裏	裏	裏	衽	衽
		二五		二五		衽先	衽先	
						切	切	
						12.3	12.3	

積り方
 { 胴裏の總尺 - (袖丈 × 4 + 裏衽) } ÷ 4 = 胴裏の丈
 { 215.2 - (16 × 4 + 42) } ÷ 4 = 27.3

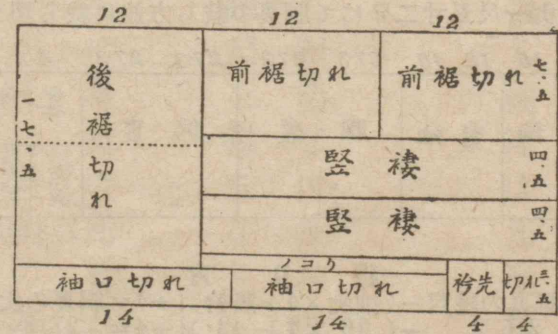
裾廻しの裁ち方並に裁ち切り寸法
(一尺一寸幅)



(一尺六寸幅)



(二尺幅)



〔設問〕

- (1) 裾廻しの各部寸法の標準を問ふ。
- (2) 胴裏の積り方を示せ。
- (3) 平箕隠し箕の掛け方を實習すべし。

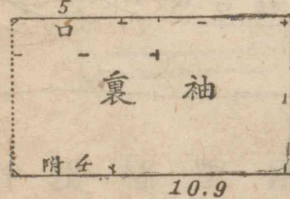
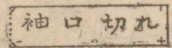
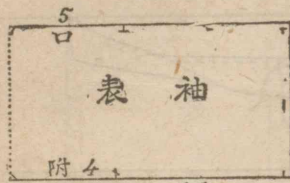
第三 部分縫

(イ) 袖

一、標付け方

練習用布並幅二枚を表裏の袖と見做し、四つ割切

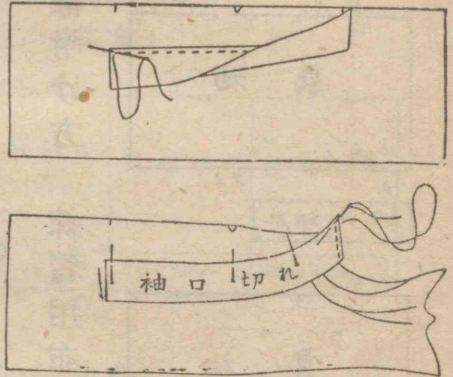
第一圖



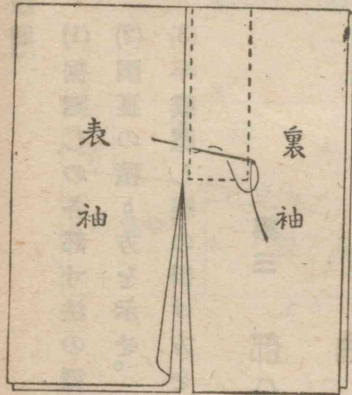
二、縫ひ方 先づ第二圖の如く、袖

れを袖口切れとし、第一圖の通り標を附く。(裏袖の丈を、振りの方にて、表袖より一分詰むべし)

第二圖



第三圖

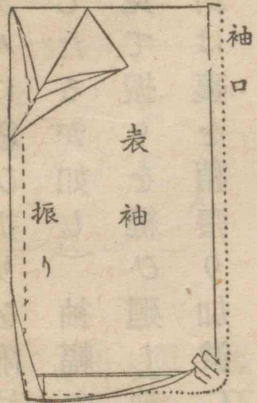


口切れを裏袖の標に合せ、袖口切れの丈標より縫ひ始め、角の所にて一針返し、標通りに奥を縫ひ行き、他方の角にて又一針返して、他方の丈標まで縫ひ、兩角を三角に折りて、袖口切れの方へ折りを附け、引き返して、裏より烙鏝を當て、躰をかけ、(厚地の切れは、丈標の所を折らず、其のまゝ、千鳥掛になすべし。)表裏の袖口標を合せ、表布を見て袖口を縫ひ、(標より一分程、兩端を縫ひ残す)五厘被せに表布の方へ折り、第三圖の如く、袖口標の所に四つ留めをなすべし。

第四圖

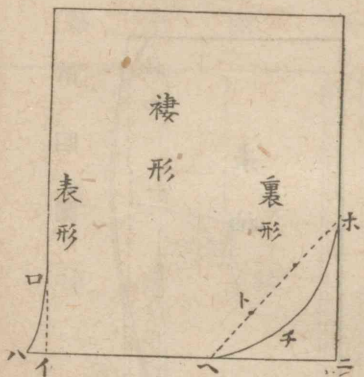


第五圖



し。四つ留めの仕方は表裏の内袖にて外袖を挟み、先づ裏の内袖の袴山より針を出して、外袖の袴山を抄ひ、次に、表の外袖の被せ山より、布の縦目に沿ひて、内袖の被せ山を淺く抄ひ、再び裏の内袖に戻り、始めの糸と結びて、撚り合せ置くなり。其れより、口下二寸程を表裏別々に縫ひ、(表は返し針になし、留より少許り縫ひ代の方へ寄せ、裏は幅の方へ五厘程寄せて縫ふべし。)表は内袖の方へ斜に折り、裏は縫ひ目を割りて、綴ぢ合せ、以下四つ縫ひに袂を縫

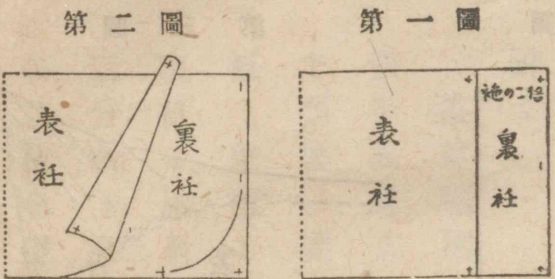
ひ廻し、袖下の三分の二程縫ひて一針留め、三分の一許りは表裏別々に縫ひ、折りを付け、(袂形は本裁女單衣の部分縫に於て説明したるが如し。)袖幅の標をなし、裏袖の幅を少しく詰め、表布を見て振りを縫ひ廻し、袖附標より一分程兩端を縫ひ残り、袖下の所は裏を稍張り加減に縫ふべし。)平烙鏝をかけ、引き返して躡を掛くるなり。



(ロ) 袂(袴二分)

一、袂形 表形の切り下げは、上圖に示せる如く、イ・ロの間を袴の一倍半、イ・ハの間を袴の四分の一とし、ハ・ロの二點に亘りて、程よく恰好を付け、標をなすなり。

裏形のニ・ホ間は袴の二倍に三分を加へたるものとし、ニ・ハの間は袴の二倍より表の切り下げを減じたる長さとし、ハ・ホ線の三分の一に當れるトよりニの方へ、袴の凡そ五分の三を隔てたる所をチとし、ホ・チへの三點に亘り、恰好よく標するなり。



二、標付け方 練習用布半幅一枚を取り、丈を二つに折りて表裏の社と見做し、第一圖の如く、裏社の裾を袴の二倍だけ出して、表裏の社を重ね、袂先及び社幅の標をなし、次に第二圖の如く、表社を除きて、裏社に袂形の標を附くるなり。

三、縫ひ方 裏社の袂形の標通り小針に縫ひ、其

第三圖



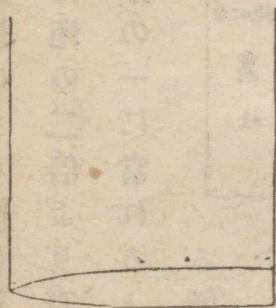
の中程にて略、表の幅と等しき長さに、絲を引き締め、烙鏝にていせを消す。表裏の標を合せ、程よく待針を打ち、裏を見て縫ひ、袷先を返し留にし、其れより、平烙鏝を當て、形を整へ、一分被せに表の方へ折り、折り目より一分五厘程上に、針目の間を五六分に隠し、襷を掛け、後ち、衿下を縫ふなり。

〔設問〕

(1) 女衿の袖につき、袖口切れの掛け方袖口の留め方を述べよ。

(2) 袷の標付け方及び縫ひ方を説明すべし。

第四圖



第四 本裁女衿標付け方

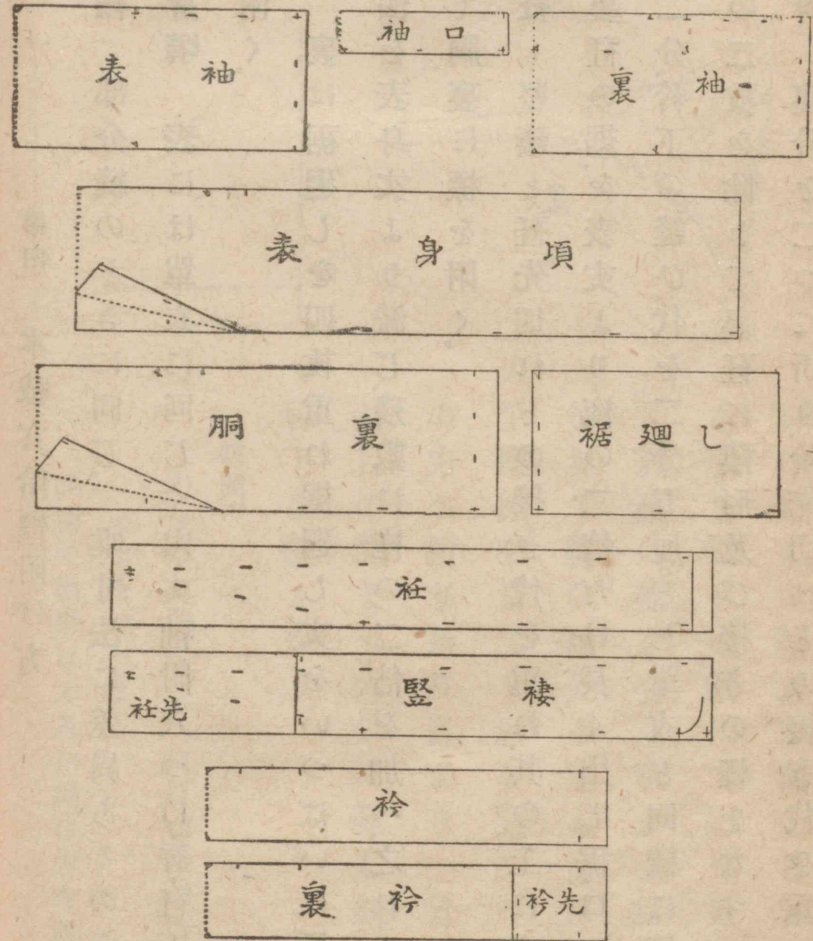
一、袖 部分縫のときと同じ。唯寸法に差異あるのみ。
 二、身頃 表には單衣と同じく、山丈袖附八つ口脊衿下りの標を附く。

裏は裾廻しを四枚重ね、裾廻し丈をいつばいに標し、其の寸法を表身丈より減じ、殘數に衿の二倍を加へ、之れを胴丈として、胴裏に標を附く。

三、衿 堅袷と衿先切れとの接ぎ代を重ね、其の上に表衿を載せ、裏衿の裾を表丈より衿の二倍だけ長く出し、裾口の縫ひ代を二分、衿下の縫ひ代を二分五厘とし、單衣と同様に標をなし、表の二枚を除きて、裏衿に袷形及び接ぎの標をなす。

四、衿 裏衿を二つに折り、衿先切れとの接ぎ代を重ね、表衿を二

本裁女袴標附け方



つに折り、山を揃へて其の上に乗せ、本裁女単衣のときに同じく標を附く。
 [設問] 本裁女袴の裾廻し及び洞裏の標附け方を述べよ。

第五 本裁女袴縫ひ方順序

- 一、袖 部分縫のときと同じ。
- 二、表身頃 脊を縫ひて肩幅後幅を標し、脇を縫ひて折りを附く。
- 三、裏身頃 洞裏と裾廻しとを縫ひ合せ、洞の方へ折り、襷を掛け、脊を縫ひて肩幅後幅を標し、表布と反対の方に折り、裾口にて後幅を五厘許り詰めて、脇を縫ひ、折りを附く。
 表裏の裾口を、表を見て縫ひ合せ、一分被せに表へ折り、襷を定め、假襷を掛け、表裏の脊脇の縫ひ目を綴ち、八つ口は前身にて後身を挟みて四つに留め、下の方より縫ひ上げ、袖附の一分下にて糸を留むるなり。
- 四、袖附 山及び附の標を合せ、附の始め終りは四つ留めになし、之れより表裏別々に小針に縫ひ、表袖は袖の方へ、裏袖は身の

方へ折りを附く。但し、袖附の四つ留めの仕方は、表袖より順次に、表身裏袖裏身を抄ひ、再び元に戻りて結び合せ置くなり。前身の表裏を合せ、衽附の方に假綴をなし、幅の標を附く。

五、**褌縫衽附** 先づ、堅褌と衽先切れとを接ぎ合せ、衽先切れの方へ折りて、躰をかけ、部分縫のときの如く、褌を縫ひ、次に、衽と前身との褌を揃へ、衽にて前身を挟み、左右とも、裾の方より一針抜きに四つ縫ひになし、表の方へ折り、次に、裏幅を少しく詰めて、衽下の表裏を縫ひ合せ、同じく表の方へ折り、引き返して、躰をかけ、衽附の所に假綴をなす。

六、**衽附** 先づ、裏衽に衽先切れを接ぎ合せ、裏衽の方へ折りて、躰をかけ、本裁女單衣のときの如く、衽附をなし、衽糸を附く。

七、**共衽** 本裁女單衣に同じ。

八、**裾綴** 表裾の折り目より一分五厘程上りたる所、衽を除くに裾綴をなす。綴ち方は、針目を小さくして、前幅に三針、後幅に四針を裏に出し、其の間に一針づつ表に出すものとす。

〔設問〕

本裁女袴の縫ひ方順序を説明すべし。

第九章 本裁男袴

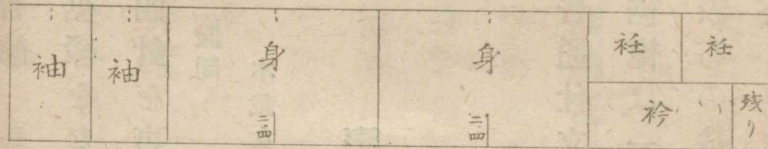
第一 本裁男袴裁ち方積り方

普通仕立上げ寸法は、本裁男單衣に同じ。但し、袖褌は五厘以内、裾褌は一分とす。

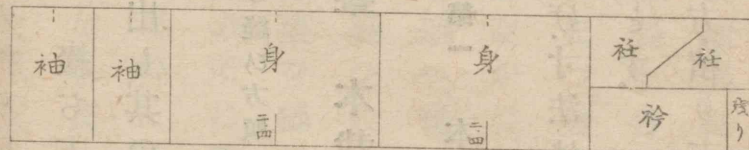
表布の裁ち方積り方は、本裁男單衣に同じ。

裏布の裁ち方積り方は、裾廻し附きの場合には、本裁女袴に同

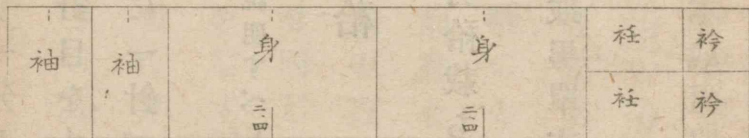
第一圖 男物裏布の棒衿裁ち方



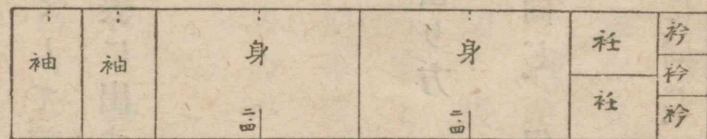
第二圖 男物裏布の鉤衿裁ち方



第三圖 男物裏布の二つ割衿裁ち方



第四圖 男物裏布の三つ割衿裁ち方



じ 唯寸法の差
 異あるのみ。
 通し裏の場合
 には第一圖の如
 く裁つべし。裏
 地の短き物は第
 二圖の如く鉤衿
 裁になし、或は第
 三圖又は第四圖
 の如く衿を二つ
 割又は三つ割に
 なすことあり。

〔注意〕 裏布の身丈及び衿丈は表布よりも、衿の二倍以上長きを要す。尙ほ餘裕
 あらば、成るべく長く裁ちて、揚を多くなし置くを宜しとす。斯くせば、仕立直
 し等の際に便利多かるべし。

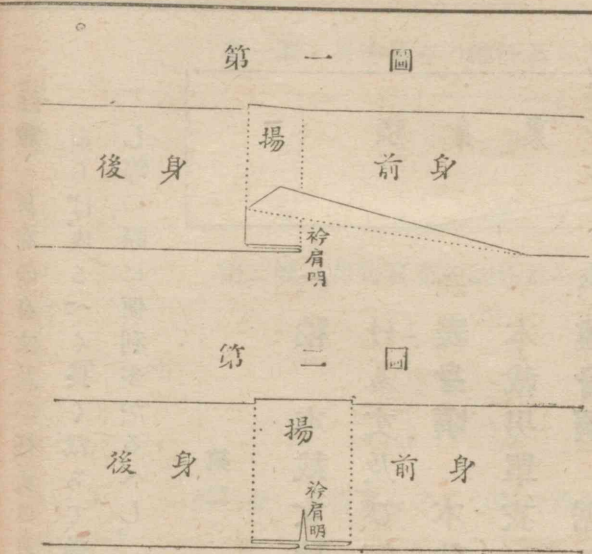
第二 本裁男衿標附け方

- 一、袖 本裁女衿に同じ。但し、裏袖の人形の方に於ける丈及び幅は表袖より五厘程詰むべし。
- 二、表身頃 本裁女衿に同じ。但し、揚の標附け方は本裁男單衣に同じ。
- 三、裏身頃 裾口を揃へ、四枚を重ねて平に裾え、丈は表より衿の二倍だけ長くし、尙ほ餘りあらば、肩にて揚の標を附け、其の所より袖附及び衿下りの標をなすこと、上圖に示すが如し。



四、衿衿 本裁女衿のときと同じ。

第三 本裁男衿縫ひ方順序



一、袖 縫ひ方は略、女衿のときと同じと雖も、人形及び袖下二寸程は表裏の袖を別々に縫ひ、表袖は常の如く折り、裏袖は人形の縫ひ目を割りて、袖下を折り、其の角を表と共に一針返して留むるなり。

二、表身頃 先づ脊を縫ひ、揚をなし、次に脇を縫ふ。

三、裏身頃 脊を縫ひ、幅標をなし(裾口にて表より五厘程詰むべし) 折りを附け(脊は表と反対の方へ折るべし) 揚をなし、其の多少により、縫ひ目を割り、又は後へ片返しになして、躰をかけ、其れより、脇縫をなし、裾口を縫ひ合せ、表裏の脊脇の縫ひ目を綴ち合す。

四、袖附 山を合せ、表布は袖にて身頃を挟み、裏布は身頃にて袖を挟み、各、四つ留めをなし、本裁女衿に倣ひて袖附をなす。前身の表裏を綴ち合せ、幅標をなす。

五、褷縫、衿附 本裁女衿に同じ。

六、衿附共衿 本裁男単衣に同じ。

七、裾綴 本裁女衿に同じ。但し、針目は前幅に四針、後幅に五針を裏に出すなり。

〔設問〕

- (1) 本裁男裕の女物と異なる所を述べよ。
- (2) 表裏の揚の仕方を説明せよ。

第十章 四つ身裕

第一 四つ身裕裁ち方・積り方

普通仕立上げ寸法は四つ身単衣に同じ。但し、衤は本裁女裕に準すべし。

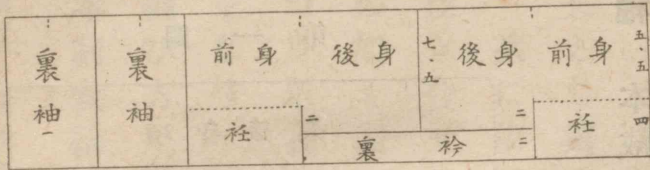
表布の裁ち方・積り方は四つ身単衣に同じ。

裾廻し付き裏布の總尺を求むるには、表用布の總尺に、衤の八倍と胴接ぎ代の四倍とを加ふべく、通し裏の場合には、表用布の總尺に衤の八倍だけを加ふべし。

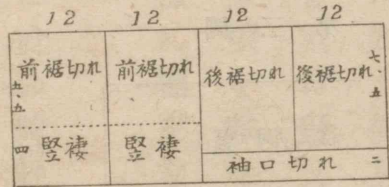
裾廻しの總尺は、並幅四尺八寸以上五尺五寸許りを通常とす。

胴裏及び裾廻しの裁ち方・積り方は左圖の如し。

並幅にて四つ身胴裏の裁ち方



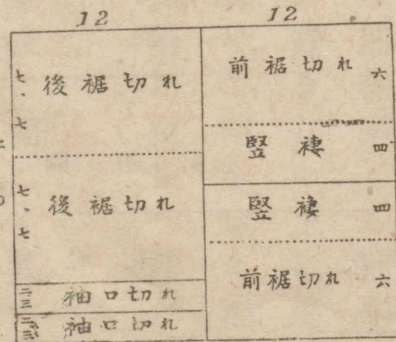
並幅四尺八寸にて裾廻しの裁ち方並に裁ち切り寸法



積り方

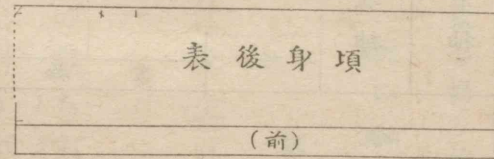
表用布の總尺 - 裾廻しの總尺 + 衤 × 8 + 接ぎ代 × 4 = 胴裏の總尺

二尺幅二尺四寸にて裾廻しの裁ち方並に裁ち切り寸法

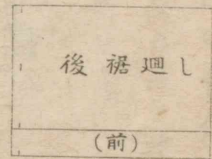


四つ身裕標付け方

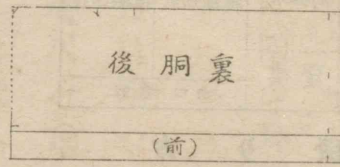
第一圖



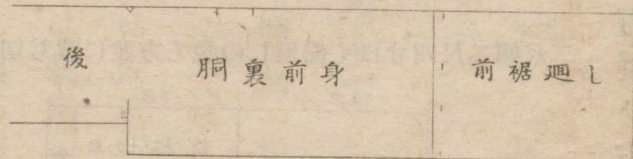
第二圖



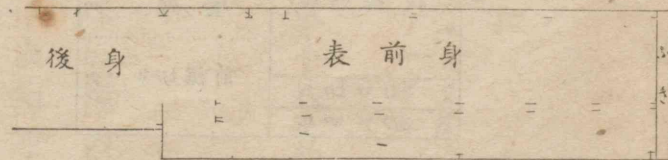
第三圖



第四圖



第五圖



一袖 本裁女裕に同じく標をなす。

二、身頃 四つ身単衣に倣ひて表身頃を重ね第一圖の如く、山附

八つ口の標をなし、裾廻しの四枚を重ね、第二圖の如く、裾丈を標し、表身丈より裾丈を減し、残數に袴の二倍を加へたるを胴丈とし、第三圖の如く、胴裏に、山丈附八つ口脊の標を附く。

次に、第四圖の如く、後身頃を左に開き、前裾廻しと前胴裏と接ぎ合せの標を重ね、針又は糸にて留め置き、其の上に、第五圖の如く、表の前身頃を載せ、各部の標を合せて、袴を定め、他は四つ身単衣と同様に、標をなし、後ち、本裁女裕に倣ひて、袴形の標をなす。

三、縫ひ方 衽及び衿の付け方は四つ身単衣に同じく、其の他は本裁女裕と異なることなし。

〔附言〕 三つ身裕の普通仕立上げ寸法及び表布の裁ち方積り方は三つ身単衣に同じ。

裾廻し付きの裏布の總尺を求むるには、表用布の總尺に、裾の六倍と胴接ぎ代の三倍とを加ふべく、通し裏の場合には、表用布の總尺に、裾の六倍だけを加ふべし。

胸裏の總尺を求むるには、表用布の總尺に、裾の六倍と胴接ぎ代の三倍とを加へ、之れより裾廻しの總尺を減すべし。

裾廻しの總尺は、並幅凡そ三尺以上三尺五寸位を通常とす。其の裁ち方は、用布を三分分し、其の一枚を半幅に裁ちて、前裾とし、他の二枚を裁ち合せて、後裾と堅褌とに充つるなり。

第十一章 本裁女綿入

第一 本裁女綿入裁ち方積り方

普通仕立上げ寸法は、本裁女單衣に同じ。但し、袖襖は凡そ一分五厘、裾襖は二三分とす。

裁ち方積り方は、表裏共に本裁女衿に同じ。

〔設問〕

- (1) 裾廻しの用布は、通常何程を要するか。
- (2) 本裁の胸裏積り方を説明せよ。

第二 部分縫 袖襖(襖三分)

一、標付け方

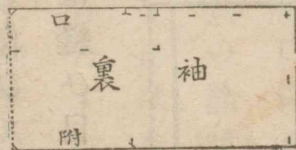
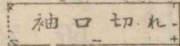
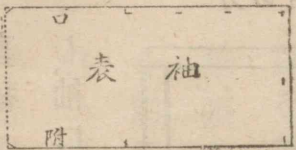
練習用布並幅二枚と、四つ割切れ一枚とを以て、表裏の袖及び袖口切れと見做し、表袖に

は、本裁女衿の如く標を附く。

裏袖には、振りの方にて、丈幅を表袖

より一分詰め、女衿の如く標をなし、其れより、圖の如く袖口標の所にて四分、

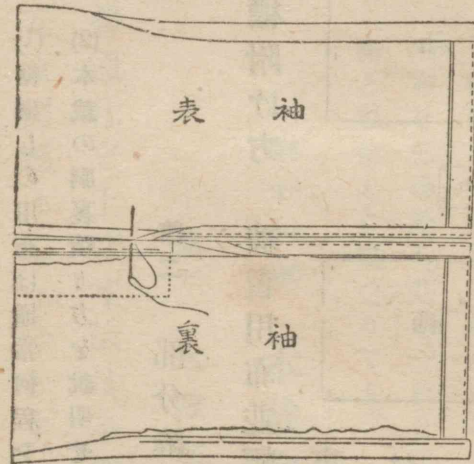
一寸程下りて袂まで五分の深さに、縫ひ代の標をなす。



三、縫ひ方

表袖 袖下より標通りに縫ひ、幅標を付け、内袖の方へ折り、引き返して麩を掛く。
裏袖 女衿に倣ひて、袖口切れを掛け、標通りに縫ひ、幅標をなし、袖口の所は縫ひ目を割り、其の他は内袖の方へ折る。

袖口・振りの綿含め方



袖・襖・綿・作り方 小袖綿の丈を袖口明の二倍より一寸程長くし、六分幅一枚に、三分幅一枚を重ねて、綿の厚薄を加減すべし。
袖・襖・綿・含め方 襖綿を袖口切れに當て、左の拇指にて綿を含めながら、右指にて襖山を折りつつ、先づ、袖口標の五分程下を一針綴ち、

次に、袖口標にて一針、又次に、五分程上に一針、其れより上は等分に一寸程の針目にて、表へは小さく針目を出して、綴ち行き、山より二分程の所に一針出し、他方の袖口明を同様に綴ち附くるなり。

紵・け方 内袖にて外袖を挟み、袖口標の所にて、極めて淺く四枚を抄ひて袖口留めをなし、袖口留めの五・六分上までは、表を稍、張り目に、其の餘は、表を弛め加減に、表の折り目の五厘内を、小針にて、綿を抄はぬ様紵け行き、其の絲にて、袂先まで表裏の縫ひ目を綴ち合すなり。

振りに薄く綿を含め、一寸二・三分おきに、表へ小さく針目を出し、袖口のとくと同様綴ち、其れより、袖下の縫ひ目の前後五・六分は裏を張り加減に、其の餘は平に、表の折り目の五厘内

を拵け行くなり。

三、襷縫ひ方 練習用布半幅一枚を衽と見做し、本裁女衿の部分縫に倣ひ、標を附けて縫ひ上げ、然る後ち、綿を入るゝなり。

裾・襷・綿・作り方 小袖綿の丈を衽幅より五分程長くし、襷の四倍・三倍・二倍幅を各一枚づつ順次に重ねて、綿の厚さを加減し、最後に襷と同寸のものを、二分襷には一枚、三分襷には二枚、襷に一分を増す毎に一枚を加ふを重ねて心となし、(真綿を細くして心に入るゝことあり)其の上に、中央より少しくずらして尺を當て、之れを二つに折り、よく壓へ置くなり。

裾・襷・綿・入れ方 襷綿を襷山に含め、假綴をなし、襷先の所は裏衽にて襷綿を包み、丈を揃へて表裏の衽下を合せ、表を見て、折り目の五厘内を小針に拵け上ぐるなり。

第三 本裁女綿入標附け方縫ひ方順序

標附け方は、袖につきては部分縫のときと同じく、其の他に、つきては本裁女衿に同じ。

縫ひ方順序は左の如し。

一、袖 部分縫のときに同じ。

二、表身頃 先づ脊を縫ひて、幅標をなし、脇を縫ひて前幅を標し、衽衿及び袖を附け、常の如く折りて烙鏝を掛く。烙鏝にて落ち着き難き品には、躰を掛く。

三、裏身頃 表身頃に倣ひて、胴裏及び裾廻しの脊脇を縫ひ、脊は表と反対の方へ、其の他は常の通り折りを附け、胴接ぎをなし、胴の方へ折りて、躰をなし、前幅を標し、其れより、衽衿袖を附け、

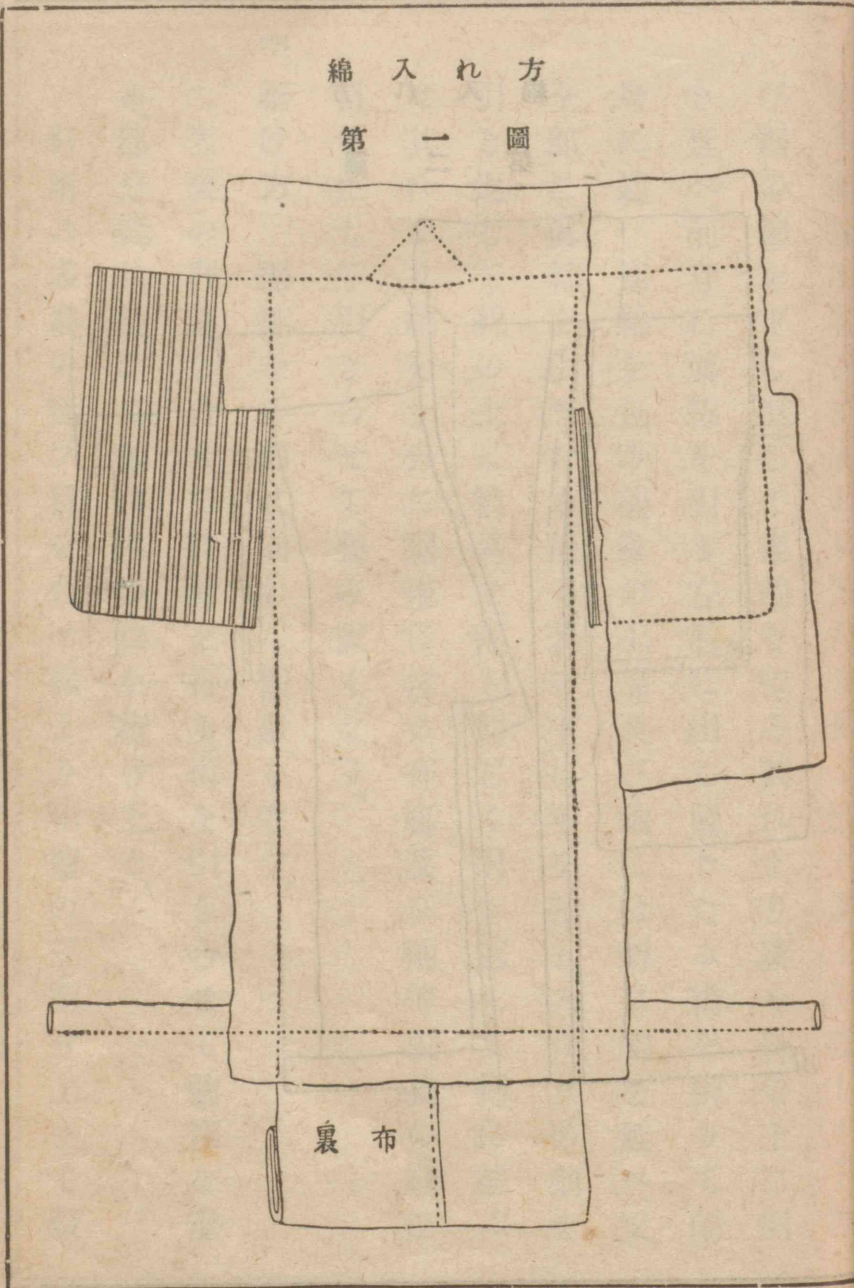
袖は身頃の方へ折り、其の他は常の如く折る。

四、裾合せ 表裏の縫ひ目を合せ、表を見て裾を縫ひ、衿の部分を除く、衿の裏を見て左右の袂を縫ひ、一分の被せに表へ折り、衿には隠し襷をなし、其の他表の衿下、裾口、八つ口等には襷を掛け、裏の八つ口に綿を含め、裏を出して夜着疊みとなす。

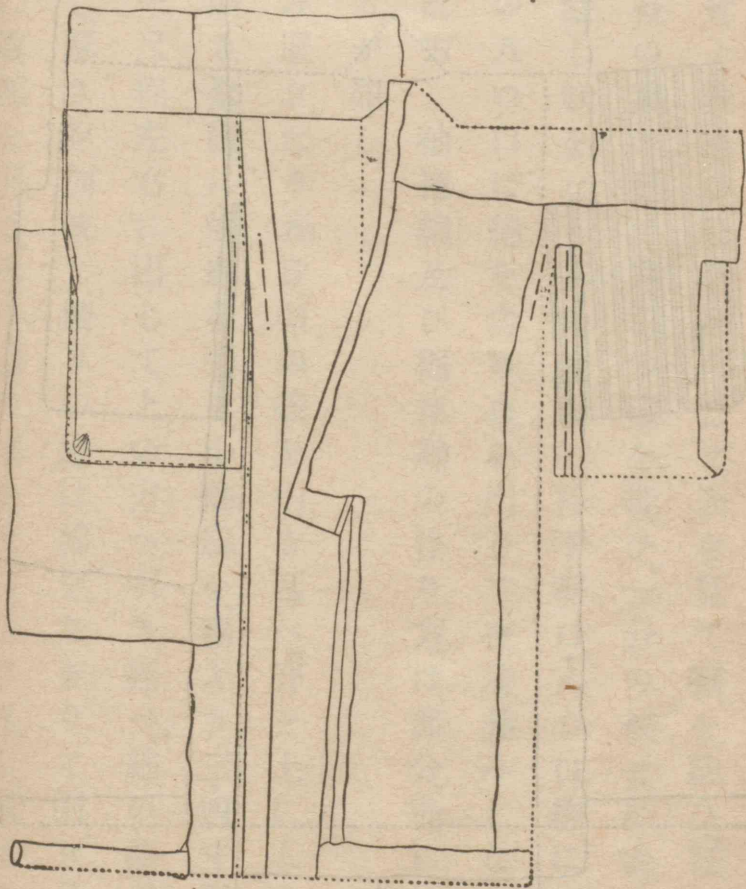
五、綿入れ方 袖襖綿及び裾襖綿の作り方は、部分縫に於て説明したるが如し。

疊み置きたる表身頃の後を引き延べ、脊を上にして、左右の袖を開き、全體に眞綿を引き、小袖綿を、裾より三四寸長く、後幅より一尺程左右に出して、上の方へ引き延べ、綿の継ぎ目を平らにし、厚さを加減し、振りの邊は綿をちぎりて引き分け、再び全體に眞綿を引き、次に、裾の綿を上折り返し、裾襖に襖綿を

綿入れ方
第一圖



綿入れ方
第二圖



据る(襖綿は襖の寸法より五六分長く出し置くを宜しとす)再び裾の綿を下に返して襖綿を包み其れより裏を綿の上に引き延べ、前身に眞綿を引き、左右に出し置きたる綿を折りて前身に延べ、襖綿を包み、前身の上部及び袖には新に綿を延べ、又全部に眞綿を引きたる後ち、表の下に手を差し入れ、其の前を引き返して綿の上に被ふせ、袖も同じく引き返して綿に被ふせ、其れより、綿を十分に裾襖に含め、脊脇及び袖等表裏の縫ひ目を正しく引き合せて、疊み置くなり。

六、**衿け方** 裾襖を手前に向けて假綴をなす。

表裏の脊筋を合せて待針を打ち、衿を引き合せて袖襖を定め、部分縫に倣ひて、袖口・八つ口を衿け上ぐ。

衿附の表裏の縫ひ目を合せ、裾より相褻の三四寸上まで綴

ち附く。

衿下の所は裏布の幅を少しく詰めて折り、綿を含め、相袷標の所にて小さく三針綴ち、衿下を拵け上ぐ。(袷先一寸程は拵けずして、縫ふことあり)

衿附の表裏の縫ひ目を綴ち合せ、三つ衿切れを入れ、本裁女衿の如く衿先留めをなし、衿先を縫ひ、衿幅を定め、然る後ち、程よく綿を整へ、假寐をなして拵け上ぐ。衿先の留め方には、衿にて衿を挟み、二本糸にて、表衿表衿裏衿裏衿の順序に、折り山を極めて浅く通し、糸の兩端を結びて、其の三本を撚り合せ置き、他の一本にて衿先を縫ふ仕方あり。

脊脇の縫ひ目を、裾より二尺程上まで綴ち、本裁女衿と同じ仕方に裾綴をなす。

〔設問〕

本裁女單衣に於て説明したる如く、共衿を掛け、衿絲を附く、袖口綿の綴ち方留め方及び拵け方を説明せよ。

第十二章 本裁男綿入

第一 本裁男綿入裁ち方積り方

普通仕立上げ寸法は、總べて本裁男單衣に同じ。但し、袖襖は凡そ一分、裾襖は凡そ二分とす。

裁ち方積り方は、表裏共に本裁男衿に同じ。

第二 本裁男綿入標附け方縫ひ方順序

標附け方は、總べて本裁男衿に同じ。但し、裏袖口下の縫ひ込みの標は本裁女綿入に同じ。裏袖の狭きものは、袖口切れを出

して補ひ、尙ほ不足なるときは、別に足し切れを附すべし。
縫ひ方は、左の順序によるべし。

一、袖 表袖を標の通り人形より縫ひ、折りを附け、引き返して襟を掛く。

裏袖も人形より縫ひ始む。其の他は、本裁女綿入に同じ。

二、表身頃 脊を縫ひ、幅を標し、揚を縫ひ、脇縫をなし、衿袷及び袖を附く。

三、裏身頃 裏の縫ひ方は表に準じ、袖附及び脊縫の折りは、表と反対の方に折るべく、他は總べて本裁女綿入に同じ。但し、用布に餘分あらば、通し裏のときには、肩にて揚をなし、裾廻し附きのときには、胴接ぎに縫ひ込み置くべし。

四、綿入れ方 紵け方及び紵け方等は、總べて本裁女綿入に同じ。但し、裾綴は本裁男袷に同じ。

第十三章 一つ身綿入

第一 一つ身綿入裁ち方 積り方

普通仕立上げ寸法は、一つ身單衣に同じ。但し、袖襖は一分五厘、裾襖は三・四分とす。

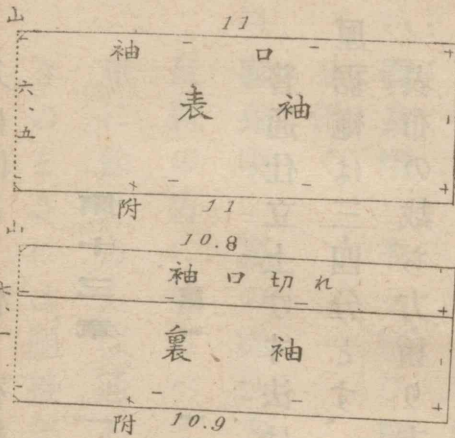
表布の裁ち方、積り方は、一つ身單衣に同じ。

裏布には、通し裏と裾廻し附きとの二様あり。

通し裏の總尺は、表用布の總尺に襖の四倍、別衿のときは六倍を加へたるものにして、裾廻し附きの總尺は、表用布の總尺に襖の四倍と胴接ぎ代の二倍、別衿のときは襖の六倍と胴接ぎ代の三倍を加へたるものなり。

第二 部分縫 潤袖ひろきそで

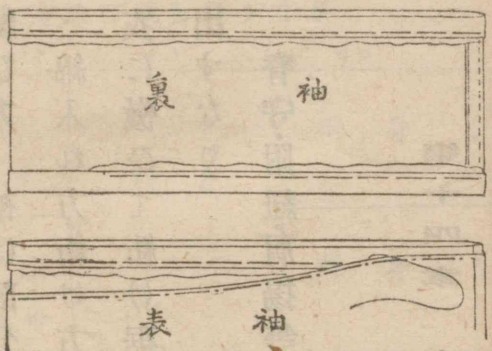
一、標附け方 練習用布並幅二枚を以て表裏の袖と見做し、左圖の如く表裏の袖を据ゑ、山丈附幅の標をなす。但し、袖口切れ



の幅を二寸五分とし、裏袖の幅を撮みて、袖口切れに代用するものとす。裏袖の丈は袖口の方にて三分、振りの方にて一分許り、表袖より詰むべし。

二、縫ひ方 先づ表の袖下を縫ひて内袖の方へ折り、袖口を標通りに折りて、襷を掛け、裏袖の幅を撮み、袖口切

潤袖口綿含め方



を抄はぬやう絞り、本裁女綿入に倣ひて振りを絞け上ぐ。

〔注意〕 一つ身には、多く筒袖を用ふれども、晴着には潤袖を用ふることあり。

れとして縫ひ、口の方へ折りて襷を掛け、次に、裏袖下を縫ひて折りを付け、袖口及び振りに綿を含ます(襷綿の作り方は本裁女綿入に同じ)

三、絞り方 表裏の山・袖下の縫ひ目を合せ、襷を定め、總體の釣合を計り、待針を打ち、袖下の縫ひ目の所を留め、表袖を見て、表の袖口折り山の五厘程内を、綿

第三 一つ身綿入標附け方縫ひ方順序

一、標附け方 袖は部分縫のときに同じ。其の他は本裁女綿入に倣ひて、標を附くべし。

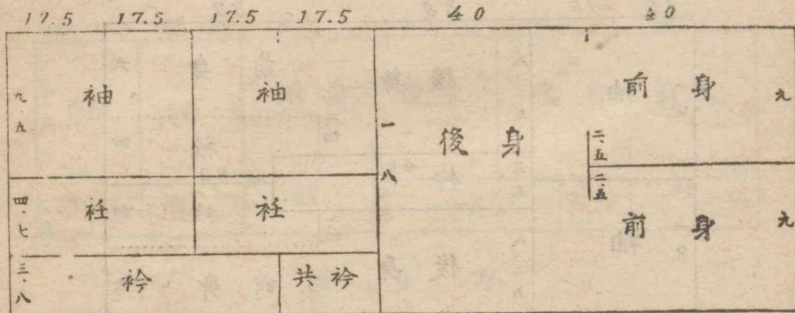
二、縫ひ方 袖は部分縫に、其の他は本裁女綿入に倣ふ。

綿入れ方、紵け方は、凡べて本裁女綿入に同じ。但し、衿は單衣に倣ひて、紵け、裾綴の針目は、前幅に二針、後幅に五針を裏に出すなり。

脊守・附紐・肩揚等は、單衣のときに同じ。

第十四章 本裁・中裁・小裁の各種裁ち方積り方

一尺八寸幅一丈五尺にて
本裁の裁ち方並に裁ち切り寸方

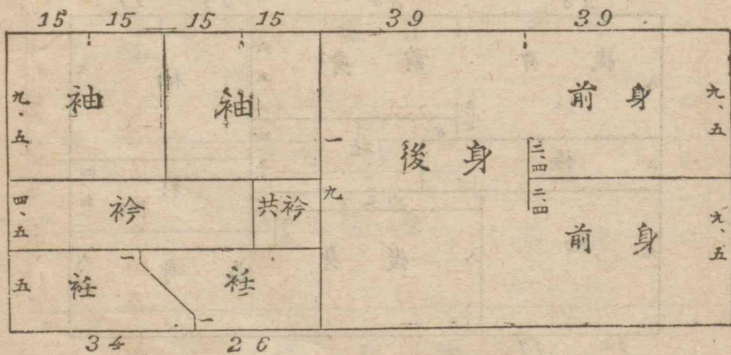


積り方

$$(用布の總尺 - 袖丈 \times 4) \div 2 = 身丈$$

$$袖丈 \times 4 + 身丈 \times 2 = 用布の總尺$$

一尺九寸幅一丈三尺八寸にて
本裁の裁ち方並に裁ち切り寸方

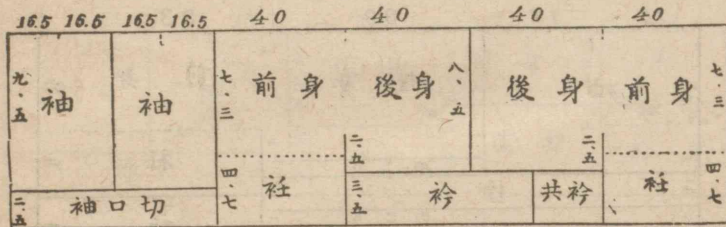


積り方

$$(用布の總尺 - 袖丈 \times 4) \div 2 = 身丈$$

$$袖丈 \times 4 + 身丈 \times 2 = 用布の總尺$$

一尺二寸幅二丈二尺六寸にて
本裁の裁ち方並に裁ち切り寸法

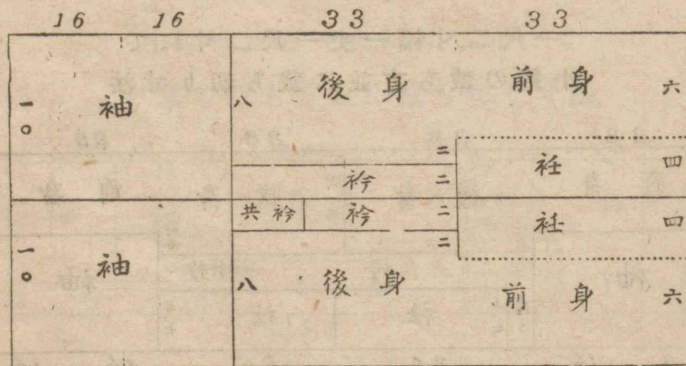


積り方

(用布の總尺 - 袖丈 × 4) ÷ 4 = 身丈
(袖丈 + 身丈) × 4 = 用布の總尺

二尺幅九尺八寸にて

中裁の裁ち方並に裁ち切り寸法

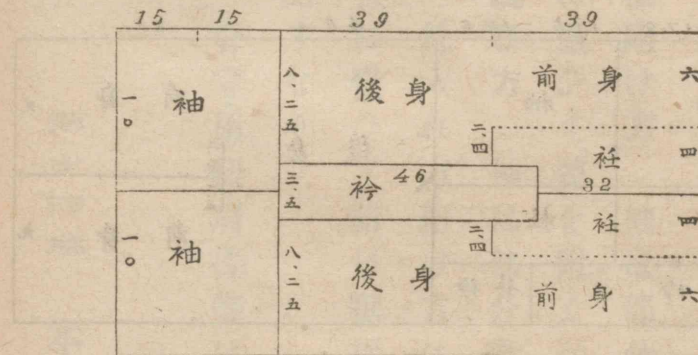


積り方

(用布の總尺 - 袖丈 × 2) ÷ 2 = 身丈
(袖丈 + 身丈) × 2 = 用布の總尺

二尺幅一丈八寸にて

本裁の裁ち方並に裁ち切り寸法

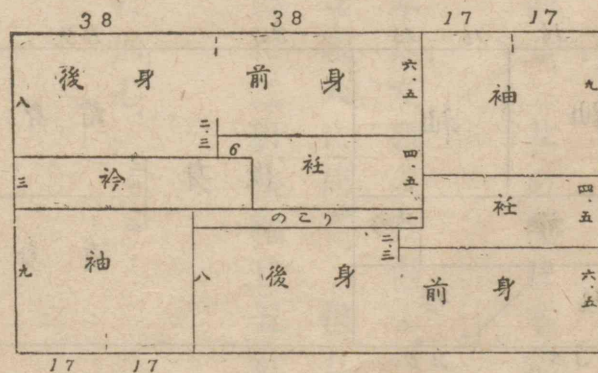


積り方

(用布の總尺 - 袖丈 × 2) ÷ 2 = 身丈
(袖丈 + 身丈) × 2 = 用布の總尺

片面物二尺幅一丈一尺にて

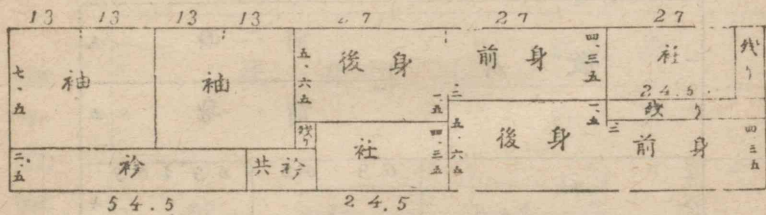
本裁の裁ち方並に裁ち切り寸法



積り方

(用布の總尺 - 袖丈 × 2) ÷ 2 = 身丈
(袖丈 + 身丈) × 2 = 用布の總尺

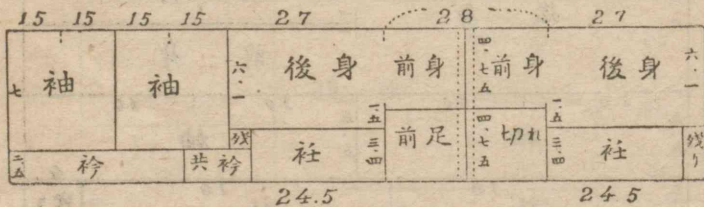
片面物一尺幅一丈三尺三寸にて
小裁の裁ち方並に裁ち切り寸法



積り方

(用布の總尺 - 袖丈 × 4) ÷ 3 = 身丈
 袖丈 × 4 + 身丈 × 3 = 用布の總尺
 (布幅 - 衿肩明) ÷ 2 = 前幅
 前幅 + 衿肩明 = 後幅

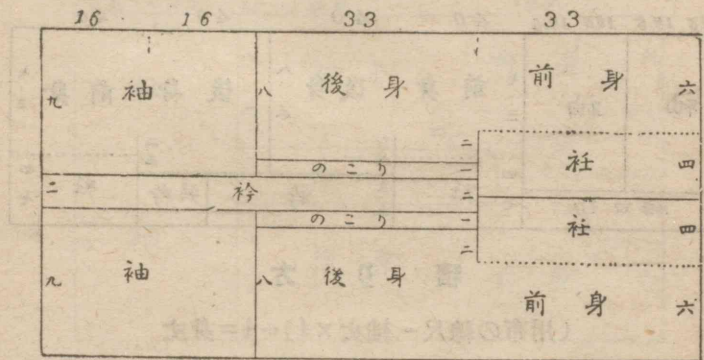
片面物並幅一丈四尺二寸にて
小裁の裁ち方並に裁ち切り寸法



積り方

(用布の總尺 - 袖丈 × 4 - 前接ぎ代) ÷ 3 = 身丈
 身丈 × 3 + 袖丈 × 4 + 前接ぎ代 = 用布の總尺

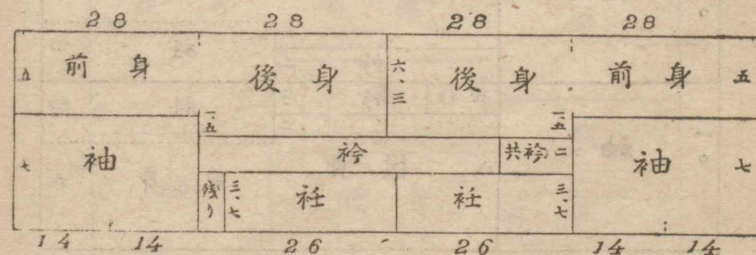
二尺幅九尺八寸にて
中裁の裁ち方並に裁ち切り寸法



積り方

(用布の總尺 - 袖丈 × 2) ÷ 2 = 身丈
 (袖丈 + 身丈) × 2 = 用布の總尺

一尺二寸幅一丈一尺二寸にて
小裁の裁ち方並に裁ち切り寸法

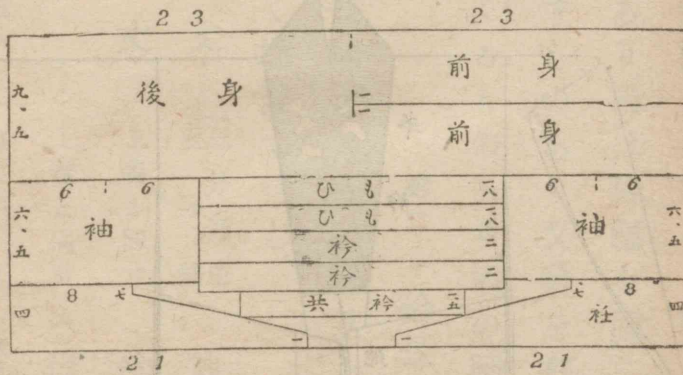


積り方

用布の總尺 ÷ 4 = 身丈
 身丈 × 4 = 用布の總尺

第十五章 長襦袢

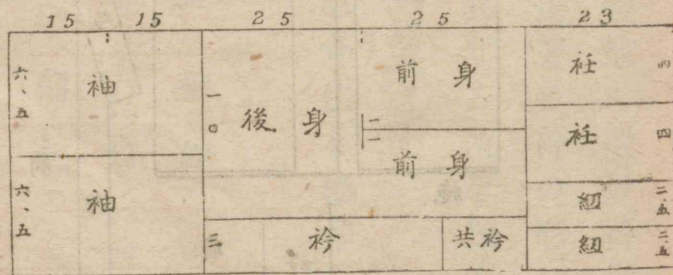
二尺幅四尺六寸にて
小裁(筒袖)の裁ち方並に裁ち切り寸法



積り方

用布の總尺+2=身丈
身丈×2=用布の總尺

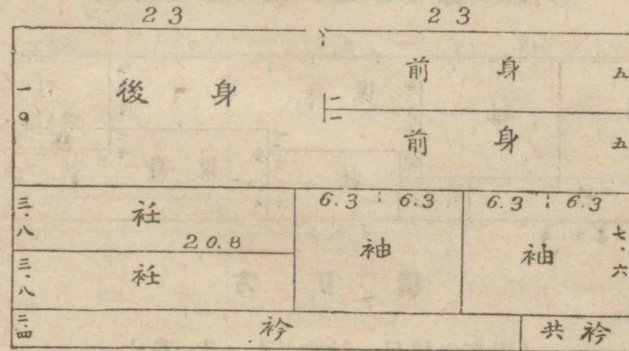
一尺三寸幅一丈三寸にて
小裁の裁ち方並に裁ち切り寸法



積り方

(用布の總尺-袖丈×2+衿下り)÷3=身丈
袖丈×2+身丈×3-衿下り=用布の總尺

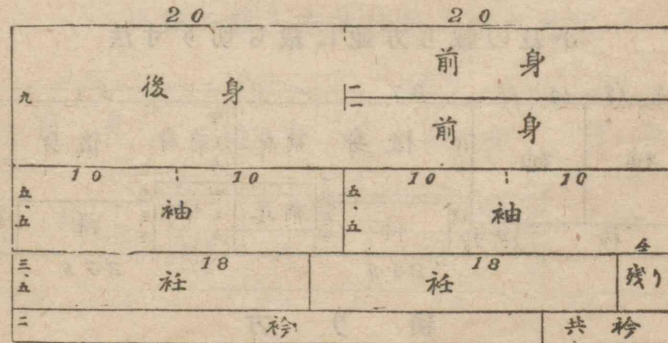
二尺幅四尺六寸にて
小裁(筒袖)の裁ち方並に裁ち切り寸法



積り方

用布の總尺÷2=身丈
身丈×2=用布の總尺

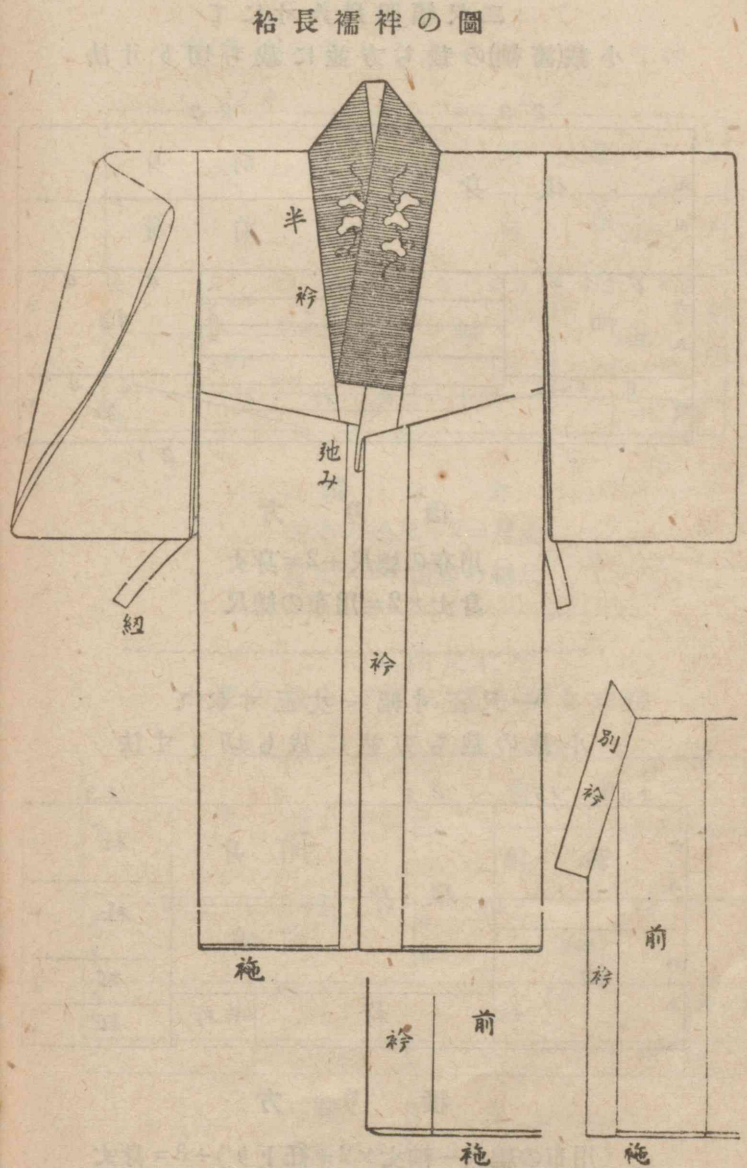
二尺幅四尺にて
小裁の裁ち方並に裁ち切り寸法



積り方

用布の總尺÷2=身丈
身丈×2=用布の總尺

第一 袷長襦袢各部の名稱



長襦袢の形狀は一樣ならず、衿幅を狭くして衿先を角になすものあり、或は衿幅を廣くして、衿の如き體裁に附け、衿先を襷形になすものあり、又衿を衿の體裁になし、長著の衿の形に別切れを附くるものあり。右の圖につきて、其の異なる所を知るべし。

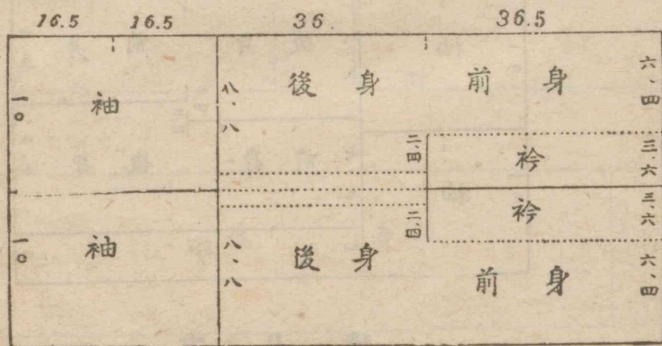
第二 袷長襦袢普通仕立上げ寸法

袷長襦袢の普通仕立上げ寸法は、上着の寸法を標準として左の如く増減すべし。

- | | | |
|-------------|---|-----------|
| 袖丈……三分乃至五分詰 | 袖附……二分詰 | 袖幅……一分詰 |
| 後丈……上着と同寸 | 衿肩明……一分詰 | 八つ口……五分増 |
| 衿……上着と同寸 | 後幅……上着と同寸
又は五分増 | 前幅……凡そ一寸増 |
| 前弛み……凡そ一寸 | 衿幅…… <small>衿は上一寸五分
分下二寸廣衿は凡そ三寸</small> | 衿……凡そ一分五厘 |

第三 袷長襦袢裁ち方積り方

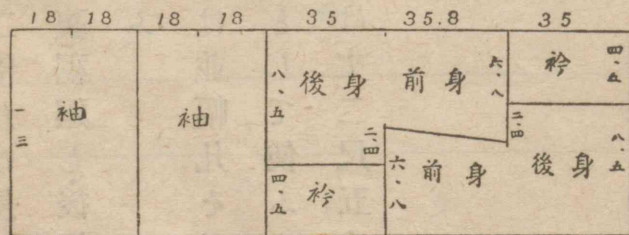
二尺幅一丈五寸五分にて
長襦袢の裁ち方並に裁ち切り寸法



積り方

$$(袖丈 + 身丈) \times 2 + 前弛み = 用布の總尺$$

両面物一尺三寸幅一丈七尺七寸八分にて
長襦袢の裁ち方並に裁ち切り寸法



積り方

$$袖丈 \times 4 + 身丈 \times 3 + 前弛み = 用布の總尺$$

並幅二丈四尺八寸四分にて
長襦袢の裁ち方並に裁ち切り寸法



積り方

$$\{用布の總尺 - (袖丈 \times 4 + 兩前弛み + 衿肩廻し)\} \div 5 = 後身丈$$

$$\{ 248.4 - (17 \times 4 + 1.6 + 3.8) \} \div 5 = 35$$

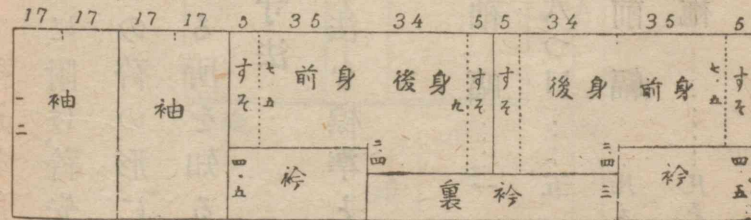
$$\{用布の總尺 - (身丈 \times 5 + 兩前弛み + 衿肩廻し)\} \div 4 = 袖丈$$

$$\{ 248.4 - (35 \times 5 + 1.6 + 3.8) \} \div 4 = 17$$

$$袖丈 \times 4 + 身丈 \times 5 + 衿肩廻し + 兩前弛み = 用布の總尺$$

$$17 \times 4 + 35 \times 5 + 3.8 + 1.6 = 248.4$$

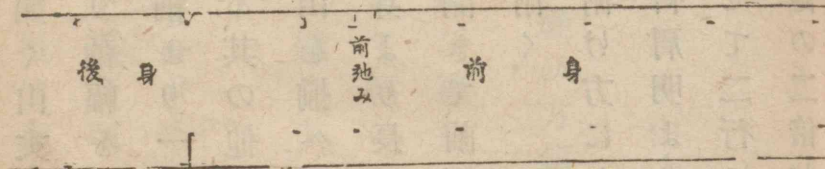
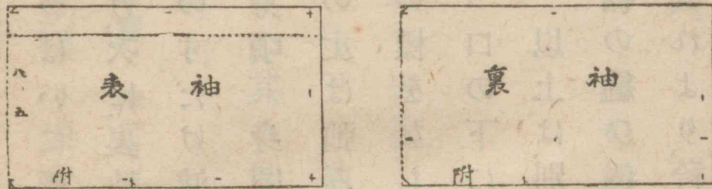
一尺二寸幅二丈二尺六寸にて
長襦袢(共裾)の裁ち方並に裁ち切り寸法



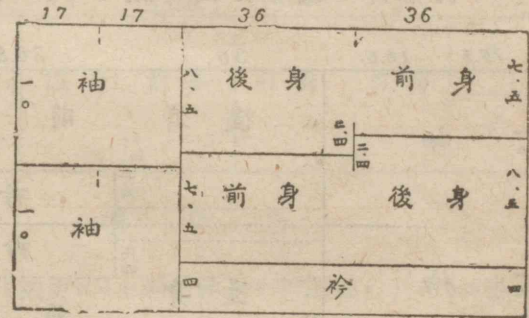
積り方

$$(袖丈 + 身丈 + 裾) \times 4 + 前弛み = 用布の總尺$$

袷長襦袢標付け方



両面物二尺幅一丈六寸にて
長襦袢の裁ち方並に裁ち切り寸法



積り方

(袖丈+身丈)×2=用布の總尺

裏用布は、衿を要せず表身丈より衿の二倍だけ長く積るべし。又袖裏裾廻し後紐には別切れを用ふ。
裾廻しは並幅凡そ二尺(半幅)を横切れとして使ふことあり。後紐切れは、丈二尺五寸幅二寸許なり。

第四 袷長襦袢標付け方

一、袖 先づ表袖を重ね、常の如く山丈附の標をなし、幅を布幅い
つばいに標し、更に振りより袖幅を計りて、袖下の所に標を附
け、次に裏袖を重ね、丈を表袖より一分詰め、又表袖の折り返し
の寸だけ減きて袖幅を定め、其の他は常の如く標す。

二、身頃 身頃を二枚重ね、肩山を揃へて、圖の如く据ゑ、山丈前身
の丈は弛みの寸法だけ後身より長くす。袖附八つ口、肩幅、後幅
の標をなし、後身頃を左に開きて、前幅の標をなし、然る後ち、八
つ口の下に前弛みの標を附く。

以上は、別衿のときの標附け方にして、撮み衿のときは、前身
裾の縫ひ込みを五分とし、衿肩明より裾まで真直に標を附け、
其れより、衿の方へ三分寄せて二行に標するなり。

裏身頃は、身丈を表より衤の二倍だけ長くして、表と同じく

標し、裾廻しの丈幅を標し、後ち、裏身頃に裾廻し附けの標をな
す。

三、衿 常の如く山より二つに折り、山丈の標を附く。

第五 袷長襦袢縫ひ方順序

一、袖 表裏の袖口を合せて縫ひ、裏袖の方へ折りて、袷を掛く。
袖下を袖口の方より始めて、幅の三分の二許り四つ縫ひに
なし、其の餘は、表裏を別々に縫ひ、其れより、振りを女衿の如く
縫ふ。

〔注意〕 袖口の縫ひ方には、裏表を毛抜合せとし、若くは衤を出すことあり。

二、身頃 表身頃の脊脇を縫ひ、裏身頃に別々に裾切れを縫ひ、附
け、裾の方へ折りて隠し、袷を掛け、裏身頃の脊脇を縫ひ、裾切れ

を横に使ふときは、先づ脊脇を縫ひ、後に裾切れを縫ひ附くべし。其れより、表裏の裾を縫ひ合せ、表の方へ折り、襖を定め、襖を掛け、表裏の脊脇を綴ち、八つ口を縫ふ。

三、袖附 袷の袖附に同じ。

表裏の前身頃の衿附標を合せて、假綴をなす。

四、衿附 標通に附け廻し、衿の方へ折りて、三つ衿切れを入れ、衿幅を三つ衿の所にて一寸五分、衿先より一尺四・五寸上迄は二寸の出来上りに折り、衿先を縫ひ、常の如く締め上げ、布幅狭きときは、裏衿を縫ひ附け、裏の方へ折りて隠し、襖を掛け、衿附をなすべし。

五、裾綴 後幅に五針、前幅に四針を裏に出すと、男衿に同じ。

六、半衿 掛け方は、女半襦袢のときに同じ。

七、紐附け方 紐を締め置き、八つ口留めの通りにて、紐の中央を脊の所に當て、其の上下を二寸程締め附くべし。

前丈の弛みを八つ口留めの所にて撮み、裏の下方へ折り込み、脇縫に留め、其れより衿縁を附く。

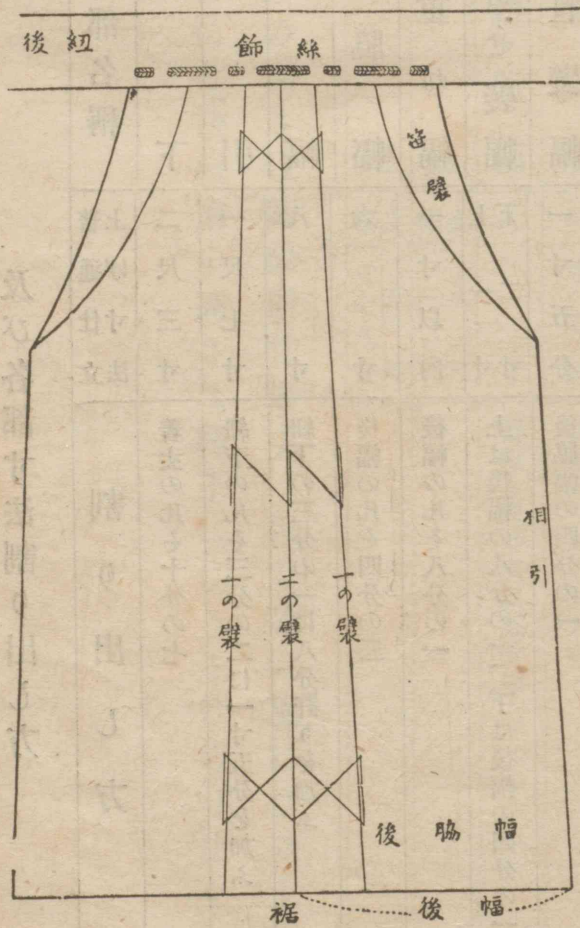
〔注意〕 地薄の品は、衿に裏打をなして衿附をなすべし。撮み衿のときは、衿肩廻しの足し切れを締め、又は千鳥掛になし、然る後、衿附をなすべく、又衿先は裾口の撮み山を適宜に切り込みて縫ふべし。

〔設問〕

- (1) 袷長襦袢の普通仕立げ寸法を問ふ。
- (2) 袷長襦袢の標附け方を説明せよ。

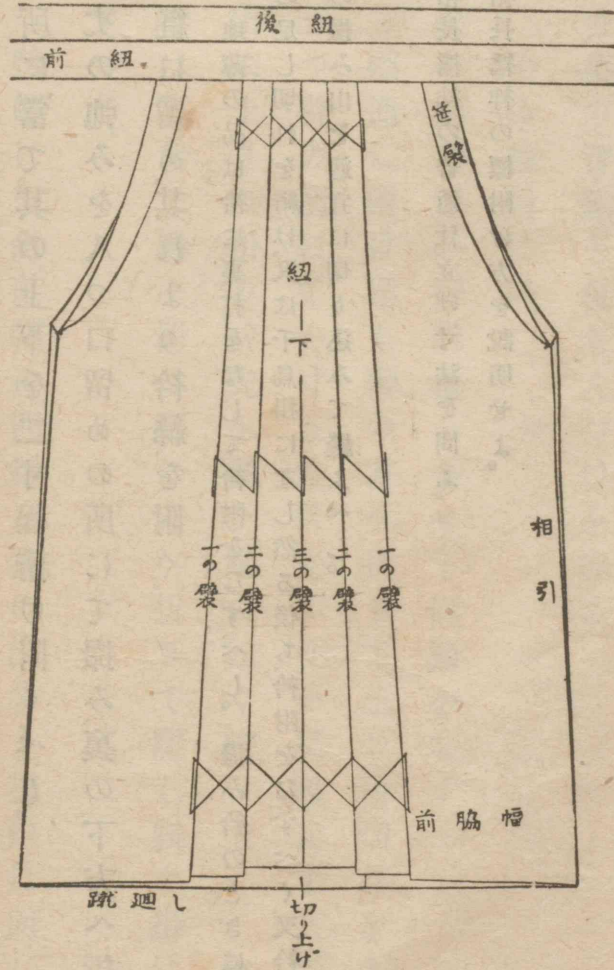
第十六章 女袴

女袴(後三つ襷)後の圖



本意文書三の巻巻紙立上り

女袴前の圖



第一 女袴各部の名稱

第二 本裁女袴(後三つ襷)普通仕立上げ寸法
及び各部寸法割り出し方

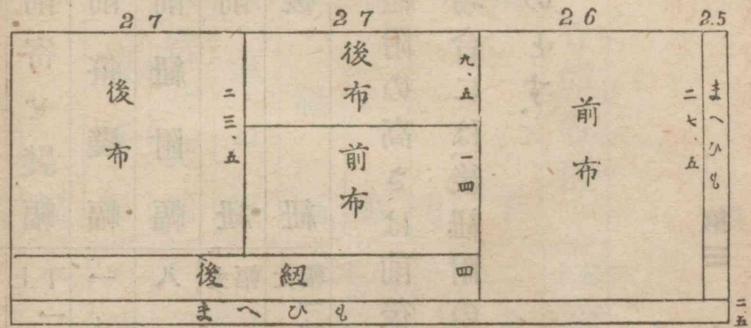
各部名稱	割り出し方
紐下	着丈の凡そ十分の七
相引	紐下の凡そ三分の二に一寸五分を加ふ
後幅	紐下の三分の一に八分許りを加ふ
後脇幅	後幅の凡そ四分の三
後重ね幅	後幅の凡そ八分の一
後寄せ襷幅	上は後幅の八分の一、下は後幅の四分の一
後笹襷幅	後脇幅の四分の一
腰幅	後幅と同寸
前脇幅	後幅の凡そ五分の三

紐附の高さは前後同寸とす。但し袴の裾に切り上げを附くる場合には、後紐附の高さは紐下に切り上げの寸法を加へたるものとす。

前重ね幅	八分	後幅の凡そ十分の一
前寄せ襷幅	上一寸八分 下一寸六分	上は後幅の十分の一、下は後幅の五分の一
前笹襷幅	一寸二分	前脇幅の凡そ四分の一
前紐幅	八寸	腰幅と同寸又は五分増
前紐	幅丈一尺一寸 幅七尺八分	
後紐	幅丈一尺一寸 幅七尺八分	

第三 本裁女袴(後三つ襷)裁ち方積り方

三尺幅八尺二寸五分にて
本裁女袴(後三つ襷)の裁ち方並に裁ち切り寸法



積り方

$$(用布の總尺 - 前紐幅 + 前後の差) + 3 = 後丈$$

$$(82.5 - 2.5 + 1) + 3 = 27$$

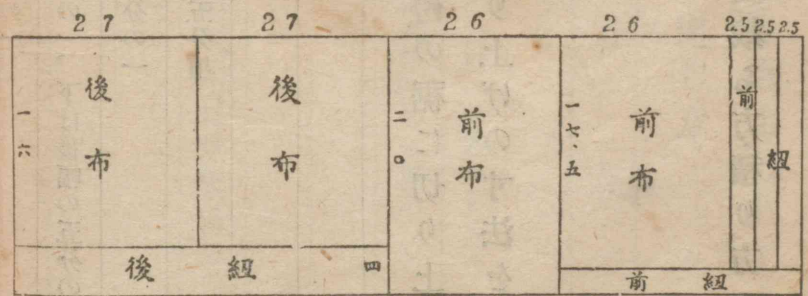
$$後丈 - 前後の差 = 前丈 \quad 前丈 - 裁ち込み = 紐下$$

$$27 - 1 = 26 \quad 26 - 3 = 23$$

$$前丈 \times 3 + 前後の差 \times 2 + 前紐幅 = 用布の總尺$$

$$26 \times 3 + 1 \times 2 + 2.5 = 82.5$$

二尺幅の布にて紐下二尺三寸の
本裁女袴(後三つ襷)の裁ち方並に裁ち切り寸法



積り方

$$紐下 + 裁ち込み = 前丈 \quad 前丈 + 前後の差 = 後丈$$

$$23 + 3 = 26 \quad 26 + 1 = 27$$

$$前丈 \times 4 + 前後の差 \times 2 + 前紐幅 \times 3 = 用布の總尺$$

$$26 \times 4 + 1 \times 2 + 2.5 \times 3 = 113.5$$

〔注意〕 後布の總幅は後幅の凡そ四倍、前布の總幅は後幅の凡そ五倍を標準とす。

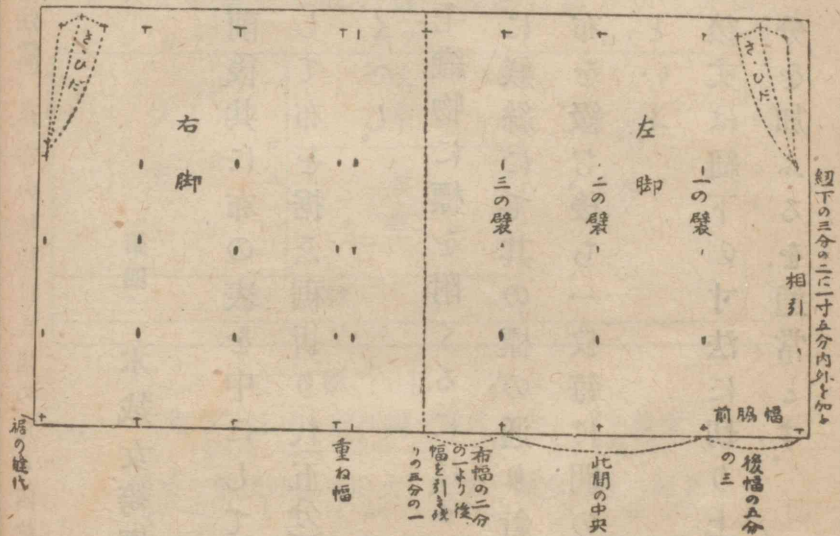
第四 本裁女袴標付け方

前後共に布の表を中にして之を重ね、腰を左にし、相引を手前にして布を据ゑ、裾折り代(五分)紐下相引後襷前襷笹襷等の標を附くべし。

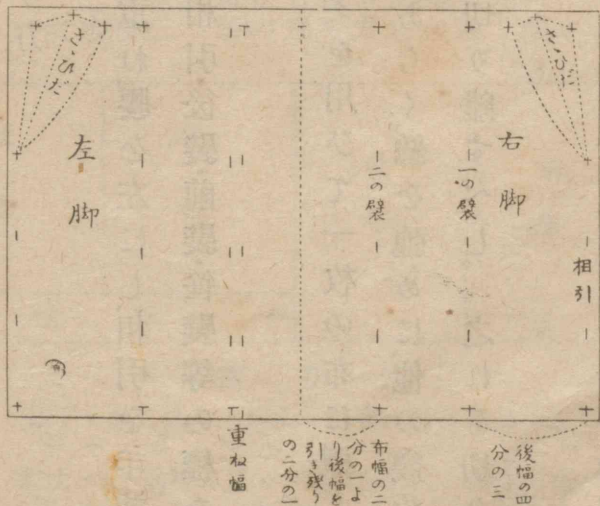
毛織物に標を附くるには、チヨークを用ひて一枚の布に標し、次に躰糸にて、其の標の通り、針目をあらく、糸を弛めに、他の幾枚の布を綴ち、後ち、一枚毎に間の糸を切り離すべし。之れを切り躰といふ。

後丈は紐下の寸法に切り上げ、裾折り(五分)の外、更に五分乃至八分を加ふるを通常とす。

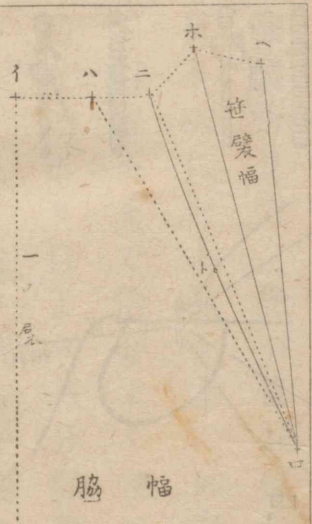
女袴前布の標付け方



女袴後布の標付け方



袴襷の標付け方



〔注意〕 總べて、布の裁ち目は、豫め纏ひ置くべし。

第五 本裁女袴(後三つ襷)縫ひ方順序

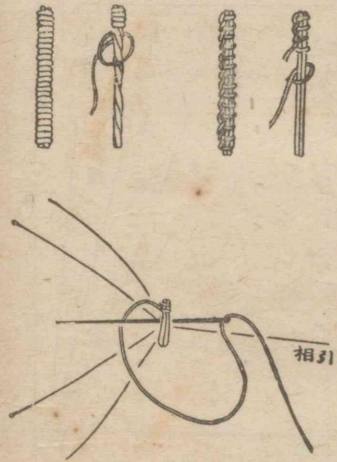
- 一、後布前布 左右の後布を裾の方より縫ひ上げ、左脚の方へ折り、前布も同様に縫ひ合せ、右脚の方へ折る。
- 二、裾紵 裾紵の仕方は單衣と同じ。相引下は、前後とも一寸程紵け残すべし。裾切れを附くるときは、相引を縫ひ合せたる

- イ、一の襷の紐附
- ロ、相引留
- ハ、イより脇幅の四分の一
- ニ、ハより脇幅四分の一の二分減
- ホロ、ハロと同寸
- ヘロ、ニロと同寸
- ニホ、ハニと同寸
- ホヘ、脇幅の四分の一
- ト、ニロの中央にて一の襷の方へ二分

後に、之れを裾に縫ひ付け、隠し襷を掛け、表布を裾より二分裏に折り返し、裾切れの上を縮け附く。

三、寄せ襷 先づ襷標通りに折りを付け置き、後布の腰を左に、裾を右に据ゑ、左脚の二の襷標を後布の中央に合せ、次に、右脚の二の襷標を左脚の二の襷標に合せて襷を掛け、其れより、一の襷を寄せて、上下の寸法通りに之れを整へ、而して上・中・下の三所に飾綴をなす。

門留の圖



前襷は、後襷に比ぶれば、唯襷數の多きのみ。其の扱ひ方は、後襷と異なることなし。

四、相引 相引を縫ひ、前布の方へ折り、上圖の如く、前後の布にかけ、門かんざり

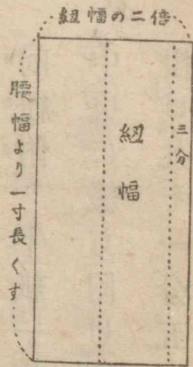
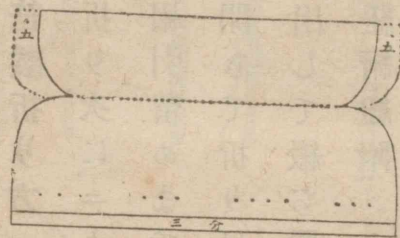
留どめをなし、其れより、裾の残りを縮け上ぐ。

五、笹襷折り方 先づ笹襷標のへより相引留へかけて、裏の方へ折り、次に、ニよりトまでを表の方へ折り、後ち、ホをハに合せて相引留めまで、恰好よく笹の葉形に折り上げ、其れより、折りを開きて、折り目より一分程内を六・七分の針目に、裏には小針を出して綴ぢ付け、後ち、笹襷の端を縮け附くるなり。

六、紐紵・紐附

紐・紵 前後の紐に心地を入れ、真中を一尺程残して縮け置く。
前・紐・附 半紙一枚を紐幅の二倍に折り、之れを前紐の紐丈の中央に綴ぢ付け、紐下の寸法に従ひ、一の襷の半ばより笹襷へ掛け、凡そ一分五厘程上りて、紐の縫ひ代折り目より五厘程内を、二本糸にて針目を二・三分とし、襷の折り目にて一針つつ返

腰紙及び飾絲針目の割り出し方

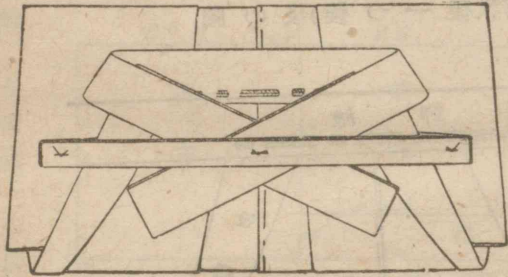


$(\text{腰幅} - 3 - \text{小針の針目} \times 10) \div 3 = \text{大針の針目}$

して縫ひ付け、次いで裏を紵け附く。

後・紐・附。腰紙は板目紙を用ひ、幅を紐幅の二倍に、丈を腰幅より一寸長く裁ち切り、上圖の如く、縫ひ代を三分として紐幅を標し、之れを折り合せ、兩端の上角を五分程の丸みに切り去り、此の腰紙を、心の上より紐丈の中央に重ね、縫ひ代の方を綴ち附け、飾絲かざりいとを掛く。飾絲は通常大針を三つ小針を四つとし、上圖の如き割り出し方によりて針目を定め、紐附より二分程上に、之れを腰紙に標し置き、左撚り右撚りの二本を合せたる太白絲にて、腰紙を通して飾絲を掛け、其

女袴の疊み方



の兩端を腰紙に綴ち附け、其れより紐と腰幅との中央を揃へ、前紐と同様に縫ひ附け、次いで裏を紵け附く。
仕・上・げ。白布を被ひ、其の上より霧を吹き、火熨斗を掛け、然る

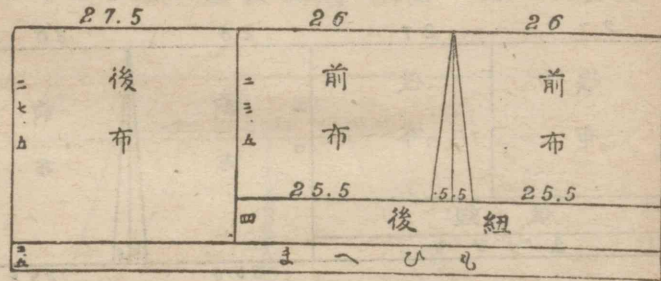
後ち、圖の如く三つ疊みとなし、後紐は左右各二つに折りて、左を下に右を上にして、十文字に之れを重ね、前紐は左右交互に折り重ねて、其の上に載せ、前紐の兩端と中央との三所に圖の如く綴ち絲を掛くべし。

〔設問〕

- (1) 本裁女袴の縫ひ方順序を問ふ。
- (2) 本裁女袴(後三つ疊)の後布前布に於ける襷の標附け方を圖解せよ。

〔注意〕 女袴(後一つ襷)後布の總幅は後幅の凡そ三倍を標準とす。
相引の高さは後三つ襷より五六分低くするを通常とす。

片面物三尺幅七尺九寸五分にて
本裁女袴(後一つ襷)の裁ち方並に裁ち切り寸法



積り方

$$\text{(用布の總尺} + \text{前後の差} \times 2) \div 3 = \text{後丈}$$

$$(79.5 + 1.5 \times 2) \div 3 = 27.5$$

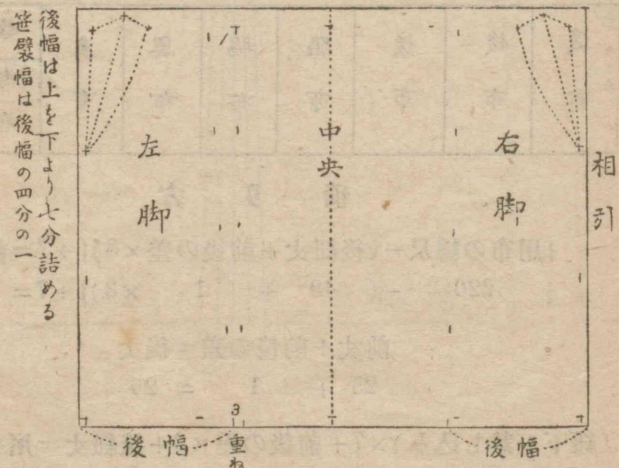
$$\text{後丈} - \text{前後の差} = \text{前丈}$$

$$27.5 - 1.5 = 26$$

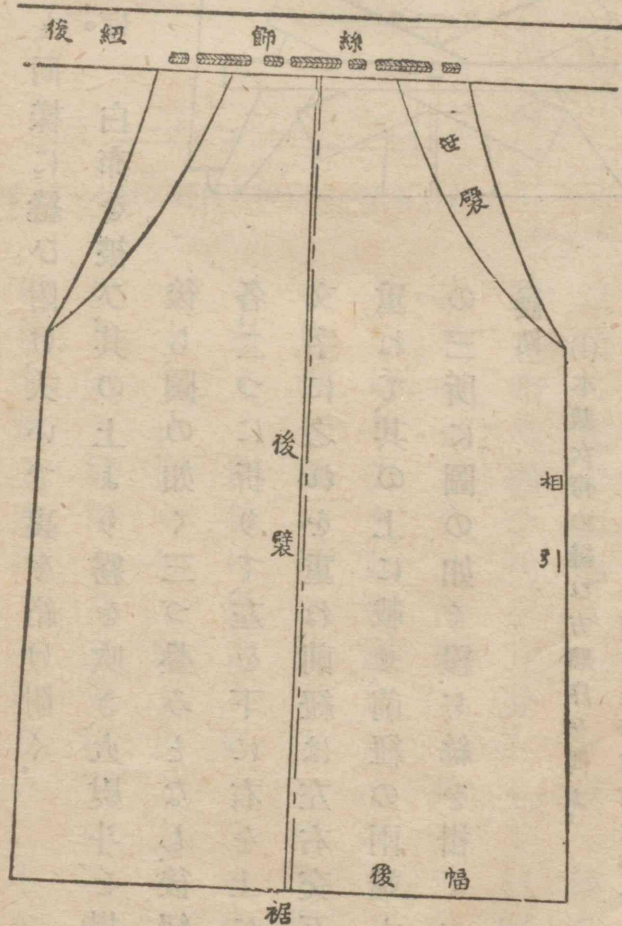
$$\text{後丈} \times 3 - \text{前後の差} \times 2 = \text{用布の總尺}$$

$$27.5 \times 3 - 1.5 \times 2 = 79.5$$

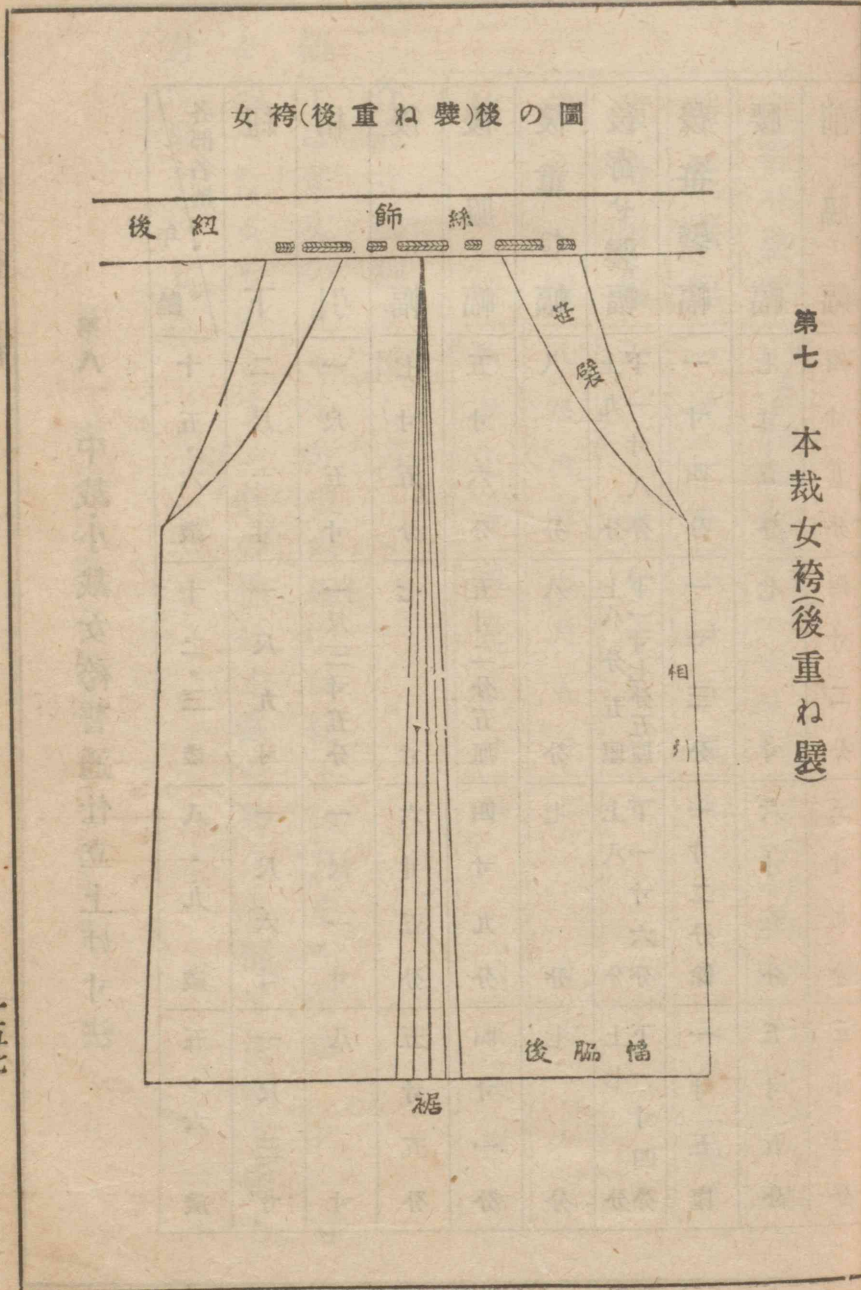
女袴(後一つ襷)の標附け方



女袴(後一つ襷)後の圖



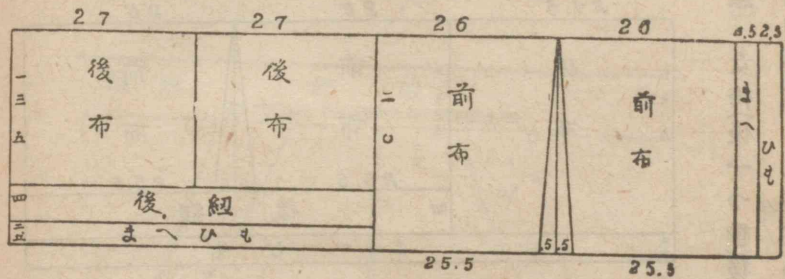
第六 本裁女袴(後一つ襷)



第七 本裁女袴(後重ね襷)

二尺幅一丈一尺一寸にて

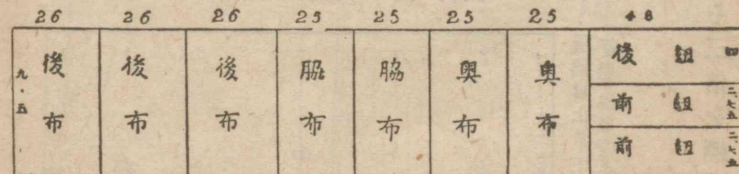
本裁女袴(後一つ襷)の裁ち方並に裁ち切りの寸法



積り方

$$\begin{aligned} &(\text{用布の總尺} - \text{紐幅} \times 2 + \text{前後の差} \times 2) \div 4 = \text{後丈} \\ &\text{後丈} \times 4 - \text{前後の差} \times 2 + \text{紐幅} \times 2 = \text{用布の總尺} \\ &\text{後丈} - \text{前後の差} = \text{前丈} \end{aligned}$$

並幅二丈二尺六寸にて本裁女袴(後一つ襷)の裁ち方並に裁ち切り寸法



積り方

$$\begin{aligned} &\{\text{用布の總尺} - (\text{後紐丈} + \text{前後の差} \times 3)\} \div 7 = \text{前丈} \\ &\{ 226 - (48 + 1 \times 3)\} \div 7 = 25 \\ &\text{前丈} + \text{前後の差} = \text{後丈} \\ &25 + 1 = 26 \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} &(\text{紐下} + \text{裁ち込み}) \times 7 + \text{前後の差} \times 3 + \text{後紐丈} = \text{用布の總尺} \\ &(22 + 3) \times 7 + 1 \times 3 + 48 = 226 \end{aligned}$$

第八 中裁・小裁女袴普通仕立上げ寸法

各部名稱	年齢	
	十五・六歳	十二・三歳
紐下	二尺一寸	一尺九寸
相引	一尺五寸	一尺三寸五分
後幅	七寸五分	七寸
後脇幅	五寸六分	五寸二分五厘
後重ね幅	八分	八分
後寄せ襷幅	上九分 下一寸八分	上八分五厘 下一寸七分五厘
後笹襷幅	一寸四分	一寸三分
腰幅	七寸五分	七寸
前脇幅	四寸五分	四寸二分
前重ね幅	七分	七分
前寄せ襷幅	上七分五厘 下一寸五分	上七分 下一寸四分
前笹襷幅	一寸一分	一寸五厘
前紐附幅	八寸	七寸五分
前	八尺内外	七尺五寸
後紐	四尺七寸	四尺五寸
後	四尺七寸	四尺
後	尺	尺
後	三尺以上	三尺以上

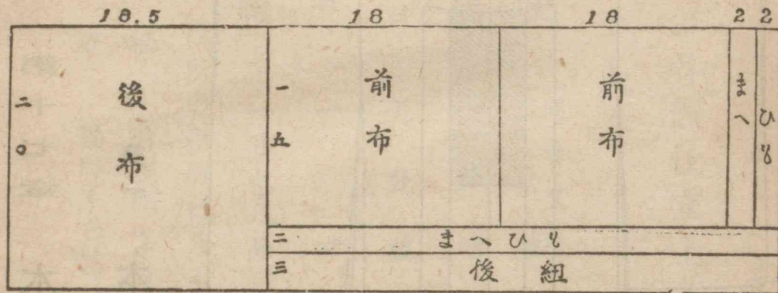
各部寸法割り出し方	
前重ね幅	七分
前寄せ襷幅	上七分五厘 下一寸五分
前笹襷幅	一寸一分
前紐附幅	八寸
前	八尺内外
後紐	四尺七寸
後	四尺七寸
後	尺
後	三尺以上

紐下は著丈の凡そ十分の六、相引は紐下の凡そ三分の二に一寸を加へたるものとす。其の他は本裁女袴の各部寸法割り出し方に準ずべし。

第九 中裁・小裁女袴裁ち方・積り方

二尺幅五尺八寸五分にて

七八歳用女袴(後一つ襷)の裁ち方並に裁ち切り寸法



積り方

$$(用布の總尺 - 紐幅 \times 2 + 前後の差 \times 2) \div 3 = 後丈$$

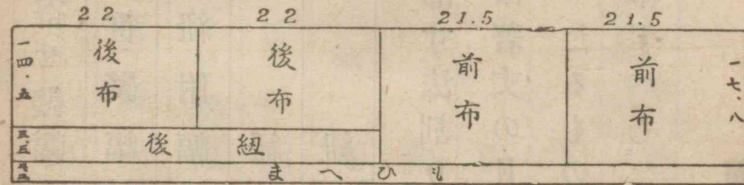
$$後丈 \times 3 - 前後の差 \times 2 + 紐幅 \times 2 = 用布の總尺$$

設問

- (1) 本裁女袴の前布及び後布の總幅は各何程にて可なりや。
- (2) 二尺幅にて、紐下二尺二寸五分の女袴(後三つ襷)を仕立てんには、用布の總尺何程を要するか。又其の裁ち方を圖解し、各部の寸法を記入せよ。

二尺幅八尺七寸にて

十四五歳用女袴(後三つ襷)の裁ち方並に裁ち切り寸法



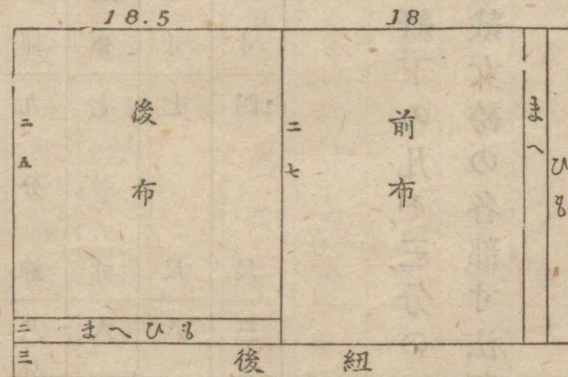
積り方

$$(用布の總尺 + 前後の差 \times 2) \div 4 = 後丈$$

$$後丈 \times 4 - 前後の差 \times 2 = 用布の總尺$$

三尺幅四尺五分にて

七八歳用女袴(後三つ襷)の裁ち方並に裁ち切り寸法



積り方

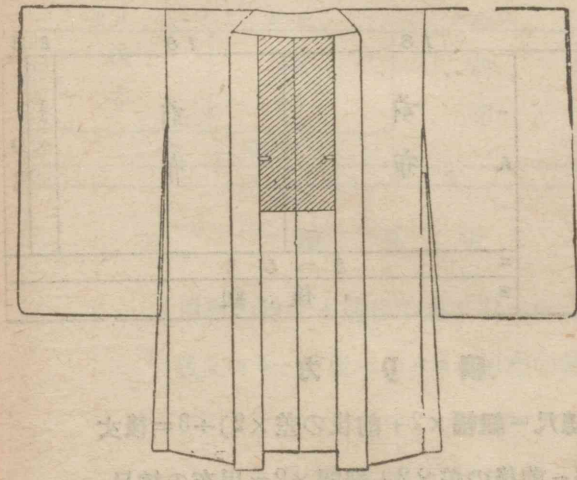
$$(用布の總尺 - 紐幅 \times 2 + 前後の差) \div 2 = 後丈$$

$$後丈 \times 2 - 前後の差 + 紐幅 \times 2 = 用布の總尺$$

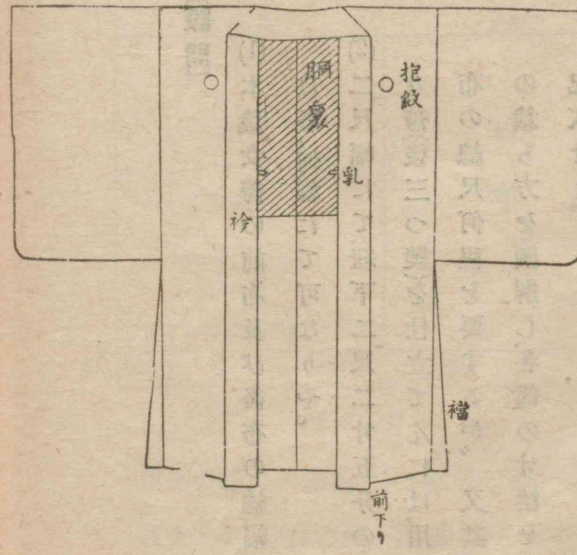
第十七章 本裁女綿入羽織

第一 本裁羽織各部の名稱

本裁女羽織の圖



本裁男羽織の圖



第二 本裁女綿入羽織普通立上げ寸法

羽織の各部仕立上げ寸法は長着の寸法に據り、凡そ左の如く増減すべし。

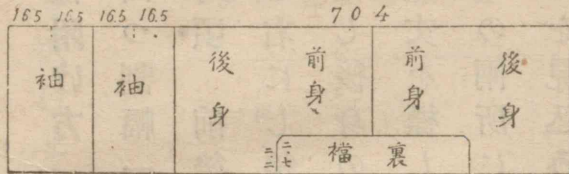
- 袖丈……同寸又は二分増 袖口……同寸 袖附……二三分増
 - 袖幅……一分増 身丈……着丈の四分の三に一寸増 衿肩明……一二分増
 - 身八つ口……五分減 衿……同寸 後幅……同寸
 - 前下り……一寸 乳下り……脊より凡そ一尺一寸 襠幅……上四・五分 下一寸七八分
 - 衿幅……一寸七八分
- 〔注意〕 紋所の位置は凡そ左の如し。
- 脊紋……衿肩明より一寸七八分裁ち切り
 - 抱紋……肩山より四寸
 - 袖紋……袖山より二寸

第三 本裁女綿入羽織裁ち方・積り方

〔設問〕

- (1) 本裁女綿入羽織の衿丈を積るには如何にすべきか。
 (2) 並幅二丈八尺にて本裁女綿入羽織の表布を裁つに當り、袖丈を一尺六寸五

同裏布の裁ち方並に裁ち切り寸法



積り方

$$\text{袖丈上り} \times 8 + \text{身丈} \times 10 + \text{總縫ひ代} - \text{表用布の總尺} = \text{裏用布の總尺}$$

$$16 \times 8 + 26.5 \times 10 + 26.4 - 283 = 136.4$$

$$\text{裏用布の總尺} - \text{袖丈} \times 4 = \text{胴裏の總尺}$$

$$136.4 - 16.5 \times 4 = 70.4$$

〔注意〕 總縫ひ代の見込み左の如し。

- 袖 寸
 - 身 頃 …… 四 寸
 - 衿肩廻し及び衿先 …… 一 尺
 - 前下り …… 六寸〔前下りの一寸、肩線り感し一分の二倍、縫ひ代の三分を加へ、之れを四倍したるもの〕
 - 三つ衿 …… 二寸四分〔縫ひ代三分の八倍〕
 - 合計 …… 二尺六寸四分
- 胴裏に餘分を生ずるときは、後身に縫ひ込み置くをよしとす。

並幅二丈八尺三寸にて

女綿入羽織の裁ち方並に裁ち切り寸法
 (袖丈一尺六寸上り身丈二尺六寸五分)



積り方

$$\{ \text{用布の總尺} - (\text{袖丈} \times 4 + \text{衿丈} + \text{前後の差} \times 2) \} \div 4 = \text{後丈}$$

$$\{ 283 - (16.5 \times 4 + 6.3 + 5 \times 2) \} \div 4 = 36$$

$$\text{後丈} + \text{前後の差} = \text{前丈}$$

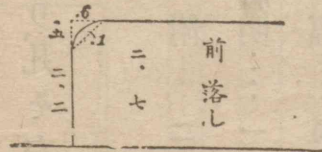
$$36 + 5 = 41$$

$$\text{袖丈} \times 4 + (\text{後丈} + \text{前丈}) \times 2 + \text{衿丈} = \text{用布の總尺}$$

$$16.5 \times 4 + (36 + 41) \times 2 + 6.3 = 283$$

〔注意〕 衿丈は、身丈に、衿

肩明前下り及び衿先の縫ひ代として、凡そ五寸を加へ、之れを二倍して、其の寸法を定むるなり。

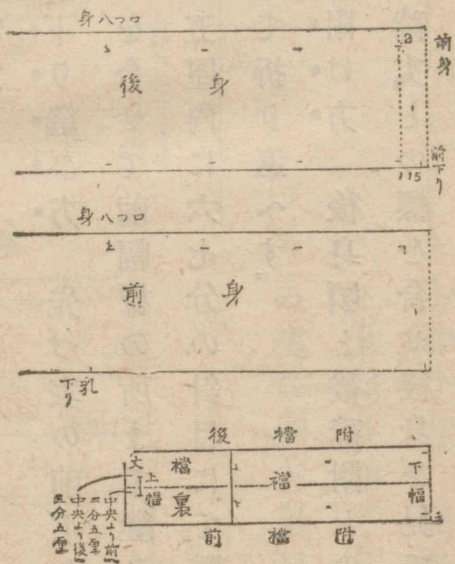


分裁ち切り、身丈を二尺六寸とせば、其の他の裁ち切り寸法は何程なりや。
(3) 衿肩明の廻し方を圖解すべし。

第四 部分縫 身頃・褶・衿

一、標附け方 練習用布半幅二枚を取り、之れを前後の身頃とし、四つ割幅一枚を褶と見做し、褶の裏切れには別切れを用ふ。
身頃 前後の身頃を取り、各、表を中にして、二つに折り、輪の方を右にし、後身を一寸三分引き、前身の上に載せ、身八つ口を標し、後身の裾口に幅標をなし、之れより二分下りて、前身に前脇丈を標し、後身の裾口より一寸一分五厘下りて前丈を標し、此の兩所に尺を渡して、前下りの標をなし、前丈に一寸一分五厘を見込みたるは、前下りを一寸、表の折り返しを一分、被せを五厘と積りたるなり。又前脇丈に二分を見込みたるは、表の

本裁女綿入羽織 身頃・褶の標附け方



折り返しを一分、被せを五厘、前褶附と後褶附との差を五厘と積りたるなり。其れより、後身を除き、前身に身八つ口以下の幅標及び乳下りの標をなし、次に、後身にも同様幅標をなす。 褶 後身の身八つ口標より裾口までの寸法を計り、これより五厘程引きたるを褶丈とし、褶丈に褶の上部の縫ひ代五分程を加へ、餘りを表の方へ折り返し、裾を右に、前褶附を手前にし、褶裏と褶との上部を揃へて、褶裏を褶の上に載せ、裾に山標をなし、丈を標し、裾口にて、縫

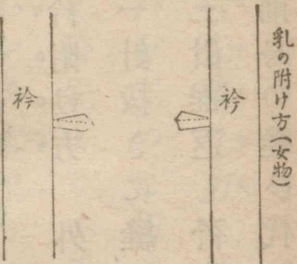
ひ代を二分として、前襜附を標し、一分の被せを見込みて、下幅の標をなし、襜丈の所にて、下幅の中央より後へ三分五厘、前へ二分五厘を計りて、上幅の標をなし、其れより、前後の襜附を標し、次いで襜接ぎの標をなす。

二、縫ひ方

前下り縫ひ方 先づ表の前下り標と、裏の前下り標の二分内とを合せて、前幅標の所まで縫ひ、裏の方へ折り、折り山より一分五厘内に、六七分の針目にて、隠し躰を掛け、表布を一分ふかせて折り返へす。

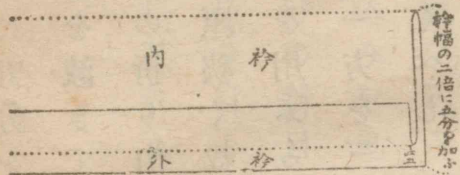
襜附け方 後身頃と後襜附との裾の折り山を合せ、身八つ口と襜丈との標を合せ、後身を見て縫ひ、後身の方へ折り、又同様に前襜附をなし、前身の方へ折り返し、前身の衿附の方を表裏

女羽織乳の附け方



綴ち合す。
乳附け方 幅四分丈一寸一分程の切れを用ひ、上圖の如く凡そ一分の幅に、乳を折り、前身の裏に、四五針通して縫ひ附く。

衿の折り方 第一圖



第二圖



第三圖



衿折り方
練習用布並
幅一枚を衿
と見做し、衿
幅を一寸七
分と定め、先
づ耳の方よ
り、衿幅の二

倍に五分を加へて、三寸九分に外衿を折り、其の幅より四分五厘を減きて、内衿を折り、(第一圖)又輪の方より六分内の所に内衿の折り山を合せて、之れを二つに折り、(第二圖)心を衿幅より五厘狭く裁ち切り、内衿に包みて綴ち合す。(第三圖) 若し、二枚心を用ふるときは、衿幅の二倍より四分狭く心切れを裁ち切り、一方を三分廣くして、幅を二つに折り、前の如く、内衿に綴ち附くべし。

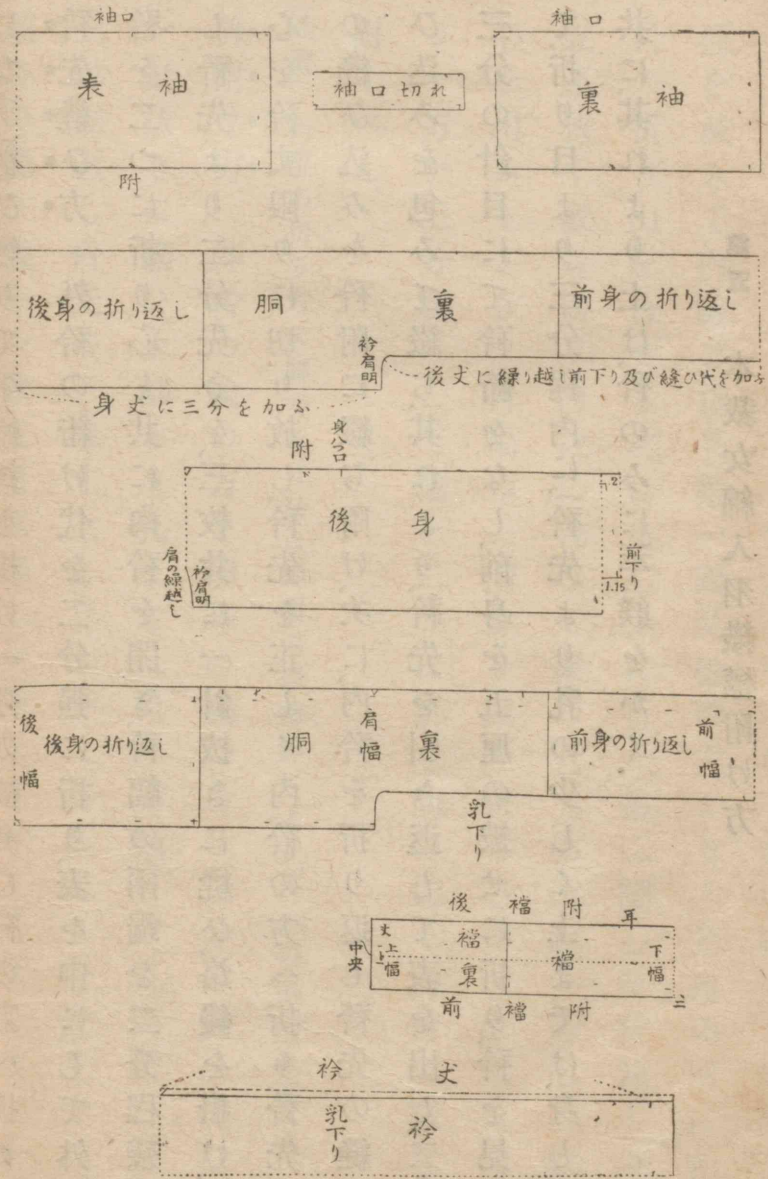
〔注意〕 衿幅の折り方に關する寸法は地質の厚薄等により、多少の斟酌を要す。

衿・附・け・方 外衿の輪の方を前身の裏に合せ、二分の縫ひ代に、一針抜きに縫ひ、上部より乳までは、衿を稍弛めに、乳の所にて三針程返し、衿先の三・四寸上までは平に、其れより衿先までに、前身の縫ひ代を一分五厘程深くし、衿先の方二・三寸は返し針

になす。縫ひ終りて、平烙鏝を掛け、一分の被せに衿の方へ折る。
衿・先・縫・ひ・方 外衿の縮け代を二分強に折り、表を中にして外衿を二つに折り、心と共に内衿を開き、衿幅の兩端を二分程残り、衿先より二分先きを、三枚共に一針抜きに縫ひ、烙鏝を掛け、心を衿丈限りに切り放し、衿先を正しく内衿の方へ折り、衿先の縫ひ込みを衿附に綴ち附け、次に、内衿を折り返し、衿先の縫ひ込みを包みて綴ち、其れより、衿先を引き返して表を出し、二分の針目にて衿縮をなし、前身を五厘の被せに折り、衿を見て、折り目より三分程内に、衿先より乳の少しく上までは、身と共に、其れより上は、衿のみに平熨をかく。

第五 本裁女綿入羽織標附け方

本裁女綿入羽織の標付け方



一、袖 本裁女綿入の袖に同じ。

二、身頃 表身頃を中表に重ね、衿肩明を手前に、後身頃を左に据ゑ、身丈に三分の縫ひ代を加へて、後丈を標し、其の所より折り返し、後丈に肩の繰り越すと前下り及び其の縫ひ代を加へて、前丈を標し、又其の所より折り返す。

胴裏を中表に重ね、圖の如く、表身頃の上に載せて、待針を打ち、肩の繰り越しを定め、其の所より、後身頃を折り返して、前身頃に重ね、圖の如く、山袖附身八つ口及び脊の縫ひ代を標し、部分縫のときの如く、裾にて後幅の標をなし、之れを前身に移して、前幅の標となし、其れより、前下りの標を付け、次に、圖の如く再び後身頃を開きて、前後の身幅乳下り及び胴接ぎの標をなすなり。胴接ぎの標をなすには、胴裏の下に、厚紙などを挿み、

表に標の通らざる様注意すべし。

三、**襷** 襷を中表に重ね、部分縫のときの如く、之れを折り、襷裏を
中表に重ね、上部を揃へて襷の上に載せ、待針を打ち、丈裾の折
り山前後の襷附及び襷接ぎの標を附く。

四、**衿** 部分縫のときの如く、衿幅を折り、又丈を二つに折りて、圖
の如く、山を標し、衿肩廻し、及び前下りを凡そ四寸と見込み、之
れを後丈に加へて、衿丈を標し、次いで、乳下りの標を附く。

第六 本裁女綿入羽織縫ひ方順序

一、**袖** 本裁女綿入に同じ。

二、**身頃** 前後の胴接ぎをなし、部分縫のときの如く、前下りを縫
ひ、次に、襷裏を接ぎ、いづれも裏布の方へ折り、襷を掛く。

脊縫・襷附 脊を縫ひ、常の如く折り、次に、部分縫のときの如く、
後襷附・前襷附を縫ふ。

三、**袖附** 本裁女綿入のときに同じ。

四、**綿入れ方** 長着のときに同じ。但し、裾には別に施綿を用ひ
ず、唯少しく綿を厚くなしおくべし。

五、**紵け方**

裾 裾口より凡そ一寸程上に仮綴をなす。

袖口・身八つ口 長着の紵け方に同じ。

前・襷綴 裾口より表裏の縫ひ目を綴ち合す。

前・綴・乳附 前身の衿附を表裏合せ、表幅を稍張り目に待針を
打ち、前下りの所より衿肩明を廻り、全體に仮綴をなし、次に、部
分縫のときの如く、乳を附く。

衿・附・輪の方の衿山を裏身頃の脊筋に合せ、衿肩廻し及び乳下りまでは、衿を稍弛めに、以下は部分縫のときの如く、待針を打ち、衿附をなし、其れより、衿先を縫ひ、衿縮(衿肩明の所を成るべく小針に縮け附くべし)。をなして、躰をかけ、終りて、表裏の脊縫を、裾口より中程まで、綴ち合すなり。

〔設問〕

(1) 本裁女綿入羽織の標附け方を説明せよ。

(2) 本裁女綿入羽織の衿の折り方を説明せよ。

第十八章 本裁男綿入羽織

第一 本裁男綿入羽織普通仕立上げ寸法

袖附……袖丈と同寸 身丈……〔着丈の凡そ四分の三〕 襠幅……二寸

衿幅……二寸

其の他は、本裁女綿入羽織の普通仕立上げ寸法につきて、述べたるが如し。

第二 本裁男綿入羽織裁ち方 積り方

裁ち方に於ては、衿肩明を二寸六分とし、内廻しを五分とするを通常とす。其の他は本裁女綿入羽織に同じ。

並幅二丈八尺にて男綿入羽織の積り方
(袖丈一尺四寸五分上り身丈二尺七寸)

$$\{ \text{用布の總尺} - (\text{袖丈} \times 4 + \text{衿丈} + \text{前後の差} \times 2) \} \div 4 = \text{後丈}$$
$$\{ 280 - (15 \times 4 + 64 + 5 \times 2) \} \div 4 = 36.5$$

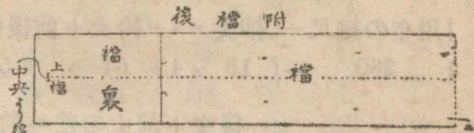
$$\text{後丈} + \text{前丈の差} = \text{前丈}$$
$$36.5 + 5 = 41.5$$

同裏布の積り方

$$\text{袖丈上り} \times 8 + \text{身丈} \times 10 + \text{總縫ひ代} - \text{表用布の總尺} = \text{裏用布の總尺}$$
$$14.5 \times 8 + 27 \times 10 + 26.4 - 280 = 132.4$$

$$\text{裏用布の總尺} - \text{袖丈} \times 4 = \text{胴裏の總尺}$$
$$132.4 - 15 \times 4 = 72.4$$

本裁男綿入羽織襟の標付け方

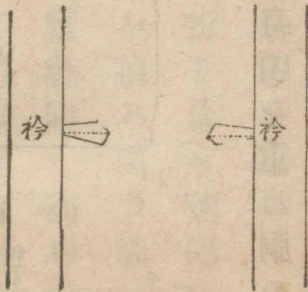


第三 本裁男綿入羽織標付け方縫ひ方順序

一、標付け方 概ね本裁女綿入羽織(身八つ口を除く)に同じ。但し、襟の標付け方は、上圖の如く、襟の上幅を一分とし、下幅の中央より後方へ、其の一分を計りて、前後襟付けの標を附くべし。

二、縫ひ方 袖附の外は總て本裁女綿入羽織に同じ。袖附 表の袖山と肩山との幅標を合せ、丈を揃へて待針を打ち、袖にて身頃を挟み、袖附標の所を二本の絲にて極めて浅く抄ひ、四つ留めになし、一本を切りて、其の端を他の二本に撚り合せ置き、残れる一本にて、袖を見て縫ひ、附の始め終りと袖山とは一針返し、其の他は小針に附け廻し、被せを浅

男羽織乳の付け方



乳の付け方(男物)

くして、袖の方へ折り、引き返し、裏袖も表袖と同じく標を合せ、身頃にて袖を挟み、袖附留めをなし、付け終りて、身頃の方へ折るなり。

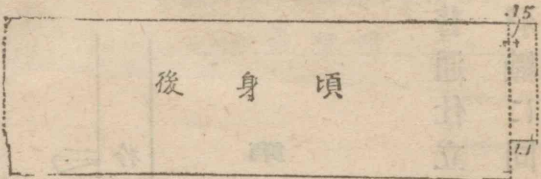
[注意] 乳の向きは、上圖に示せるが如く、女物とは反對なり。

第十九章 本裁裕羽織

第一 本裁男裕羽織

普通仕立上げ寸法裁ち方積り方標付け方は、總べて本裁男綿入羽織に同じ。但し、前下りは左圖の如く標し、衿には合標をなすべし。

本裁男衿羽織前下りの標付け方



衿の標付け方



縫ひ方

- 一、袖 裏袖に袖口切れを掛け、袖口の表裏を合せて縫ひ、袖幅の標をなす。
- 二、胴接ぎ前下り 前後の胴接ぎをなし、胴裏の方へ折りて、襷を掛け、次に前下りを、表は標通り、裏は標より一分内を、前幅標まで縫ひ、裏の方へ折り、引き返して表を五厘ふかせ、裏の方を見て、表裏共に襷を掛く。
- 三、脊縫後禮附 表を中にして二枚の後身頃を重ね、胴の接ぎ目を合せ、裾を揃へ、衿肩明を右にし、裏布を向ふに折り重ね、衿肩明の方より、脊を一針抜きに、四つ縫ひになし、表布の方へ折る。

- 四、前綴乳附 前身の衿附を表裏合せ、表幅を稍張り目に、針を打ちて綴ち、乳を附く。
- 五、衿附 本裁男綿入羽織の如く待針を打ち、前身頃を狭く畳み、之れを衿にて包み、合標を合せ、衿先より始めて、一針抜きに縫ひ上げ、衿山より四寸の合標の所に一針留め、其れより、衿の輪の方と身頃とを縫ひ合せ、平烙鍔を掛け、衿先を縫ひ、縫ひ込みを綴ち付け、上部より引き返して、其の所を紘け、折り目をよく整へ、襷を掛く。此の仕方を袋附又は鐵砲附といふ。

六、袖附 表袖と表身頃との山標を合せて、袖附をなし、(始め終り共に袖附標より五厘程縫ひ残す)袖の方へ折り、次に裏袖と裏身頃との山標を合せ、双方共縫ひ込みを開きたるまゝ、前袖附標より四五寸の所まで縫ひ、身頃の方へ折り、引き返して表を出し、男袷の如く、袖口に四つ留めをなし、袖口下を縫ひ、袖附に七つ留めをなし、袖下及び袂の丸みを縫ふ。

七つ留め 先づ、表の前身頃より始め、内外の袖後身頃次に、裏の外袖後身頃、内袖裏の前身頃を除く)の順序に七枚を抄ひて結び留むるなり。(裏袖は、袖附標の所にて、袖下を三角形に折り返し置くべし)

七、前襠附 前身頃にて前襠を挟み、裾を揃へ、標を合せ、一針抜きに縫ひ付け、表身頃の方へ折り、引き返して表を出し、後ち、裏袖

附の縫ひ残したる所を締め、男袷の如く、袖に躡をかき、

〔注意〕 八つ留め 袖附留めを八つ留めになすことあり。其の仕方は、七つ留めと同じ順序に抄ひ、尚ほ裏の前身頃をも加へて、八枚を抄ひ留むるなり。

〔設問〕

- (1) 本裁羽織の裏用布を求むる方法を問ふ。
- (2) 本裁男袷羽織の縫ひ方順序を述べよ。
- (3) 本裁男袷羽織の袖附留めの順序を説明せよ。

第二 本裁女袷羽織

普通仕立上げ寸法、裁ち方、積り方及び標付け方は、總べて本裁女綿入羽織に同じ。但し、前下りの標袷の合標の付け方は男袷羽織に同じ。

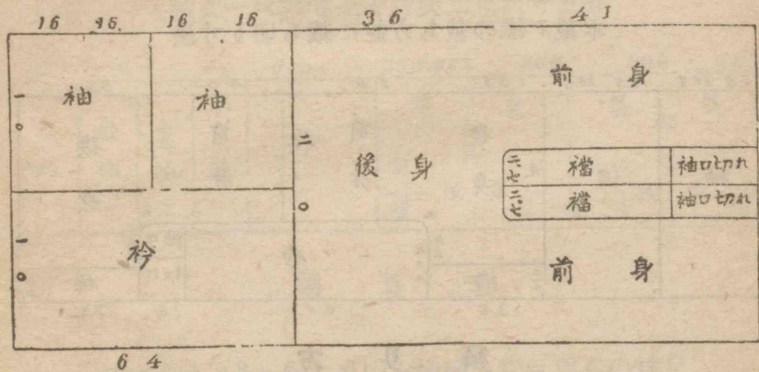
縫ひ方は概ね本裁男袷羽織に同じ。左に其の異なる所を述

ふべし。

先づ、本裁女袴と同じく袖を縫ひ、次に、本裁男袴羽織と同じく胴接ぎをなし、前下りを縫ひ、脊縫をなし、襜裏を接ぎ、襜の上幅を表裏縫ひ合せ、後身にて後襜を挟み、四つ縫ひになし、身八つ口標の所にて絲留めをなし、引き續きて、身八つ口を縫ひ、前綴をなし、衿を付け、前身にて襜を挟み、後襜と同様に身八つ口まで縫ひ、其れより、本裁女袴に倣ひて袖附を留め、表袖を縫ひ付け、袖の方へ折り、裏袖を、前身の袖附留めの三四寸上まで縫ひ、一針留め、身の方へ折り、縫ひ残りより表へ引き返し、其の部分に拵り附くるなり。

第三 本裁羽織各種裁ち方・積り方

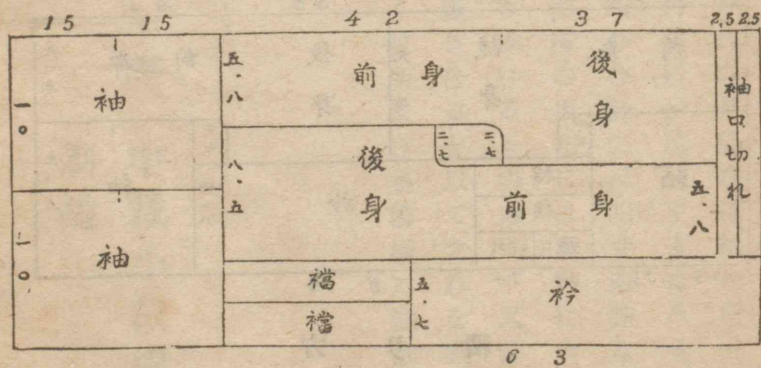
二尺幅にて本裁羽織の裁ち方並に裁ち切り寸法



積り方

袖丈×4+後丈×2+前後の差=用布の總尺
 $16 \times 4 + 36 \times 2 + 5 = 141$

二尺幅にて本裁羽織の裁ち方並に裁ち切り寸法

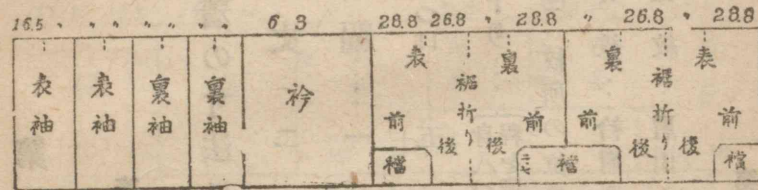


積り方

(袖丈+後丈+袖口切の幅)×2+前後の差=用布の總尺
 $(15 + 37 + 2.5) \times 2 + 5 = 114$

並幅にて本裁女無双羽織の裁ち方並に裁ち切り寸法

(袖丈一尺六寸上り身丈二尺六寸五分)



積り方

袖丈上り×8+身丈×10+總縫ひ代=用布の總尺

$$16 \times 8 + 26.5 \times 10 + 24.4 = 417.4$$

第二十章

中裁小裁綿入

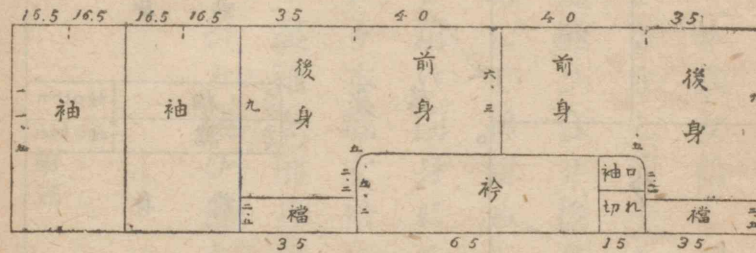
羽織

[注意]

- (1) 總縫ひ代の見込みは、袖に四寸、衿肩廻し及び衿先に一尺、前下りに八寸、三つ衿に二寸四分、合計二尺四寸四分なり。
- (2) 無双羽織の用布には裏袖に口切れの分を染め抜けるものあり。又身頃は表裏引き續きなるを以て、之れを裁ち切るには、よく紋所及び裏模様は注意すべし。

一尺一寸五分幅にて

本裁袴織の裁ち方並に裁ち切り寸法

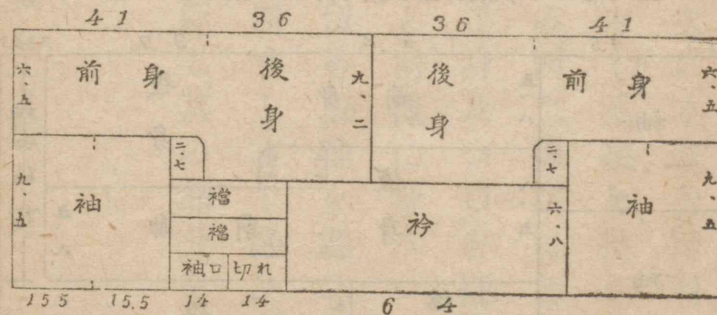


積り方

(袖丈+後丈)×4+前後の差×2=用布の總尺

$$(16.5 + 35) \times 4 + 5 \times 2 = 216$$

一尺六寸幅にて本裁羽織の裁ち方並に裁ち切り寸法



積り方

後丈×4+前後の差×2=用布の總尺

$$36 \times 4 + 5 \times 2 = 154$$

第一節 四つ身綿入羽織

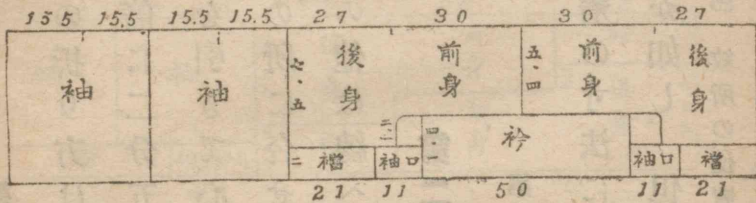
第一 四つ身綿入羽織普通仕立上げ寸法

長着の寸法により凡そ左の如く増減すべし。

- 袖丈...二分増
- 袖口...同
- 袖附...二分増
- 袖幅...一分増
- 身丈...〔着丈より三寸内外減〕
- 袖口...同
- 袖附...二分増
- 身八つ口...五分減
- 後幅...同
- 前下り...六・七分
- 乳下り...〔身八つ口の中程を標準とす〕
- 襟幅...〔上五分下衿幅と同寸〕
- 衿幅...二分増
- 〔注意〕 紋所の位置は凡そ左の如し。
- 脊紋...衿肩明より一寸四五分(裁ち切り)
- 抱紋...肩山より三寸三分
- 袖紋...袖山より一寸七分

第二 四つ身綿入羽織裁ち方積り方

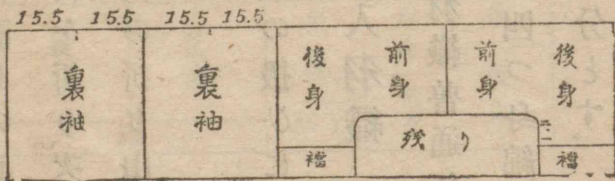
並幅一丈七尺六寸にて四つ身羽織の裁ち方並に裁ち切り寸法
(袖丈一尺五寸上り身丈二尺二寸)



積り方

$$\begin{aligned} \text{用布の總尺} - (\text{袖丈} \times 4 + \text{前後の差} \times 2) \div 4 &= \text{後丈} \\ 176 - (15.5 \times 4 + 3 \times 2) \div 4 &= 27 \\ \text{後丈} + \text{前後の差} &= \text{前丈} \\ 27 + 3 &= 30 \end{aligned}$$

同裏布の裁ち方並に裁ち切り寸法



積り方

$$\begin{aligned} (\text{袖丈上り} + \text{身丈}) \times 8 + \text{總縫ひ代} - \text{表用布の總尺} &= \text{裏用布の總尺} \\ (15 + 22) \times 8 + 15.2 - 176 &= 135.2 \end{aligned}$$

〔注意〕 總縫ひ代の見込みは袖と身頃
に各四寸前下りに四寸
八分、三つ衿
に二寸四分、
合計一尺五
寸二分なり。

第三 四つ身綿入羽織標付け方縫ひ方順序
 衿の折り方は、先づ、表布に半幅許りの心切れを綴ち置き、衿幅の二倍に二分五厘を加へて外衿を折り、次に、其の幅より二分五厘弱を引きて、心切れを折り、又其の折り山を、裁ち目の方より六分内の所に合せて折るなり。

其の他は總べて本裁綿入羽織の扱ひに同じ。

第二節 三つ身綿入羽織

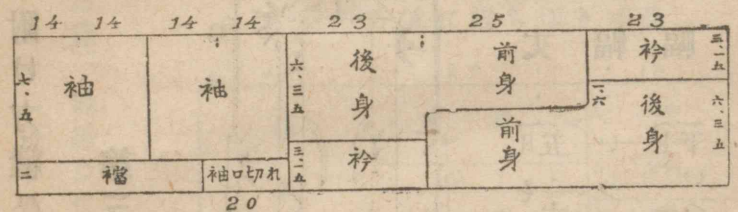
第一 三つ身綿入羽織普通仕立上げ寸法

長着の寸法に據り、其の増減は四つ身綿入羽織につきて述べたるが如し。但し前下りは五六分とす。

〔注意〕 紋所の位置は凡そ左の如し。

脊紋……衿肩明より一寸二三分 抱紋……肩山より三寸 袖紋……袖山より一寸五分

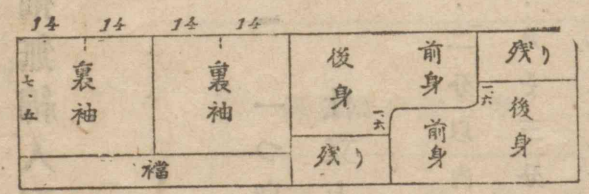
並幅一丈二尺七寸にて三つ身羽織の裁ち方並に裁ち切り寸法
 (袖丈一尺三寸五分上り身丈一尺七寸)



積り方

$$\begin{aligned} & \{ \text{用布の總尺} - (\text{袖丈} \times 4 + \text{前後の差}) \} + 3 = \text{後丈} \\ & \{ 127 - (14 \times 4 + 2) \} + 3 = 23 \\ & \text{後丈} + \text{前後の差} = \text{身丈} \\ & 23 + 2 = 25 \end{aligned}$$

同裏布の裁ち方



積り方

$$\text{袖丈上り} \times 8 + \text{身丈} \times 6 + \text{總縫代} - \text{表用布の總尺} = \text{裏用布の總尺}$$

$$135 \times 8 + 17 \times 6 + 10.8 - 127 = 93.8$$

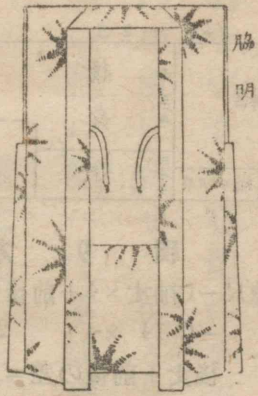
〔注意〕 總縫ひ代の見込み左の如し。
 袖 ……四寸
 身頃 ……三寸
 前下り ……二寸
 三つ衿 ……一寸八分
 合計 ……一尺八分

第二 三つ身綿入羽織裁ち方積り方

標附け方縫ひ方順序は何れも四つ身綿入羽織に同じ。

第三節 一つ身袖無綿入羽織

袖無羽織の圖

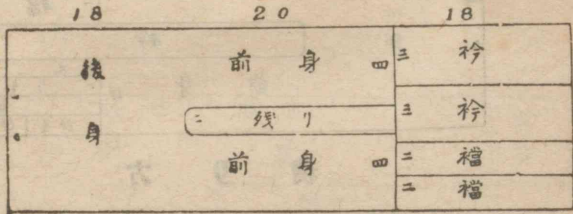


第一 一つ身袖無綿入羽織普通
仕立上げ寸法

身丈...凡そ一尺
身幅...いつばい
脇明...凡そ五六寸
肩線り越し...二分以内
前下り...凡そ三分
紐附...脊より六寸
襠幅...下上いつばい
衿幅...凡そ一寸一分

第二 一つ身袖無綿入羽織裁ち方積り方

一尺幅にて袖無羽織の裁ち方並に裁ち切り寸法

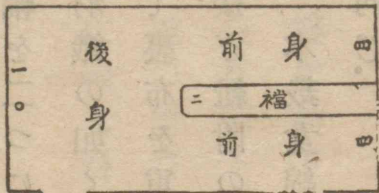


積り方

後丈+前丈+衿丈=用布の總尺

18 + 20 + 18 = 56

同裏布の裁ち方



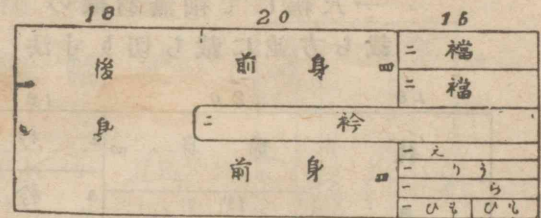
積り方

身丈×4+衿丈+總縫代-表用布の總尺=裏用布の總尺

15 × 4 + 18 + 5.2 - 56 = 27.6

〔注意〕 總縫ひ代の見込みは身頃に二寸、前下りに二寸、三つ衿に一寸二分、合計五寸二分なり。

一尺幅にて袖無羽織の裁ち方並に裁ち切り寸法



積り方

後丈+前丈+襠丈=用布の總尺
 $18 + 20 + 15 = 53$

裏布の積り方

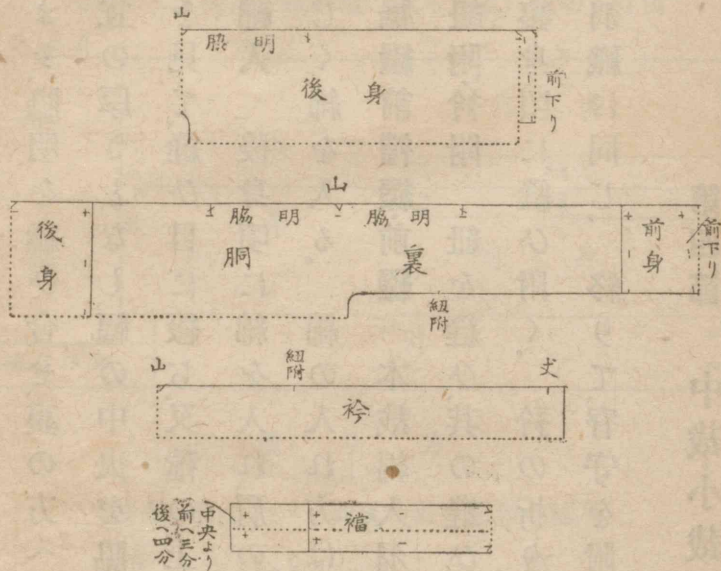
身丈×4+襠丈+總縫ひ代-表用布の總尺=裏用布の總尺
 $15 \times 4 + 15 + 5.2 - 53 = 27.2$

第三 一つ身袖無綿入羽織標付け方

- 一、身頃 表裏共に表を中にして幅を二つに折り、本裁女綿入羽織の如く、表布の丈を定めて裏布を重ね、山・脇明・身幅胴接ぎ・紐附の標を附く。
- 二、襠 本裁女綿入羽織の扱ひに同じ。
- 三、衿 四つ身綿入羽織の扱ひに同じ。

第四 一つ身袖無綿入羽織の縫ひ方順序

一つ身袖無綿入羽織の標付け方



- 一、胴接ぎ前下り襠附脇明 胴接ぎ前下りの縫ひ方及び襠の付け方は、總べて本裁女綿入羽織の扱ひに同じ。
- 脇明の表裏を揃へ、表布の幅標の一分外と裏布の幅標の一分内とを合せて、脇明標より一寸許りは斜

に待針を打ち、脇明標を四つ留めになし、襦の上部を縫ひ、其れより、脇明を縫ひ合せ、裏の方へ折り、凡そ一寸五分幅の綿を適宜の厚さとなし、幅の中央を脇明の表布の縫ひ目に當て、裏布を見て、縫ひ目に綴ち、又襦の上部にも同じく綿を綴ち附く。

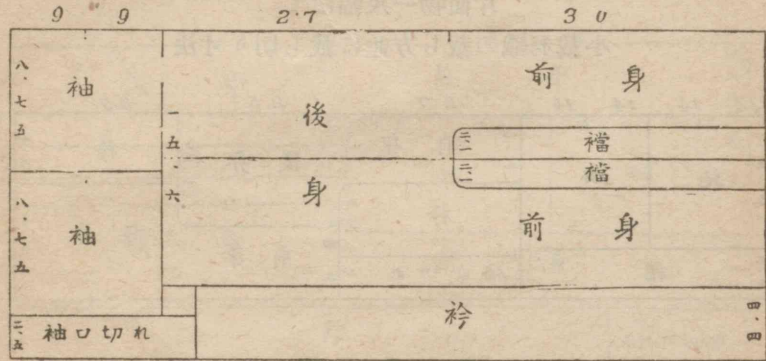
二、綿入 後身頃に綿を入れ、肩の所より引き返し、前身頃にも同じく綿を入れる。綿の入れ方は畧、本裁女綿入羽織の時に同じ。

三、裾綴前襠綴前綴 本裁綿入羽織に同じ。

四、紐附衿附 紐を縫ひ、其の縫ひ目を紐裏の中央として、之れを裏身頃に縫ひ附く。衿の折り方、附け方は總べて四つ身綿入羽織に同じ。終りて、脊守を附け、肩揚をなすなり。

第四節 中裁小裁羽織各種裁ち方積り方

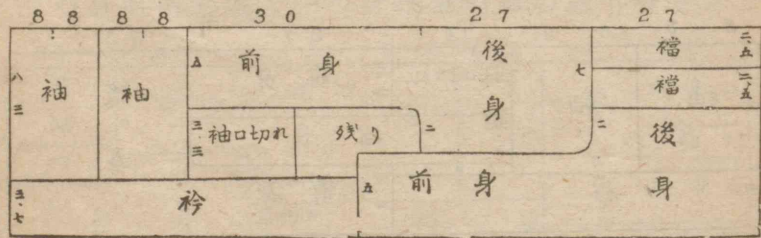
二尺幅にて元祿袖中裁羽織の裁ち方並に裁切り寸法



積り方

(袖丈+後丈)×2+前後の差=用布の總尺
 (9 + 27)×2+ 3 = 75

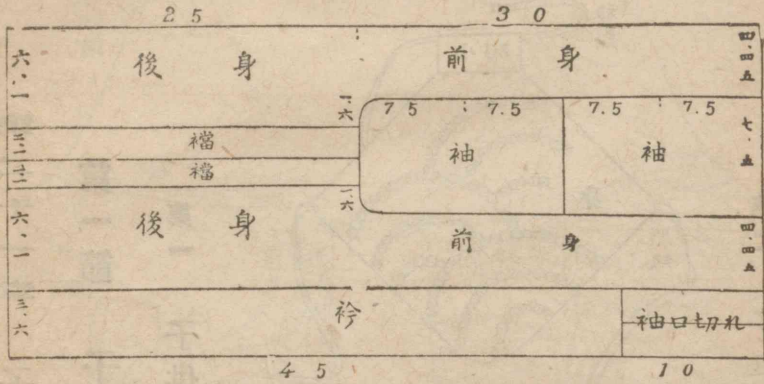
片面物一尺二寸幅にて中裁羽織の裁ち方並に裁切り寸法



積り方

袖丈×4+後丈×3+前後の差=用布の總尺
 8 ×4+ 27 ×3+ 3 = 116

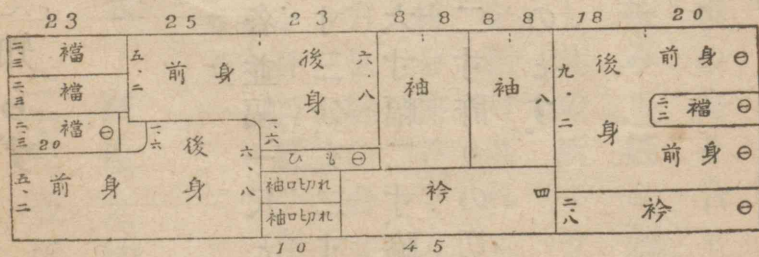
片面物二尺幅五尺五寸にて
小裁羽織の裁ち方並に裁ち切り寸法



積り方

前丈 - 前後の差 = 後丈 (用布の總尺 + 前後の差) ÷ 2 = 前丈
 $30 - 5 = 25 \quad (55 + 5) ÷ 2 = 30$

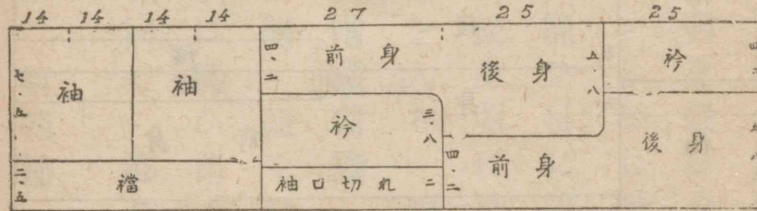
片面物一尺二寸幅にて
三つ身筒袖羽織と一つ身袖無羽織の裁ち合せ方



積り方

三つ身丈 × 4 + 三つ身後丈 × 3 + 一つ身後丈 × 2 + 前後の差 × 2 = 用布の總尺
 $8 × 4 + 23 × 3 + 18 × 2 + 2 × 2 = 141$

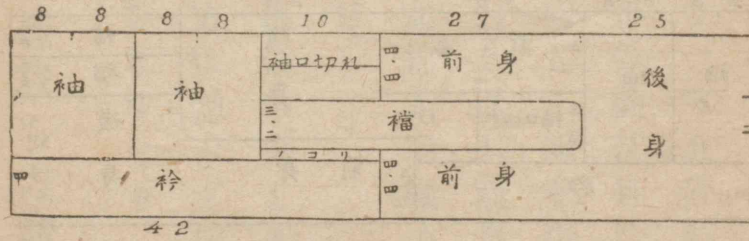
片面物一尺幅にて
小裁羽織の裁ち方並に裁ち切り寸法



積り方

袖丈 × 4 + 後丈 × 3 + 前後の差 = 用布の總尺
 $14 × 4 + 25 × 3 + 2 = 133$

片面物一尺二寸幅にて
元祿袖小裁羽織の裁ち方並に裁ち切り寸法



積り方

袖丈 × 4 + 身丈 × 2 + 袖口切れ + 前後の差 = 用布の總尺
 $8 × 4 + 25 × 2 + 10 + 2 = 94$

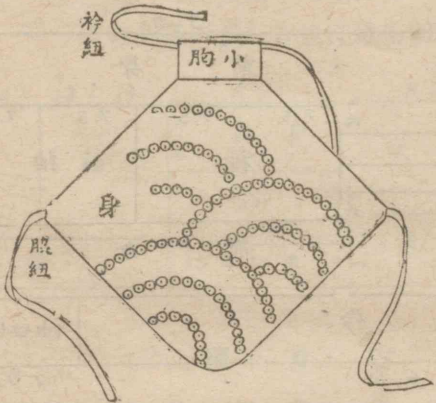
第二十一章 子供腹掛・寝冷え知らず

第一節 子供腹掛

第一 子供腹掛裁ち方

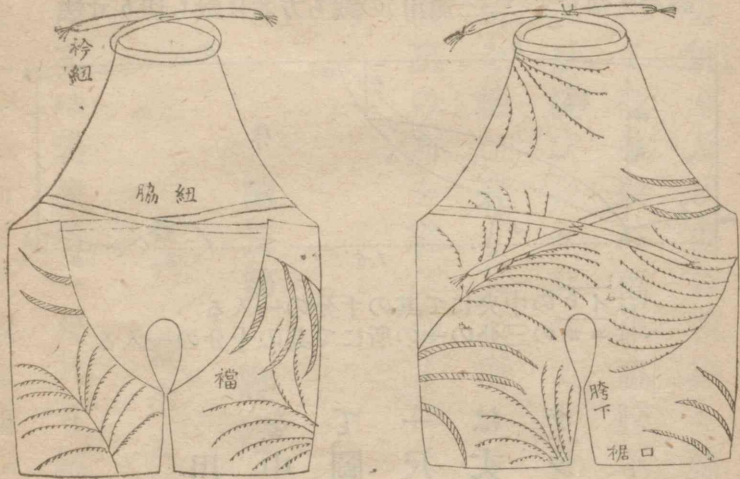
身は表裏各、並幅一尺とし、小胸は表裏各、幅二寸三分、丈二寸とす。衿紐には丈五六寸幅二寸、脇紐には丈一尺五寸幅二寸許りの切れ、各二枚を用ふるものとす。

子供腹掛の圖



第二 子供腹掛縫ひ方順序

寝冷え知らず(二・三歳用)の圖

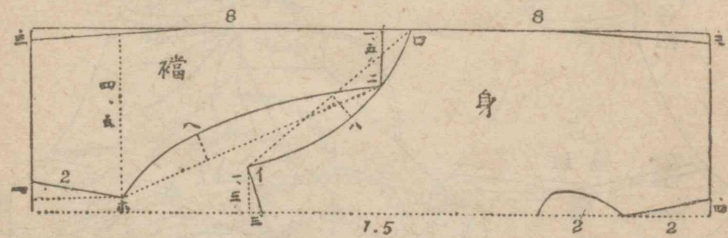


先づ、衿紐、脇紐各二本を拵け置き、次に、表裏の身を合せ、左右の角に脇紐を挟みて、縫ひ廻し、小胸附近二寸を残し、其の所より引き返し、廻りに躡を掛け、其れより、小胸の上角に衿紐を挟み、下方だけ残して、他の三方を縫ひ合せ、引き返し、小胸の表を身に縫ひ付け、裏を拵け、附くるなり。

第二節 寝冷え知らず

(二・三歳用)

並幅一尺六寸にて
寝冷え知らず(二・三歳用)の裁ち方並に裁ち切り寸法



ハはイロの中央にて其の十分の一入る
ヘはニホの三分の一の所にて其の十分の一入る

第一 寝冷え知らず(二・三歳用)
裁ち方

用布は表裏各、並幅一尺六寸とし、各表を中にして幅を二つに折り、二枚を重ねて、圖の如く裁ち切るべし。脇紐には丈一尺六寸幅一寸許りの切れ二枚、衿紐には丈一尺五・六寸幅八分許りの切れ、又はテップを用ふるものとす。

第二 寝冷え知らず(二・三歳用)
縫ひ方順序

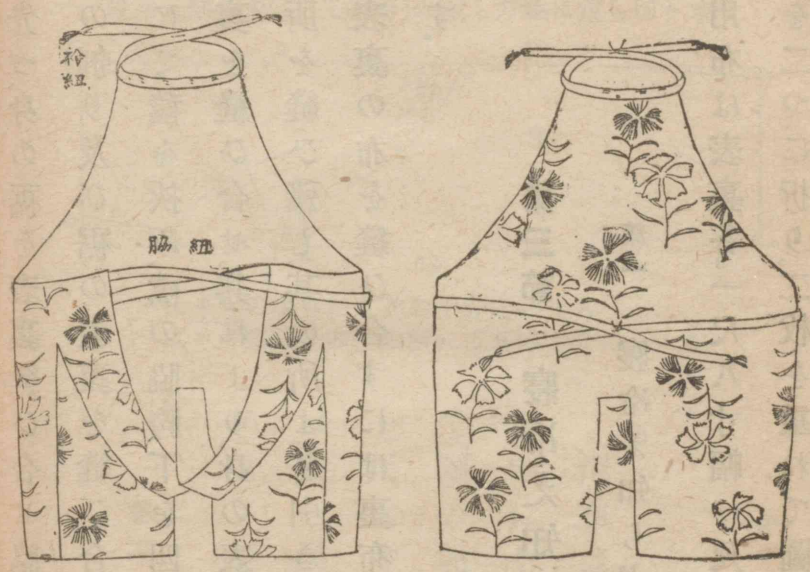
先づ、身の裾を表裏縫ひ合せ、脇紐を襦の上部に挟みて、襦の上部の刳り及び裾の表裏を縫ひ合せ、裏布の方へ折り、次に、身の表裏にて襦を挟み、襦の脇胯下を四つ縫ひになし、前明刳り落しの所を縫ひ合せ、其れより、身の表裏を上方まで縫ひ行き、衿紐附の所を縫ひ残り、其の所より引き返して、衿紐を附くるなり。表裏の布を縫ひ合すには、裏布の縫ひ代を較、深くするをよしとす。

第三節 寝冷え知らず(五・六歳用)

第一 寝冷え知らず(五・六歳用)裁ち方

用布は表裏各、一尺八寸幅一尺六寸五分とし、各表を中にして幅を二つに折り、二枚を重ねて、圖の如く裁ち切るべし。脇紐に

寝冷え知らず(五・六歳用)の圖

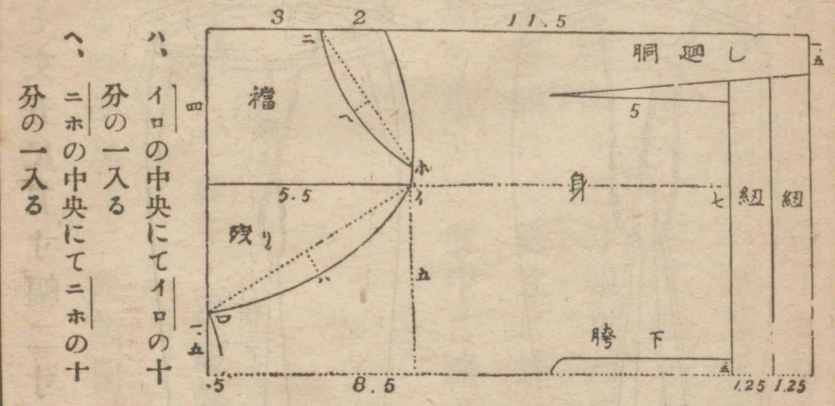


は丈一尺八寸幅一寸許りの
切れ二枚衿紐には二尺許り
の切れ、又はテップを用ふる
ものとす。

第二 寝冷え知らず(五・六
歳用)縫ひ方順序

先づ、身及び襠の裾を縫ひ
合せ、身の左右の左上角に脇紐
を付け、其れより、左右共に胴
廻しの外側より上方まで縫
ひ廻し、身の表裏にて襠を挟

一尺八寸幅一尺六寸五分にて
寝冷え知らず(五・六歳用)の裁ち方並に裁ち切り寸法



ハ、イロの中央にてイロの十
分の一入る
ヘ、ニホの中央にてニホの十
分の一入る

みて、脇及び膝下を四つ縫ひになし、
表に返し、次に、胴廻しの表布を襠の
表裏に重ね、三枚を膝下の上端まで
縫ひ合せ、胴廻しの裏を襠裏に拵け
付け、胴廻しの先は前明剝り落しの
所にて、右を下に左を上重ねて、表
裏の身の間に挟み、恰好よくまつり
付け、後ち、衿紐を附くるなり。

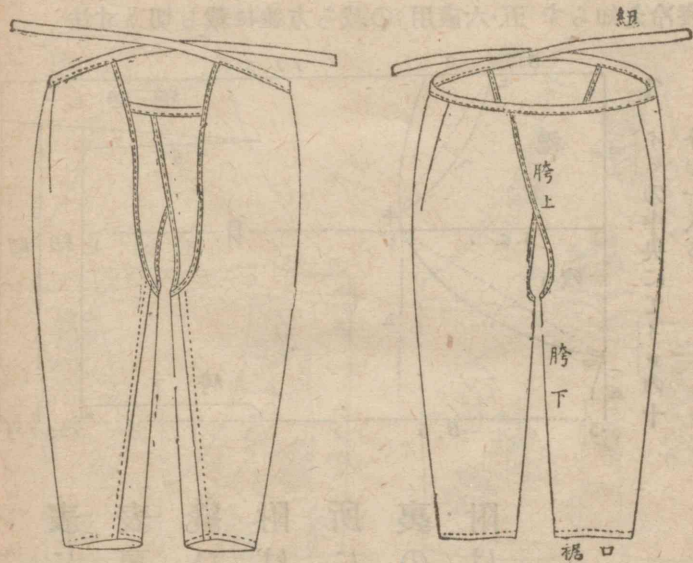
第二十二章 婦人股引

第一 婦人股引

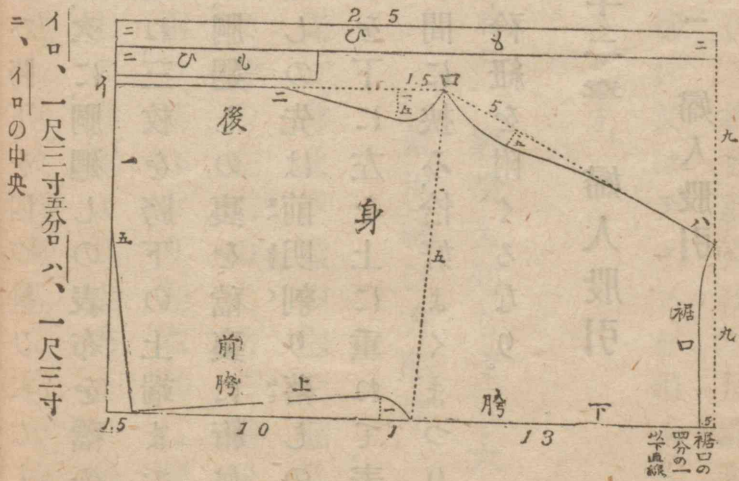
用布の總尺は二尺幅五尺とし、紐

は凡そ丈五尺五寸幅二寸許りとす。其の裁ち方は左の如し。

婦人股引の圖



二尺幅五尺にて婦人股引の裁ち方並に裁ち切り寸法

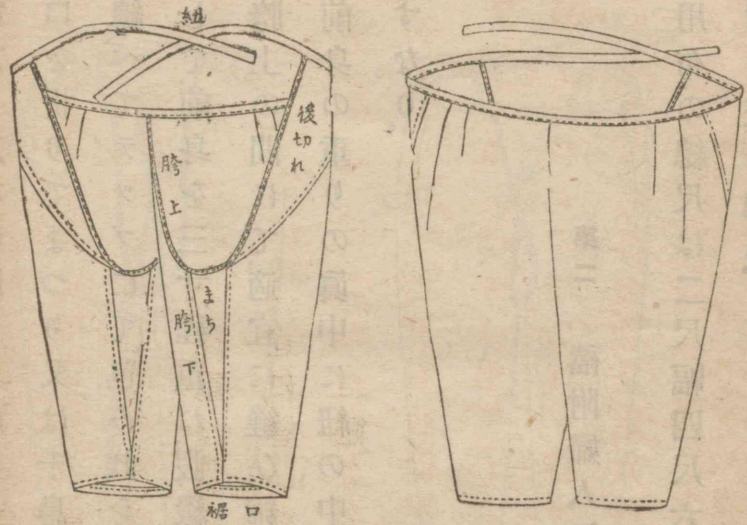


縫ひ方 左右の胯下を縫ひ合せ、前身の方へ折り伏せてまつり、裾口を折りて、まつり又は千鳥掛けになし、前後の胯上の裁ち目は、總へてテツブにて包み、襷を掛け、木返しに縫ひ、次に、左脚を上にして、前身を三寸程重ね、假綴をなし、胴廻りの餘分は、兩脇より後胯上の間にて、適宜に縫ひ締め又は襷を取り、其れより、紐を接ぎ、前身の重りの真中に紐の中央を合せて、紐を縫ひ、付け、紐緒をなすなり。

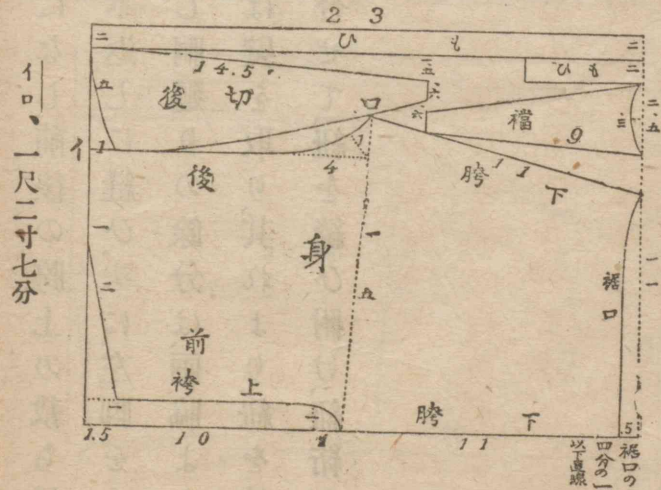
第二 襠附婦人股引

用布の總尺は二尺幅四尺六寸とす。紐は前に同じ。其の裁ち方は左の如し。

襠附婦人股引の圖



二尺幅四尺六寸にて襠附婦人股引の裁ち方並に裁ち切り寸法



縫ひ方 先づ、襠の一方を後身の胯下に縫ひ付け、身の方へ折り伏せてまつり、次に、襠の他方を前胯下に縫ひ、襠以下は前後の身を縫ひ合せ、縫ひ代を前身の方へ折り伏せてまつり、裾口を折って、まつり又は千鳥掛けになし、後切れの斜裁ハカマの方を後胯上に縫ひ付け、後切れの方へ折り伏せてまつり、前後の胯上の裁ち目を總べてテツブにて包み、躰をかけ、本返しに縫ひ、左脚を上にして、前身を二寸五分程重ね、假綴をなし置き、後の重なりを六寸許りとし、胴廻りの餘分は兩脇より後胯上ハカマの間にて縫ひ締め又は襷を取り、其れより、紐切れを接ぎ、紐丈の中央を前身の重なるの真中に合せて、之れを縫ひ付け、後ち、紐緒をなすなり。

第二十三章 手提

第一 輕便手提

用布は表裏各幅六寸丈九寸五分とし、打紐は細太とも丈二尺五寸許りとす。

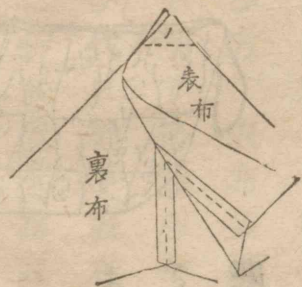


輕便手提の圖

表布を二つ折になし、二分の縫ひ代に兩脇を縫ひ、縫ひ目を割りてよく烙鏝を掛け、上部を二分に折り、次に裏布の兩脇を二分五厘の縫ひ代に縫ひ、縫ひ目を割り、上部を二分五厘に折り、左圖の如く底を合せ、幅一寸の所を表裏共に縫ひ合せ、縫ひ目を向ひ合せて折り、表を引き返し、口を締め、口の兩側を十二等分して標を付け、細き打紐にて、先づ針を脇の縫ひ目より入れて裏へ出し、縫ひ目を跨ぎ、五厘許り離して裏より表へ

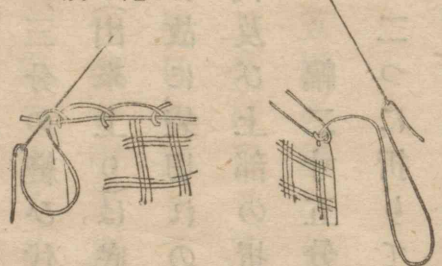
出し、其の絲を輪に通して引き締め、其れより、左圖の如く縫ひ、太き打紐を交互に通し、先を結び置くなり。

底の合せ方

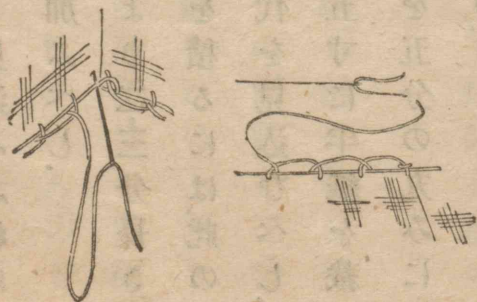


口の縫ひ方

第一 縫ひ始め 第三 中央縫ひ目の所の縫ひ方



第二 途中の縫ひ方 第四 縫ひ終り



第二 輕便底附手提

用布は表裏各幅七寸五分丈一尺五寸とし、打紐は細太とも三

尺許りとす。

積り方 袋切れの總幅を積るには、底の周圍を計り、弛みを、表布

は二分五厘裏布は一分五厘と見込み、之れに一分五厘つつ三分の縫ひ代を加ふべし。

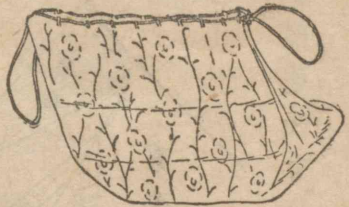
袋の高さ(出來上り)は底丈より二三分長きをよしとす。故に、袋切れの丈を積るには、此の高さに縫ひ代及び上部の折り代を見込むべし。

底の裁ち方 幅二寸五分丈五寸に半紙を裁ち、

幅を二つに折り、又次に丈を二つに折りて、角を五分の丸みに裁ち落し、此の型紙に倣ひて、ボール紙を裁つなり。

底の貼り方 表裏共底型より五分通り大きく布を裁ち、底型のボール紙に、糊を平に引き、表布を手の平にて能く貼り、次に、裏布

圖の手提附底便輕



に糊をつけ、底型の上ののせて、貼り付け、底の厚みだけ裏布を押し下げ、能く烙鏝にておさへ、周圍を表布に貼り合せ、縫ひ代を二分残して裁ち切るなり。裏底型の上には表裏とも烙鏝を掛けず、自然に乾くを待つべし。

縫ひ方 表布の兩脇を一分五厘の縫ひ代に、返し針に縫ひ、縫ひ目を割り、烙鏝をかけ、上部を二分に折り、又裏布の兩脇を二分の縫ひ代に縫ひ、表布と同様縫ひ目を割りて烙鏝をかけ、上部を三分に折り置き、裏底の縫ひ代へ糊を引き、裏布の縫ひ目を底幅の中央に合せ、周圍を貼り附く。底の丸みの所つれかげんときは、裏布へ切り込みを入れて貼るべし。其れより、表布を表底の廻りにあて、裏布を見て、底の際を返し針に附くるなり。附け終らば表を上に戻して口を紘け、兩側を十二等分して、輕便手提の

如く、細き打紐にて縫り、太き打紐を通すなり。

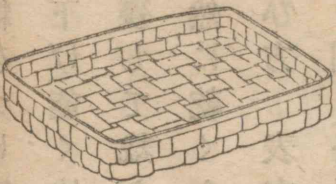
籠千代田の圖



第三 籠千代田

用布は表裏各幅八寸五分丈四寸八分二枚とし、別に縁切れとして幅八分丈二尺許りを要す。打紐は細太とも丈三尺三寸許りとす。積り方 籠の丈を布の丈とし、籠の周圍を計り、之れに縫ひ代を加へて、布の總幅を見積るべし。然る時は、出來上りの高さは、籠丈より二三分長くなるなり。但し、籠丈四寸以下の時は、籠丈と同寸に出來上るやう見積るべし。打紐の丈は細太ともに口廻りの二倍と見積るべし。

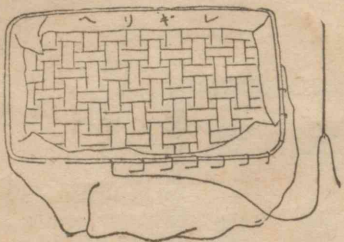
籠の圖



縫ひ方 先づ、表裏の口を合せて縫ひ、裏布の方へ折り、兩脇を二

分の縫ひ代に、返し針に縫ひ、縫ひ目を割り、能く烙鏝を掛け、口の所は少しく裏布を控へて、襷を掛け、下部も襷にて能く表裏をおさへ、表布に合せて布の不同を切り揃へ、口の兩側を、輕便手提の如く、十二分して縫り置き、其れより、裏を出し、脇の縫ひ目を籠幅

袋の付け方



の中央に合せ、籠を布の中に入れ、縁切れを籠の内側にあて、籠縁下の編目の間(若し籠に透き目なきときは、目打錐にて孔を穿ち置くべし)より針を通し、二本糸にて五六分の針目に附け、一針置き位に、籠縁の上に、糸を巻きつけ行くなり。角の所はつれぬやう緩めにあつるをよしとす。次に、縁切れを一ばいに折り返し、糊にて貼り附

け、引き返して表を出し、太き打紐を口に通すなり。

精華高等技術女子学校

水野 山根

裁縫新教科書 五巻終

大正七年八月十一日印刷
大正七年八月十四日發行
大正八年四月十五日訂正印刷
大正八年四月十八日再版發行

著者

共立女子職業學校 櫻友會裁縫研究部

發行者

東京市銀座一丁目廿二番地
大日本圖書株式會社

右代表者

專務取締役 宮川保全

印刷者

東京市小石川區久堅町百八番地
中西彦三郎



發行所

東京市京橋區銀座二丁目
振替口座東京二一九番

大日本圖書株式會社

裁縫新教科書 上巻

定價 金六拾貳錢
大正十年度臨時定價 金壹圓參拾六錢

枝二

少松年記

No.

五つ海

なごりなごりなごりなごり

行く舟はもろもろ波あらしか

暮らふ行くやういふ鳥もわいらうに思れたり

なごりなごりなごりなごり

あゆみ行く月うえに我が影の

音の姿を地上にうつたへり

夫

あゆみ行く月うえに我が影の

~~あゆみ行く月うえに我が影の~~

No.

袖丈 一尺三寸五分

袖幅 一尺五分

袖中 九寸

衣丈 三尺三寸五分

後中 七寸五分

前中 三寸

袴下 一尺七寸

袴上 五寸五分

アケ後 一尺二寸五分

イコキ 二尺上

衣丈 二尺八寸

後中 七寸五分

前中 四寸九分

袖丈 一尺三寸五分

袖中 九寸一分

袴中 一尺七寸

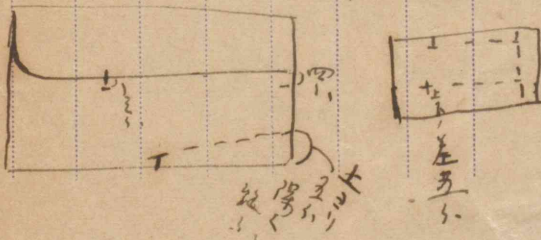
袴下 一尺二寸五分

折りカヘシ 三寸

袴上 一尺二寸五分

足付 八寸五分

前下 一尺二寸



一

身丈

三尺七寸五分

後中

八寸五厘

前中

七寸

肩行

一尺七寸五分

襟中

一尺八分五厘

袖口

一尺

袖中

三寸七分

襟下

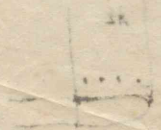
一尺七寸九分

二

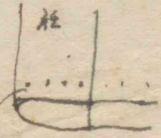
身丈

三尺四寸九分

肩明子 廿四寸



一、...
 二、...
 三、...
 四、...
 五、...
 六、...
 七、...
 八、...
 九、...
 十、...



柱
 三列上之左脚
 子物七之左

